異星人と超能力特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

地球救済活動を続ける異星人

南フランスの不思議なコンタクト事件

奇跡的に願望を実現させる方法

病気治療の宇宙哲学的応用

ブラザーズに助けられた？

ジョージ・アダムスキーと異星人

SPRING
1992

116

UFO contactee No.116 Hachiro Kubota, Editor/Publisher, GAP-Japan

CONTENTS 〈*Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness*〉

〈巻頭言〉異星人の援助 —— 1
地球救済活動を続ける異星人 —— 秋山眞人 2
〈写真〉円盤雲の正体は —— 5
南フランスの不思議なコンタクト事件 —— 中村省三 8
奇跡的に願望を実現させる方法 —— テッド・オーウェン 12
病気治療の宇宙哲学的応用 —— 高梨十光 20
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ —— 久保田八郎 23
江東区上空のUFO —— 森田久恵 24
〈写真〉カバー遺跡のUFO —— 抜迫英子 25
南九州支部からの声 —— 曽我部勇人 26
〈予告〉カナダ・イースター島宇宙ロードの旅 —— 27
GAP短信 —— 28
科学—SCIENCE —— 29
ブラザーズに助けられた? —— 藤沢清則 32
栃木支部UFO写真展／秋田支部UFO写真展 —— 34
日本GAP東京月例研究会セミナー —— 35
ジョージ・アダムスキーと異星人 —— アリス・ボマロイ 36
〈投稿欄〉ユーコン広場 —— 46
本誌バックナンバー掲載記事目録 —— 48
編集後記／英文版第7号 —— 49
〈広告〉新アダムスキー全集 —— 50
〈広告〉GAPグッズ —— 51
日本GAP全国月例研究会案内 —— 52

金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真
南カロライナ州の円盤
1980年4月4日、午後5時半から6時までのあいだ、ビル・ハーマンは戸隠の上空に出現した直径約12メートルの円盤に仰天し、手にしていたカメラで見事に撮影した。円盤は木の葉運動を続けていたが、ブーンという音を出すこともあった。

＜巻頭言＞

異星人の援助

UFOというのはUnidentifided Flying Object（未確認飛行物体）の略称である。筆者がこの言葉を知ったのは戦後の一九五〇年代後半のことであった。それ以前にはUFOなる言葉はなくて、もっぱら『空飛ぶ円盤』というような呼称が用いられていた。これはFlying Saucer（空飛ぶコーヒー台皿）という名称が起こる原動力となったケネス・アーノルドの功績によるものである。呼称はどうであれ、この地球上に太古から不思議な飛翔物体が目撃されていたことは各種の文献からみて間違いない。

しかし近代の科学の発達は人間の感性を鈍化させた嫌いがあり、大地や草木に精霊が宿ると信じた日本の古代人ほどの感性は退化したかの感がある。だから自分の目で目撃しないもの、物理的に検証されないものを一切信じてはならないという考え方が一般化してきた。

人間とは何なのか、宇宙とは何か、この疑問は永遠に続くものと思われる。一般地球人は地球というあまりにも狭い枠の中に閉じ込められているのあまり、大宇宙空間に包まれて自分が存在しているという事実を忘れているように思われるが、これは無理もないだろう。人間は通常肉眼による視野の世界しか意識しないからだ。

だが現実には地球人といえども宇宙空間の中で生きて存在しているからには、やはり〝宇宙人〟である。その意味では、他の惑星に住む人間だけを宇宙人と呼ぶのは不適切だろう。したがって我々は他星の人間を「宇宙人」とは言わないで「異星人」と呼んでいる。英語ではET、複数でspace peopleまたはspace brothersという。後者はアダムスキーの造語で、これは主として太陽系の惑星から来る人々を兄弟とみなすために用いられている。もちろん地球人よりもはるかに進化した人々を意味する。

少数のコンタクティーによると、我々の太陽系の惑星にはすべて人間が存在し、いずれも高度な発達を遂げており、しかも程度の低い地球人をひそかに援助しているという。そのために彼らは地球へ来て、正体を隠したまま地球人になりすまし、絶対に気づかれないように警戒しながら、各種の職業について、それとなく地球の諸状態の改善に尽くしていると伝えられている。特に核兵器を使用する大戦争の勃発を極力防止しているという。アダムスキーの高弟であったアリス・ポマロイ女史によると、女史がアダムスキーから聞いた話として、過去のキューバ危機やベトナム戦争などは、あわや核兵器使用による超巨大戦争にエスカレートしそうになったのだが、これをひそかに防止したのは異星人であるという。核兵器の大爆発は他の惑星群にまで悪影響を及ぼすからだ。

こうした秘話を全く信じない人が多いとすれば、それは本人の感覚の欠如ではなくて、他の惑星の文明を認めようとしない一般的な概念のワナに捕らえられているからだろう。人間が思想的なワナの犠牲になりやすいことは、旧日本軍の兵隊が軍人勅諭や戦陣訓などで徹底的に洗脳された例からみても分かるし、現代でもさまざまな概念や神話の網に縛られている例が多い。

だが世界の裏面で異星人から驚異的な情報を入手しながら人間の精神革命のために健闘している人もある。そしてそのような人達をひそかに援助して地球の向上に貢献している異星人のグループがあるという事実を知れば、この地球は完全に表裏の二面性を帯びた世界であると言えるだろう。表舞台と裏の楽屋の世界である。この楽屋では地球の質的向上のために可能な限りのプロジェクトが立案され遂行されている。核兵器による世界戦争の防止、宇宙開発、医学の発展その他あらゆる面での援助である。

しかし重要なのはスペースピープルにすべてを任せるのではなく、地球人みずからの努力でもってこの世界を改善することにある。スペースピープルはその手助けをしているにすぎない。責任は地球人にあると言えよう。

「核兵器廃絶などはなまぬるい。殺人用の道具であれば最後のピストル一挺ナイフ一丁に至るまで地球上から駆逐すべきである」というのが編者の持論である。こうして天国のような平和な世界の実現を「夢想」するのではなく、「そのイメージを描きながら、そのような想念波動を少なくとも日本人の一〇パーセントが放射し続ける」ならば、世界に画期的な変化が生ずるだろう。日本人の平和に対する想念力は抜群に強力であるからだ。

以上の絶対平和論は既成の宗教やイデオロギーと関係はない。地球と別な惑星との大差を比較した上で打ち出したものにすぎない。

非現実的だと？　そんなことはない。一人の平和想念波動放射は周囲の数十人に影響を及ぼす。その数十人が共鳴してそれぞれに波動を放射するならば、それは無限に伝播する。そして実社会に実際の変化が発生するのである。げんにその活動は或る楽屋から行なわれており、その結果、世界に軍縮の機運が生じたのである。

世界の諸問題に対する最大の敵は、人間の外界にあるのではなく内部に存在する。それは「恐怖心」という敵なのだ。

（久）

Space People Working to Save the Earth

地球救済活動を続ける異星人

★秋山眞人 by Makoto Akiyama

この記事は昨年九月二二日、東京で開催された日本GAP総会に出席のため来日したアメリカのUFO研究家ダニエル・ロス氏が、翌二三日にコンタクティーとして知られる秋山眞人氏と会見した対談録。ロス氏は『UFO―宇宙からの完全な証拠』（中央アート出版社刊）の著者として知られるアメリカ有数のアダムスキー派研究家。秋山氏は『異星訪問奇談』（絶版）に春川正一という仮名で出てくるコンタクティーであり超能力者としても名高い。長時間に及ぶ対談で最新の情報が次々と出て同席者に多大の感銘を与えた。（編者注＝コンタクティーというのは異星人とコンタクトした地球人のこと。スペースピープルとは異星人の意味）

地球人は闘争心を和らげつつある

ロス　現在、日本にはどれぐらいのコンタクティーがいて、どんな情報をもたらしていますか。

秋山　異星人は、私が以前にコンタクトしていた頃のようには頻繁に地球人とコンタクトしていません。なぜかといいますと、昔はなぜ異星人が会いに来るか、その意味が分からなかったのです。彼らが来る理由も分からなかった。なぜコンタクトしたのかも分からなかった。全体的にその意味が見えていなかったんです。

その頃は異星人は頻繁に地球に来て、「地球全体にはこれこれの事が起こっていて、このようになっている」と、一つ一つレクチャーをしてくれたんです。「地球人の心の中はこうなっている」とか――。そして、その解答を与えてくれるのではなくてヒントを与えてくれたわけです。それでスペースピープルに会うと、今回はこれこれの事柄で来たんだな、ということが分かるんです。

ロス　そうすると、今でもスペースピープルに会っているんですか。

秋山　ええ、会うには会いますが、大体に一カ月に一回かそこらで、しかもあまり長話はしません。たとえば、今回のソ連の情勢とか、中国の問題など、社会が大きく変革するときには混乱が生じますね。そうすると地球人の不安な波動が宇宙に放たれるわけです。それも何万人単位で――。そういう現象に関してはスペースピープルはひじょうに気にかけているんです。

そういうときには異星人はある程度頻繁に会いに来て、聞きます。「どう思うか」とか。そうすると私なりにいろいろと答えます。相手の質問は「あなたが今まで勉強したことと照らし合わせて、どのように考えるか」というようなことです。結局、ブラザーズが我々地球人をどのように見ているかというのと同じ視点を私に教えてくれようとするわけです。

とにかく彼らが今まで地球を見守ってきた結果、地球が危機的状態にあったのが避けられそうだという明るい要素が出てきたというわけです。たとえば一九六〇年代、七〇年代はひじょうに不安定な要素が沢山あったんです。下手をすると地球人自身の自虐的な不安定な要素をひじょうにたくさん心の中に持っていたわけです。それが今は安定する傾向にあるんです。

ですから地球人はいまや闘争をして相手の生命を封じるという波動を出さなくなったんです。これが最も大きな事です。

コンタクティーの使命

このことは、ここ二〇年ぐらいのあいだにはっきりしてきたんです。この闘争心が減少してきただけで、三〇年先の地球の運命はかなり方向が変わってきましたね。異星人はその点をひじょうに評価しています。

しかしそれで終わりになるのではなく、人間の進化というのは次々と新しい目標に挑戦するというか、熱意をもって遂行し続けることに進化の意味がありますから、異星人は「そうするとみんなにとって次の目標は何なのか」とアメリカや日本のコンタクティーに聞いているんです。コンタクティーというのは、地域から出している波動を代表する人みたいなもので、いわばサンプルみたいな役割を果たしているのです。

ロス　現在もなお、あなたのようなコ

ンタクティーが沢山いるのですか。

秋山　いると思います。ただし、ほとんどのコンタクティーは表面には出ないでしょう。

ロス　その人達とあなたは直接には面識はないのですか。

秋山　面識のある人もいます。最近は海外のコンタクティーからの連絡も多いですね。この前も中国に行って何人かのコンタクティーに会いました。あの共産主義国の中国でさえもコンタクティーがいるんです。そして素晴らしい学習をしているわけです。

ロス　いま日本には何人ぐらいのコンタクティーがいるんですか。

秋山　何年か前に異星人から聞いたときには、日本にはその頃異星人が一五〇〇人ぐらいいるということでした。日本人のコンタクティーは数千人単位でいますね。

ロス　その人達は何かの情報を世間にもたらそうとしているんですか。

秋山　私の場合はこんなふうにコトバで言ってしまいますが、しかしコトバで伝わることというのは、異星人の概念からいうと、あまり評価されていないんです。というのは、スペースピープルはテレパシーが発達していますから、コトバを必要としないので、物事の伝達の仕方というのはテレパシーが基準になっているんです。

　彼らはコンタクティーに対していろいろなレクチャーをするわけです。つまりいろいろな考え方を伝えたりします。一方、コンタクティー達は普通の人間として生活していますし、お酒も飲めばタバコも吸うのですけれども、ただ彼らの想念の中に異星人のイメージがあれば、それがほかの人達にも無意識に伝わるんです。そのような伝達が重要なんです。

　ただし混乱期にはいると地球人には精神安定剤が必要になってきます。たとえば病人が急に喘息の発作を起こした場合、それをヒーリングでパッと止めるのは力のいることですが、具体的に救うための効率的な方法です。それと同じように、コトバというトランキライザーは必要だという判断から、何年かに一度はコトバでもって異星人とのコンタクト体験を伝える役割をする人が出てくるわけです。

　それはいわば一つの持ち回りみたいな役目であって、「今度はお前に札が回ってきたぞ」というようなわけですが、それは次々と誰に回るのか、私達にも分かりません。それは地球の波動とマスメディアの動向などを調べながら彼らが行なっていることです。

ロス　あなたはまだそのコンタクティーとしての役割の札を持たされていると考えていますか。

秋山　あと一〇年ぐらいはコトバでしゃべるかもしれません。ただいままではマスコミに対してしゃべりすぎましたので、私自身そのために生活面で大変な目にあっているんです。スペースピープルからは「あなたの判断にもとづいてやりなさい」と言われましたけれどね。

地球を支配する疑心暗鬼

ロス　超能力の面では大丈夫であっても、異星人とのコンタクトになると、やはり大変なのですか。

秋山　そうですね。一般人にとって、空から来る得体の知れないもの（UFO）に対する無意識的な恐れというのが、まだ強いですね。日本語でいう「疑心暗鬼」というのはすごい力を持っています。つまり「疑心暗鬼」というエネルギーがあるんです。これはものすごく地球を強く支配しています。これがひとつ転ぶと闘争的な意識に変わってきます。それを促進するようなことは異星人にもできませんから、その点ではスペースピープルも気にかけているわけです。

　超能力、たとえば人間の持つ直感力とか念力とかを人間は本来持っていたのですが、ひじょうに古い時代に全地球レベルのカタストロフィー（大変動）があって、そのショックで地球人は記憶喪失になったんです。

　そのカタストロフィーの原因というのは、精神的に豊かになりすぎて、精神力の使い方のバランスが崩れたんです。それがカタストロフィーの実際的な原因でした。自然界の法則を精神力

◀左からダニエル・ロス、秋山眞人の両氏。撮影／久保田八郎

で壊すようなことをしたわけです。

　そのときの恐怖から全人類は潜在意識の深い所に能力を秘めてしまって、そのまま忘れてしまったんです。つまり記憶喪失です。そしてそのまま一っと続いてきていますから、それを思い出さねばならないんです。そこで、ある種の人達はそれを世紀末の不安からか思い出しつつあるんです。

ロス　そのカタストロフィーというのはムー大陸かアトランティスのことですか。

秋山　そうですね。ひじょうに深く関係しています。

　異星人のレベルからみますと、地球人にはひどく欠けているものがありますから、とんでもないことをやっている場合があるわけです。それに対して異星人が手を出してはいけないんです。あくまでもこの赤ちゃんには一人で歩かせなさいという考え方が基本ですが、その赤ん坊がガスの栓をひねろうとしているとか、マッチをすろうとしているとか、そんな危険な場合、異星人はテレパシーが効きますから、何光年離れていてもそれを感じるんです。「あの太陽系の隅にあるあの惑星で、子供が火遊びをしようとしている」と感じるわけです。そうすると、それを助けるために行かざるを得ないんです。

ロス　そうすると異星人は地球のコンタクティーに対して、何をしなさいと言っているわけですか。どのようなメッセージを伝えよというのですか。

秋山　やはり「自分でしっかり勉強しなさい」と言われるだけですね。だから自分の体験をコトバで伝えることではないんです。一人が異星人の生活態度などのイメージを吸収すれば、それは一〇〇人に伝わるんです。その人の周囲にいる人達や縁のある人達が同時に変わるんです。そういうことがあることを異星人は知っています。

　ですから、もしコトバだけで異星人に関する情報を伝えることに彼らが重点をおいているのであれば、いい加減なマスコミとかテレビ局を占拠して、電波ジャックして、ＮＨＫとか12チャンネルまでを通じて宇宙人に関する放送を流すでしょう。彼らの技術をもってすれば、それは簡単にやれることですよ。

　しかしそんなことをしても何も変わりませんね。コトバによる伝達では何も変わらないんです。ところが意識による伝達が行なわれますと、気がつかないうちに人間が変わるんです。これが重要なんです。

ニセモノを見分ける方法

ロス　いわゆる宇宙人のなかにはニセモノがいたりします。地球人でありながら巧みに宇宙人を装って地球人に近づいたりしますが、あなたはどのようにしてそれを見分けるのですか。

秋山　いくつか方法があります。まず相手方のシステムを知ること。コンタクティー同士は相手方のシステムをわりとよく知っているんです。

　いちばんよいのは「ニセモノ」がいるというイメージを持たないことなんです。地球上のある種の組織の後ろに居る者というのは、国際経済をコントロールしているんです。つまり、表の銀行家と地下の銀行家がいるわけです。その地下の銀行家というのは、陰で他人の闘争心を煽ることによって莫大な利益を得ることをやり続けているわけです。そのようなシステムがネットワークとして存在しています。たとえばマスコミを動かしたり、敵対する人達に対して、わざと戦争になるようにそそのかして、「じゃ、戦争ですね」といって両方にお金を貸すとか、ひじょうに巧妙なことをやってきたわけです。

　問題は、そのような陰の銀行家は異星人がすでに地球へ来ていることを熟知しているという点にあります。そしてそれなりの対策を持っているんです。

　その一つは、先天的に超能力を持っている人を洗脳し、使って、コンタクトの疑似体験をしたということにして虚偽の情報を植えつけて、その情報を流させるというやり方を応用しています。この方法は六〇年代から七〇年代にかけて盛んに行なわれています。アダムスキーの直後あたりから行なわれています。

　しかし、それをやったんだけれども、ＣＩＡ自身はそうしたテクノロジーのなかから意識の問題の恐ろしさに気がついたんです。そういうことをやっていると人々の意識から逆襲を受けるということに気づいたんです。つまり人間の「良心」というものは、洗脳できないということに気がついたわけです。

　したがって、洗脳された超能力者達は、首領が何を考えているかを読み取るようになったわけです。結局、自分の良心を犯せなかったのです。

　そういう失敗からＣＩＡは方策を変換して、次に研究家を狙ったんです。コンタクトした人ではなくて、宇宙問題を研究している人達に対して、いかにもありそうなメチャクチャな情報を流すことによって、ＵＦＯ研究界を普通の人に理解できないようにさせたわけです。突拍子もない説を発表させたりして、そうした情報操作をいままでやってきたんです。

　もう一つは、火星の問題です。火星は悪い惑星ではないんですが、感情に重点をおく惑星です。地球人が感情的になりやすい波動が入って来るルートが火星の方向に一つだけあるんです。それは今はさほど大きくないですけれども地球人に対してある程度の影響力を持っていることは事実です。

　もう一つは、ひじょうに遠い惑星から来ている人達で、地球人を見たとき

（六頁へ続く）

A UFO Shrouded in Force-Field Cloud

Photo by Mikazu Miyano

●円盤雲の正体は――

昨年5月20日、宮野三加津さん（東京）がポルトガルのポルト市を友人と2人で散策中、突如上空に円盤型の不思議な雲が出現、4枚の連続写真を撮った。周囲の人は気づかなかった。最初はこの雲の左肩に細長い棒がくっついていたが、それが消えて円盤型になった。秋山眞人氏によると、これは円盤のフォースフィールドが造り出した雲で、本物の円盤はこの中に包まれているという。最初左肩にくっついていた棒状のものは円盤が飛来したときのフォースフィールドの残りで、それが消滅してから円盤型になった。当時のヨーロッパにおける何かの政治的な激変を示唆するために出現したのだろうという。目撃・撮影した宮野さんは熱心な日本GAP会員。スイス航空のスチュワーデスとして日本とヨーロッパ間を往復している。

（四頁より）

に、進化の方向が違いすぎて、たとえばモルモットとかウサギみたいにしかつきあえないような人が、少数ながらも地球へ来ることもあります。こんな人達にコンタクトしても地球人には意味がありません。危険性もあるんですが、彼らも悪いことをしている意識が全然ない。しかし地球人にとってはひじょうに危険なこともあります。

したがって、最も重要なことは、そのような異質な宇宙人のイメージを心の中に描かないようにすることです。そうすれば、そんな者に出会わないし、縁がありません。そんな者を引き寄せないからです。それが法則です。

ロス　本当に善良な異星人と、いまおっしゃったような異質な宇宙人とを区別するにはどうすればよいのですか。

秋山　善良な異星人とコンタクトしたコンタクティーがひじょうに感情的に安定した状態のときに、その異星人から祝福のサインが与えられます。それはなんのことはない小さな石であったり、ペンダントであったり、そういう物をくれたりします。

それとあるいくつかのシンボルが共通して幾人かのコンタクティーにテレパシーで与えられます。そのシンボルの意味はコンタクティー同士にしか絶対にわからない仕組みになっています。それを他の人が読み取ろうとしても無理です。

一つのシンボルにも三つか四つの意味があります。哲学的な意味、電子工学的な意味、数学的な意味などです。それは心理学程度の知識しかないCIAの人などには到底分かりません。

未来のイメージを持つ

ロス　いままでは善良な異星人は地球人の眼を宇宙の方向へ向けさせようとして努力してきたわけですが、現在、彼らは地球人に対して何をしてほしいと望んでいるわけですか。

秋山　たとえば地面を見ている人間が水平線を見たときも、あのむこうに誰か住んでいるのではないか、我々の仲間がいるのではないかというような視点で文化を進歩させるわけです。

今度は空を見ます。すると他の惑星が見えます。さらにその表面には何があるかというわけで、今度は意識を見る時代になるんです。イメージというのは時間や空間に束縛されないものですから、人間がそういうものに拘束されないひじょうに広い意味での知恵を自由に選択する力を持っていることに気づくようになります。

選択の自由と力が、神すなわち創造主から人間に与えられています。そこに視点を向ける時代に入ってきたんです。その延長上で最も低迷しているのは科学技術です。それはなぜかといいますと、人間は時間の流れに逆らわない生き物であるというふうに科学が決めつけてしまったからです。

それで科学はその前提の上に成り立っていますから、過去のデータをもとにして今を考えています。これはキリスト教で言う「裁き」と同じです。今までこれこれのルールだったから、現在も未来もその物差しでもって測ろうとします。しかしそこからは新しいアイデアや未来に対する希望などは生まれてきません。そのことに科学者自体が気づいていません。

そういう意味では未来を新しく設計しようというビジョンは出ませんから、今まで海がこれだけ汚染されてきているとか、社会がこれだけ混乱しているような状態になってきたわけです。

たとえばいま東京には大地震の六七年周期がきているとかいわれて騒がれています。それできっといますぐ地震が来るだろうと科学者は毎日地震を待っています。でも、それがなぜ起きるのか、その周期を変えるためにはどんな力が最も必要なのか、というようなことが分かっていません。

原爆は危険だといいます。そこで原爆のボトルを取ってしまえば大丈夫かというと、そうではないんです。それを取ってしまっても、原爆を作り出そうという人間の想念がある限り、今度は原爆に見合う何か別な物、たとえば細菌兵器や電子操作による何かがまた出てきます。

ですから、肝心なのは人間の元の想念すなわち意識について研究することにあります。意識が分かると未来にはっきりと力を注げるようになります。

未来というのは全然未知のものです。これは物質を研究する科学者の言うことです。しかし意識の中では未来が生じるのであって、素晴らしい未来やイメージがちゃんとあって、そこに向かって邁進する作業と、全くイメージがなくて過去のデータから生きてゆく作業とは全然ちがいます。

ロス　この二〜三〇年間は宇宙空間に対する関心がすごく強かったわけです。それは物質的な宇宙空間でした。しかしNASA（米航空宇宙局）の発表にもありますように、あちらの惑星群には人間はいないと言い続けていたわけです。だから今アメリカで、たとえばいまほんとうに必要なのは物理的な空間や時間の概念ではなくて、彼方にある限界のないものを知る必要があるんだと言っても、もう誰もそのまま受けいれる人はほとんどいません。こうした状況のなかにあって、私達はどういうふうに活動を展開すればよいのでしょうか。

秋山　アメリカでも最先端をゆく大脳生理学や宇宙科学者がいますが、まず大脳生理学者は意識は物質だ、脳味噌だ、身体の機能だと言います。そういう

う人達のシンポジウムになりますと、外部では意識は脳だ物質だと言って研究論文を発表している人達が、自分達のコーヒーブレークの時間になると、「神様っているんだよね」と話しているんです。宇宙科学者が「宇宙にはやっぱり生き物はいませんでした」と世間に発表するんだけれども、自分達のコーヒーブレイクでは「人間はやはり何かの意志がないと創れませんな」などと言っています。

結局今は慎重な時期に入っているからだともいえますね。科学者は意識の問題についてもすごくよく知っているんだけれども、いま意識の持つ力について全部一般人へ教えてしまうと、混乱が生じるだけだという判断もあるんです。だから意識だフィーリングだとか言って走った人達がむかしカリフォルニアあたりに沢山いたんですが、あれはヒッピー運動にしかならなかったようですね。

今後、意識の力の問題を一般人に理解してもらうとすれば、重要なのは、「意識（この場合は普通に言う意識）は物質である」ということを堂々と発表している科学者の論説を勉強されることを私は勧めたいですね。でもこれはすごく難しい問題になってきています。

次にUFOの研究ですが、コンタクティーというものは自分の体験したことを発表する力しかないんです。コトバにするか意識で伝えるかですね。それがコンタクティーにできる精一杯のことです。

でもこの世の中には科学者もいればジャーナリストもいますし、科学者のすべてが理解できないわけではなく、タレント学者として頂点に立っている人達は（UFOの問題について）分からないふりをしているだけです。だからUFO問題の分かる科学者だとかジャーナリスト達が主力チームで組むことが大切です。

転生について

ロス　人間は現在生きていて今何かをやらねばならぬということが最重要ですけれども、もし年をとってゆく人々に転生（生まれ変わり）について言うとしたら、あなたはどんなふうに説明しますか。

秋山　人間は魂は永遠であるということが理屈では分かったつもりでいても、やはり死に直面したときに、本当にそれを意識の底で理解しているかどうかが試されるんです。死とは魂の永遠性を教えてくれるための卒業式だと私は思っていますが、魂の永遠性をアタマで理解するのと体感するのとでは（両手を横に一杯広げて）こーんな開きがあるんです。だからすごく難しいことですけれども、素晴らしいことなんですよ。

あともう一つは、やりたい事がある限り人間は生まれ変わるんです。創造できることがある限り生まれ変わります。創造するから生まれ変わるんです。創造主は人間がやりたい事ができる場所を、扉をたたけば何度でも与えてくれます。

魂の永遠を指針として、何歳になっても「今」を大切にするということですね。お釈迦さまは、当時の記録文献を見ると、誰かが「来世はどうなっているんでしょうか」とか「魂は永遠でしょうか」などと聞くと、すごく戒めているんです。これはなぜかといいますと、魂の永遠性を今の自分に生かすのとアタマの中でただ記憶するのとは違うんだということを言っているんですが、そこが問題になるからです。

ロス　四年前に東京でお会いしたときに、あなたがスピープルとコンタクトしておられたということでしたが、あのとき、あなたが最も自分の使命として感じられたことは、いままでお話しになったなかでの考え方や超能力などについて若い人達に伝えてゆくということだったと思いますし、それは私にとっても最大の任務なのですが、それについて、あなたが計画しておられることをお話して頂けませんか。

秋山　そうですね、一つはいま幼い子供達、一〇歳前後の子供達に対して私は或る種のプロジェクトを持っているんです。幼児教育の段階でテレパシックな直感力とか波動を感じる機能だとか、そういったもののトレーニングをやっているところです。子供達のパワーは凄いですからね。子供を大切にしなくてはいけませんね。いまのところ三〇人ぐらいの子供達を指導しています。

親は子供に絶望的なことを絶対に言ってはだめです。むしろ子供に希望を持たせるように仕向けることですね。

ロス　話は変わりますが、いま太陽系の中から地球へ来ている宇宙船の数と太陽系外から来ている宇宙船の数はどれぐらいの割合ですか。

秋山　外が、四、中が六です。これにはルールがあるんです。というのは、地球のロケットは遠くへ飛んで行くのは大変ですが、近くへ飛ぶのは簡単です。ところが想念の世界では何万光年離れている所に住んでいる宇宙人でも太陽系の隣の惑星に住んでいる宇宙人でも地球から出ている波動を同じように感じるんです。そこで地球に何かの危険があったとすると、遠近にかかわらず宇宙人は全く同じように感知しますし、しかも特殊な重力場機関を搭載していますから、ひじょうな遠方から飛んでくるのが大変かというと、我々ほど大変ではないんです。燃料庫がしだいにカラになるかというと、そんなことはないんで、宇宙空間からエネルギー源をどんどん取り入れているんです。（時間の都合により会談はここで終了した＝編者）

A Strange Case of Contact in South France by Shozo Nakamura

人類とETI（地球外知性体）との新たな関係を築くために

中村省三

南フランスの不思議なコンタクト事件

UFO目撃のブームが始まったのは戦後すぐだから、すでに四四年以上の歳月が経過したことになる。その間に、空中での目撃、着陸、墜落円盤の回収、ヒューマノイドとの遭遇、UFO内部でのコンタクトなど、さまざまな種類の事件が何千件と起きている。

こうした事件の調査に、民間のUFO研究団体が目覚ましい働きをしてきたし、また近年ではUFO現象の実在を裏付ける政府の公文書も暴露されるようになってきた。

これだけ多量の情報が蓄積されたからには、もはや「臨界量」に達したといってよい。今や、そこから何らかの結論を導きだして、UFO研究の新段階に入るべき時期が来たのではないだろうか。

UFOとETIの正体

個人的な話になるが、世界各地で起きた宇宙人遭遇事件を集めた新書を二冊刊行したこともあって、これまでにかなりの量のデータに目を通す機会があった。とりあえず、その分析作業から得られた推論を列挙してみたい。

①UFO報告の中には、明確な構造を持った機体との遭遇事件が数多くある。しかも、そうした機体が測定可能な物理特性を備えていることも明らかになっている。

こうして測定されたエネルギー特性と飛行特性から、この種のUFOは私たちの理解をはるかに超えたテクノロジーの産物だと解釈できる。つまり、地球外の知的生命体（ETI）の宇宙船だと見なすことができる（ETIとはExtraterrestrial Intelligenceの略）。

②無数の目撃報告を比較検討すると、これらの宇宙船を地球に送り込んでいるETIは一種族だけではないと推定できる。彼らは協力して、地球についてのさまざまな調査・観察任務を実施していると思われる。

そして、月や火星で見つかっているモニュメントをはじめ、いわゆる宇宙考古学などのデータから、ETIが地球を訪れるようになったのは最近のことではなく、古代にまでさかのぼると推測することができる。

③現在のところ、宇宙船の背後にいるETIは、人類文明とのオープンな「公式」コンタクトを望んではいないように見える。

しかし、データを分析すると、多くの遭遇事件で、ETIは地球人との平和的で相互的なコンタクトについて、限られた範囲ではあるが、はっきりと関心を示している。ETIはもっと深くて広範な交信へと徐々に移行する計画を持っていると考えられる。

④ETIに関連して、テレパシー通信やその他のいわゆる超常現象が絶えず報告されている。このことから、ETIは物理的・技術的な発達と並行して精神的な能力も発達させてきたものと推察される。

⑤ETIの行動の中には、地球人の目撃者を困惑させるような要素がしばしば認められる。しかし、ETIが純粋な敵意を示したという確実なデータは存在しない。現在地球を訪れているETIの行動は必ずしも地球人の価値観や期待と一致しないけれども、彼らの動機は敵対的なものではないと結論できる。

とりあえずは、この五点にまとめることができるだろう。

これまでのUFO研究は、すでに起きた目撃事件や円盤墜落事件、アブダクション（ETIによる人間誘拐）事件などを調査研究するというものだった。ただ、こうしたやり方では、事件後かなり時間が経過してから調査に着手するため、データが紛失したり、記憶が曖昧になったりしていて、正確で完璧（かんぺき）なデータを入手することはまず期待できない。

前向きの積極的な研究を

このような受け身の調査研究も大切だが、その限界を打破するためには、前向きの積極的な研究に取り組む必要がある。つまり、UFO事件が起きている実際の現場に観察者や研究者がおもむいて、ETIとのダイナミックな情報交換やコミュニケーションを試みるのである。

もちろん、こうした考えに対しては、

次のような反論が予想できる。

接近遭遇事件を人間がコントロールしたり、影響力を及ぼしたりすることはできない。しかも接近遭遇事件はいつ起きるか予測できない。

しかし、何千件もの事例を調べてみると、この反論は間違っていることがわかる。

一般に広く信じられているのとは違って、UFOやETIとの遭遇事件で、いつも人間のほうが受け身だったわけではない。たまたまUFOやヒューマノイドを目撃した人間が、最初に何らかの行動やコンタクトを開始して、それにUFOやヒューマノイドが反応したという実例が数多くある。

たとえば、人間が手を振るとUFOが光で応答したとか、懐中電灯で合図するとUFOが着陸したとか、「こんにちは」と話しかけるとヒューマノイドが言葉もしくはテレパシーで返事をしたという例が報告されている。

人間のほうがUFOとの遭遇を完全にコントロールできないことは確かだが、UFOの出現やその行動に人間が影響を及ぼしたという証拠は存在しているわけである。

さらに、ごく特定の地域で集中的に起きるUFOウェーブやUFOフラップという現象も、基本的にリアルタイムの積極的な調査の可能性をもたらしてくれる。最近では、一九八九年末にベルギーで、また一九九〇年末にはフランスでUFOウェーブが発生して大きな話題になっている。

こうしたUFOウェーブや、継続的なETIと接触しているコンタクティーあるいはアブダクティーで積極的に協力してくれる人などを活用して、前向きの積極的な研究を推進することが可能になるはずだ。

マルヴェシに出現した奇妙な異星人

とりあえず、比較的最近起きた実際の接近遭遇の例を紹介してみよう。これはフランスの事件だが、いろいろな意味で興味をそそられる点が多い。

この奇妙な遭遇事件は一九八七年一二月一二日、南仏のナルボンヌという都市の北三キロにあるマルヴェシで起きている。

マルヴェシにはウラン処理工場があり、工場の向かい側は道路を隔てて高さ一五～二〇メートルほどの丘になっている。その丘の横にある台地で、遭遇事件が起きたのである。なお、その日の天候は雨で霧がかかっており、雲がたれこめていた。

目撃者のジェラール・ラミー（四〇歳）は美術品の修復師で、作曲家でもある。その日の午前一〇時五〇分、彼はバーベキュー用の薪を探しにマルヴェシに出かけた。廃墟になった邸宅のそばで車を降りると、適当な廃材がないか探してみることにした。

六～七メートル進んだとき、前方に六人の人物がいて、そばに四台の雪上スクーターのような乗物が停車しているのが目に入った。小柄で東洋人のような外見をした人々で、灌木のそばに避難しているように見えた。どうやら困っている様子なので、ラミーは彼らのほうに近寄っていった。

「こんにちは。ひどい天気だね」

彼はそのグループに話しかけた。すると、鼻にかかったような意味不明の言葉が返ってきた。

「何か困ったことでもあるの？」と彼がさらに話しかけると、左から二番目の女性っぽい人物が、わけのわからない単語を二つ口にした。

「わかったぞ、君たちは異星人なんだろう」

彼が冗談のつもりでいうと、その《女性》が近寄ってきた。彼女はしゃがむと、柔らかい地面にギリシア文字のガンマの小文字とアルファベットのCのように見える二つの文字を書いた。同時に鼻にかかったような声で「空、悪魔」と発音した。

ふざけているのだろうと思いながら、彼は調子を合わせて質問してみた。

「君たちの惑星は、ここよりも良いところなのかな？」

その《女性》は、やはり二つの単語で返答した。

「労働、少ない」

「どうやって来たの。この乗物を使ったのかい？」

「磁気。雨で困っている。基地との交信不能」

「君たちは人間にそっくりじゃないか。君たちの惑星にも、地球のように空気があるのかな？」

その《女性》は、一番左の人物を指し示しながら、「九世紀」と答えた。そして、左から五番目の人物を指すと「一三世紀」と言った。

すると一番左の人物が前に出てきて、「北極」と口にしながら、手を差し出した。ラミーは握手するつもりはなかったが、好奇心をそそられて、その人物の手に触れてみた。その手は異様に冷たかった。

その間ずっと、ラミーはグループ全員の様子をうかがっていた。彼らは互いに目配せしていた。どうやら、不安を感じているだけでなく、この出会いの成り行き、特に彼との会話に反対のように見えた。

その《女性》が「あなたは興味ないかもしれないけれど、何人かの人間は私たちと行動を共にしています」と言ったとき、七番目の人物が右のほうから出現した。彼の外見も他の人物とそっくりだった。いらだち、少しばかり怒っているらしく、かなり興奮しなが

なかむら　しょうぞう
一九四六年生。広島県出身。
東京大学文学部心理学科卒。
UFOと古代文明の研究家。

ら、鼻にかかった意味不明の言葉でグループに話しかけた。

雪上スキーに似た乗物

すぐさま、彼らは地上に停めてあった乗物にまたがった。乗員が何の操作もしていないようなのに、乗物は地表から少しばかり浮かび上がった。無音で、草をそよがせることもなかった。乗物はぐるっと回転して向きを変えると、右側にある丘の頂上へと飛んでいった。徐々に高度を上げながら、ゆっくりとしたスピードで飛び去っていったという。

突然、ラミーは、何とも形容しがたい鋭い音が頭の中で響いているような感じに襲われた。そして、彼はほんの数秒だが意識を失ってしまった。奇妙なことに、倒れずに、ずっと立ったままだった。

彼は、この体験に当惑してしまい、薪を集めるのを止めて帰宅した。時刻は一一時一五分になっていた。

午後になるとすぐ、彼は娘を伴って現場に引き返してみた。草むらに直径一〇センチの円形の痕跡が四、五個あったが、それ以外には彼の体験の証拠となるものは見つからなかった。

新聞記事でこの事件のことを知った地元のUFO研究者たちは、ラミーにインタビューして、もっと詳しい情報を聞き出している。

まず、彼がヒューマノイドと遭遇していた時間は数分間だった。彼らは東洋系の顔立ちをしていて、肌は茶色で、鼻の下の両脇に皺があった。人間とまったく違う点はなかった。左から一、二、三番目と七番目は身長が一・五メートル、他の三人は一メートルぐらいだった。この小さな三人は子供ではなかったかとラミーは推測している。

全員が同じ黒いフード付きの作業着を着ていた。ただ一番目と三番目の人物は、フードをかぶっておらず、髪の毛が見えたような気がした。

二番目と三番目の人物は、体つきと顔立ちから、女性のように思えた。四番目と五番目の人物（子供）は髪の毛もしくはフードのところに、頭蓋骨に銀メッキをしたような銀白色のものが見えた。

雪上スキーに似た乗物には一～三人が馬乗りにまたがった。乗物は長さが一・五メートル、高さ四〇センチで、操縦装置のようなものはまったく見あたらなかった。モーターも車輪も、ハンドルもなかった。乗物は古びたような白い色だった……。

なんとも奇妙きわまりない事件で、目撃者が一人しかいないが、もし嘘をつくつもりならもっと現実性のある話をでっち上げたことだろう。

「北極、空、悪魔、磁気、基地……」といった単語も、いかにも意味ありげではある。過去のさまざまな事件を思い起こさせるし、とほうもない仮説をいくつも提唱できそうである。

たとえば、雨に弱い乗物に乗った宇宙人たちがナルボンヌの近くで道に迷い、たまたま出会った地球人と馬鹿げた会話をした後、怒りっぽいリーダーに命令されて立ち去った、と解釈すべきなのだろうか。

それとも、私たち地球人の知性と意識があまりに鈍すぎて、自分たちに向けられたメッセージの微妙な内容を把握できなかったのだろうか。その一方で、自称「宇宙人」は私たちに理解させようとする努力を放棄したということなのだろうか。

ETIに敵意はない

こうしたETIの謎めいた行動は、とかく暴力に訴えがちな人類の性向を避けようとすることに関係しているものと思われる。もちろん、ETIが自分たちの進歩したテクノロジーの秘密を保護する必要や、どの惑星からやって来たか知られないようにするためということもあるだろう。

地球文明が分裂していて、戦争という手段に走りがちなため、ETIとしては、当面は自分たちのテクノロジーを提供したくないと考えているのではないだろうか。

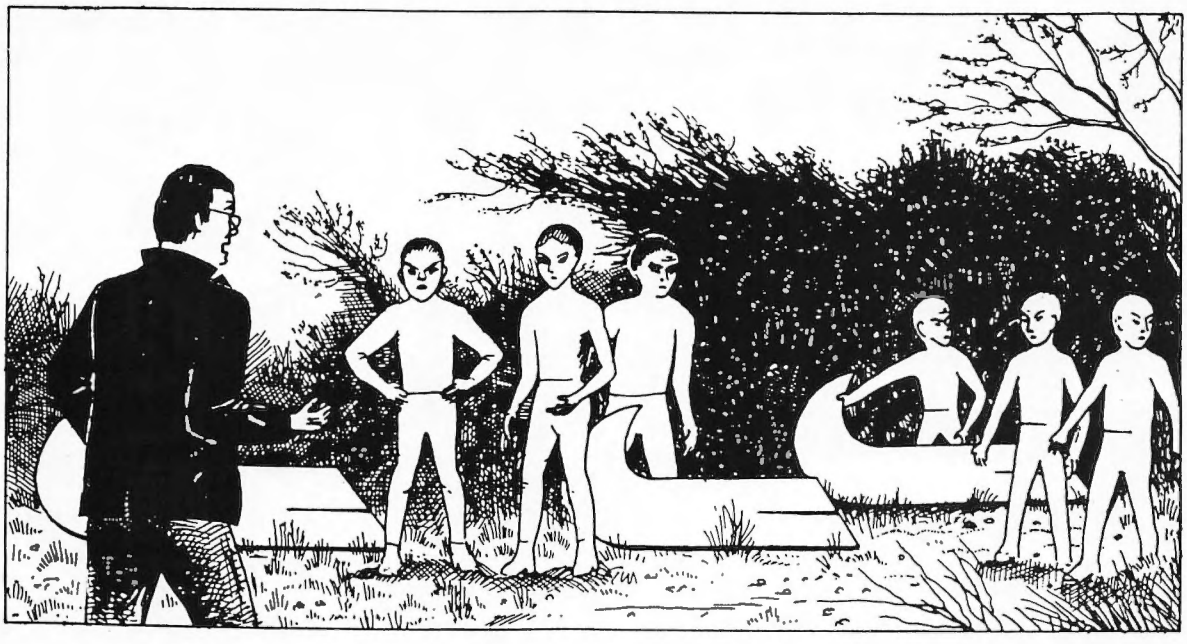
事実、地球上の軍事施設や宇宙関発関係の施設、あるいは原子力施設も、UFOの行動に影響を及ぼすだけでなく、実際にそうした場所での目撃が発生している。マルヴェシの事件も、すぐ近くにあるウラン処理工場と何らかの関係があったのかもしれない。

重要なのは、ETIの意図を私たちがどのように受け取るかである。センセーショナルな内容を売り物にしているタブロイド新聞や書物、あるいは一般に広まっている噂を額面通りに信じるなら、ETIは宇宙の神のような存在か、もしくは宇宙の征服者ということになる。

しかし、彼らが宇宙を創造した完全無欠な神だということも、宇宙征服をもくろむ銀河帝国の邪悪な尖兵だということも、どちらもまずありそうにはない。

これまでの遭遇事件を検討してみると、ある種の人々に対して、ETIが謎めいた、ときには人間の感受性を逆撫でするような行動を取ることはあっても、彼らが純然たる敵意を持っていたという証拠はまったくない。ETIの行動をどのように見るかということと、ETIの実際の動機や意図とをはっきりと区別する必要がある。

一見すると悪意があるとしか考えられない行動でも、実際には中立的なものだったり、逆に善意によるものだったりする可能性は充分にある。たとえば、病気にかかった小さな子供が、治療する医者の真意を理解できずに、自分を痛めつけようと悪意を持っているのだと思い込むのと同じなのかもしれ



▲上は事件を調査した「南ピレネー・グループ」のダニーズ・ラカナルとテオドール・レヴェルによるスケッチ。下左は異星人が使用した雪上スキーのような乗物。
下右は女性異星人が地面に描いた２つの文字。

ない。

なお、ＥＴＩとの関わりというときには、基本的には地球人よりも進歩した知性体との接触を想定している。

したがって、ＥＴＩの意図を私たちがどう考えているかということだけでなく、私たち自身の意図と態度についても慎重に考慮しなければならない。実際には、こちらのほうがもっと重要である。

軍部や民間人のＵＦＯに対する反応から明らかなように、地球人には異星人嫌いの傾向がある。地球人は自分に理解できないものや支配不可能なものについて、それが敵意を持った脅威的存在だと本能的にみなしがちなのである。私たちはこうした性質を克服しなければならないだろう。

人間は宇宙と一体

現在、地球を訪れているＥＴＩについて、ＵＦＯ文献では「超越した」という言葉が頻繁に出てくる。つまり、人類は彼らと比べると低級な存在だということになる。これに対して、神学者たちなどは、宇宙の中で唯一考慮に値する偉大な存在は人類だけであると主張している。

「人類は劣った存在」「人類は並外れて優れた唯一の存在」。この両極端の見解は、自己認識としては非常に歪んでおり、ＥＴＩと人類との健全な関係を築くのをぶち壊わしにしてしまう危険がある。

異なった二つの惑星の二人の個人の間には、それぞれ長所と欠点があることだろう。だからといって、一方が他方よりも優れているということにはならない。単に異なっているというだけにすぎない。

人類もＥＴＩも、意識を備えていて、知性があり、感情を持っている生命体である。この意識にもとづいた知性が、平等で対等な関係のための共通基盤になる。彼らとは別の面で、人類はＥＴＩの発達と啓蒙に役立つものを提供できるかもしれないのである。

私たちは、宇宙と一体なのだということを学ばなければならない。さもないと、この広大な宇宙の中でさすらう迷子になってしまうことだろう。人類にとって素晴らしい物事は、宇宙の中のどのような知性体にとっても素晴らしいことなのである。それをお互いに共有したいものである。

How To Produce Miracles by Ted Owen

奇跡的に願望を実現させる方法

■テッド・オーウェン／久保田八郎訳■

奇跡的に願望を実現させる！　自分の意のままに雨を降らせ、ハリケーンを起こし、不治の病を治し、これまで二〇〇例以上の奇跡を行なった超能力男テッド・オーウェンが、だれでも超能力者になり、異星人とコンタクトできるようになる秘訣を公開。

端的に話そう。私は読者の時間を浪費したくない。この記事は〝奇跡を起こす方法〟を述べたものである。だから自分のマインド（心）を応用して、次にあげた各項目を実現させることに関心があるならば、この記事は役立つだろう。

■旱魃地帯に雨を降らせる。
■ある目標をめがけてカミナリを直撃させる。
■ハリケーンを起こして、それを誘導する。
■空中を飛んでいる飛行機をコントロールする。
■海に浮かんでいる船（または水中の潜水艦）をコントロールする。
■不治の病を癒やす。

その他この記事に述べてある奇跡を起こす方法をひとたび読者が応用するならば可能になる物事は無数にある。右にかかげた各項目は〝自分の心〟で実現させるためのホンの少数の例にすぎない。

テッド・オーウェンとは何者か

読者は以上の説明を疑うだろう。全然問題にならないと思うだろう。右の各項目を実現させることは人間にとって不可能と考えられるからだ。それとも、可能だろうか？　モーゼやエゼキエルはこうした奇跡を行なったではないか。それは聖書時代の話だと？　だが、ここで大切なことは「テッド・オーウェンとは何者なのか」ということと、「オーウェンは何をやっているか」ということなのである。一見きわめてバカげたように見えることをやっていると称するオーウェンの奇跡の根拠はどこにあるのか。

私はテッド・オーウェン、すなわちPKマン（超能力者）であり、種々の奇跡を起こす特殊な能力の持主である。

私は右の各項にあげた、一見不可能と思われる物事をやってきた人間である。そして実際に私によって奇跡を起こさせられた人々の宣誓書を持っている。

たしかにこれまで二〇〇件を越える〝奇跡〟を行なったが、これらはすべて記録してあるのだ。これは物質の力を超えたマインド（心）を応用したのである。

つい最近も三週間にわたって、私を非難する科学者達を尻目に私はノーフォーク地帯へ大雨を降らせたのだ。この地帯は数カ月も日照り続きで、ひどい目にあっていたのである。私はハリケーンを起こしてそれをノーフォーク州（米国東岸）へもたらしたので、雨が四日間も降り続いた。そしてこのことを立証するために一機のUFOをノーフォーク上空へ出現させたが、これは私が実現させていた他の奇跡的現象に対する裏付けとしてやったのである。こうした奇跡を行なう前には必ず科学者、政府、地方新聞などへ手紙でそのことを知らせていたので、単なる偶然とは言えないだろう。これについては多数の宣誓書が手許にある。

とにかく証言はそろっているので、次の段階は読者がみずから奇跡を行なう方法を伝授する前に、土台になる知識をお伝えしよう。そうすれば実態がもっとよく理解できるだろう。

私は五〇年前に米インディアナ州、ベドフォードで生まれた。四〇歳になるまでは超能力の開発研究に打ち込んだが、この超能力なるものは読者がこの記事を読んだあとで応用できるのである！　これはさほど驚くべきことではない。エジソンは光を発する電灯を完成するまでに多年にわたって実に五万回の実験を重ねたのである。彼がそれに成功して一般人に知識を伝えるや、だれでも電球が作れるようになったのである。

たしかに私は一人間にすぎない。私の頭脳は異星人によって改変されている（以下異星人をスペース・インテリジェンスの略語としてSI（エスアイ）で表わす）。それで私の頭は発信と受信の両道通話装置になっているのだ。したがって読者が私の指示に従って実行するならば同じ事が起こるだろう。そしてSIとコミュニケートすることが可能になるばかりでなく私と同じように各種の奇跡を行なうこともできるだろう。

読者がこの記事に述べてある〝方法〟をマスターすれば、世界を動かすこともできるはずである。そこで疑問が起こるだろう。「このような計り知れない

価値を持つ知識を、なぜ一般人に公開しないのか？」「公開するのは危険なのか？」

異星人は何を目指しているか

それでは答えよう。現在、一般大衆の中には〝眠れる人々〟がいる。つまり偉大な人格を内部に秘めた人々がいるのである。現在、米国が深刻な悩みをかかえていることは公然たる事実である。そこでSIはこれらの〝眠れる人々〟を発見し、それを覚醒させることによって一般人を混乱から救出しようとしているのである。したがって、この記事に述べてある〝方法〟をマスターして実行するならば、SIはその人に目を向けるだろう。そのとき彼らは（SIは）その人のマインド（心）をテレパシーを用いて調査するだろう。その人の過去の行状はすべてチェックされるだろうし、その人が未来においてやれる物事のすべてを〝予測〟されるだろう。SIは未来を予知することができるからである。それからSIは本人にコンタクトするかどうか、本人の頭脳を修正するか、超能力を与えるか、人類に益するか、などを決定するだろう。もし本人が他人を傷つけたり、妨害したり、盗んだり、殺したり、憎んだり、金を儲けて裕福になったりするならば、SIは本人を無視するのである。

SIは、人類を建設的な方向に進歩させるために自分の新しい力を応用しようとする地球人を発見してその人を向上させることにしか関心を持たないのである！

ここで私は断言したい。こうした計り知れない価値を持つ力を応用して他人を傷つけようとする〝悪人〟による危険は全然存在しないのであると。

ここで読者は考えるかもしれない。SIは秀才だけを選び出すのではないか、と。たとえば私は一万五千人の会員を擁する〝メンサ〟という国際的な団体に属しているが、ここの会員の知能指数は異常に高くて、これに入会するためには知能テストを受けて、少なくとも一四八以上の点数を得なければならない。しかるにSIはコンタクティーとして農夫、兵士、秘書、トラックの運転手というような人を選んだりする。すなわち、この記事に述べてある〝方法〟にしたがって自分のマインド（心）を向上させ、メンサの会員を問題にしないほどの超人的な頭脳を持つようになれば、だれでもSIから選ばれるのである。その〝選ばれた人〟は読者である〝あなた〟になるかもしれないのだ！

よろしい。これで基礎は充分だ。伝授にとりかかろう。読者は〝方法〟を知りたがっている。この〝方法〟はオーソドックスなものではないが、心配する必要はない。それを学んで実行しているあいだは、自分のやっていることを他人に話さないほうがよい。ただし自分を援助してくれる〝ヘルパー〟だけは別だが、これについてはあとで述べる。

(1)奇跡を起こす「心のイメージ法」

まず第一段階として、D・ロース著のMemory Courses という書物を手に入れることだ（現在絶版）。この書には変わった考え方をすることによって一連の言葉を記憶する方法が述べてある。読者は最初の二〇語を記憶するだけでよい。たとえば第一番目は「帽子」である。そして次に記憶しようとする物――たとえば「飛行機」ならそれを関連づけるのである。飛行機を記憶しようと思えば、巨大なジャンボ機が帽子のフチのまわりをぐるぐる回っているイメージを描けばよい。バカらしいと思われるだろうが、これは「心中にイメージを描く技術」なのである。そして心にイメージを描くことは超能力者になるための二つのキイの一つなのである。ロースの書物を入手して、その中に述べてある記憶用の二〇語から練習を始めることだ。帽子、メンドリ、ハム、野ウサギ、丘、クツ、雌牛、ハチの巣、サル、森、潮流、タイヤ、ホテル、皿、犬、ハト、オケ、鼻である。これをグループ学習として行ない、各メンバーに記憶の対象物を言わせて、他のメンバーが紙に記録する。二〇個の連想が終わったら、順々に思い出させるのである。

超能力者になるためになぜこんな練習が必要なのか、と思われるだろう。

あなたがついに念願かなってSIと接触したり奇跡を行なったりすると仮定しよう。実際には、これらすべては心中にイメージを描くことによって行なわれるのである。だから右に述べた記憶練習をやっているときは、実際には心中のイメージを強化するために心の中に筋肉を作り上げているのである！　その練習をやるたびに心中のイメージを見るのがしだいに容易になるだろう。そのイメージをコントロールすることも楽になってくるはずだ。

UFOを出現させる

超能力者になるのに、この〝心のイメージ法〟がいかに重要かということをお話しよう。数年前、私がメイン州で著名な不動産業者エド・エームズ氏に「私は異星人とコミュニケートして数日以内にブレワー・バンガー地域の上空へ一機のUFOをはっきりと出現させるように頼んでみよう、そうすればその出現事件が新聞に報道されるだろう」と話したことがある。「よろしい、果たして実現するかどうかみてみよう」と氏は言った。そこで私はSI

とコンタクトする〝心のイメージ法〟を応用し、デモンストレーションとして私が望んでいた光景をSIに見せているイメージを描いた。

すると数日後に一機の円盤がブレワー・バンガー地域の上空に目撃された上、自動車のエンジンを停止させて、消えて行った。そしてこの事件がローカル新聞の一面に掲載されたのである。この事件に関するエームズ氏の宣誓書を私は所持している。もし「心のイメージ法」を応用していなかったらこの〝奇跡〟を起こすことはできなかったろう。

瀕死の病人を治す

別なケースとして、ワシントン市郊外の病院に入院していたブレンダ・スウ・ペンミントンという娘の例をあげよう。彼女は頭蓋骨を砕いて死にかかっていた。そして両親が娘を救ってやってくれと私に頼みに来た。そこで私はSIにコンタクトしている場面と、私がSIたちに自分がやろうとしていることを〝話している〟光景とを心中に描いたあと、病院へ行って娘の部屋の中に立ち、次元の異なるシンボル(複数)が娘の体の上に置かれてそれらがしだいに大きくなってゆきながら娘を癒やしてゆくイメージを描いた。このシンボル(象徴)というのは一つは虹である。この虹が彼女の頭にかかっていて一日ごとに大きくなってゆき、ついに部屋全体に充満してゆく光景を描いたのである！　医師団がサジを投げていた瀕死の娘にとってこれが転機となった。全治した彼女は現在ウェストバージニアで元気に暮らしている。これも「心のイメージ法」を応用しなかったら実現しなかっただろう。このケースも記録が残してある。

私は一八歳のとき初めてロースの記憶法を読んだが、最初はつまずいたもののやがてマスターした。もちろん、ほんとうにつまずいたのではない。SIがテレパシーによって私を導いたからである。つまり彼らSIがまだ〝眠っている〟私を他の必要な資料を入手して彼らと共に彼らのために働くように導いたのだ。

したがって、この「心のイメージ法」がいかに重要であるかがわかるだろう！　これはむつかしい方法ではなく、たいそう楽しいことであり、友人たちに応用すれば喜ばれるし、何よりも自分の頭脳を強力にするのである。

(2)第二段階の「自己暗示法」

さて、この方法を習得するための第二段階は最も重要である！　ある有名な科学者が――本人は地位を守るために名を秘したがっている――私のやっていることを徹底的に調査して、SIが私に超能力を授けたのは、私が自己暗示力をマスターしたからだろうと言明した。この〝自己暗示〟が第二段階なのである。人によっては自己暗示力を身につけるのに数年を要することもあるが、読者が数日間でやれるように説明しよう。

たしかに自己暗示は心中の秘密のドアーを開くキイとなるもので、これがまだ未利用のまま埋もれている偉大な力の貯蔵庫を開放するのである。これを応用してやれる例を二、三あげてみよう。

大成功した貧乏人

数年前テキサスで私はチャーリー・ターナーというセールスマンから車を一台買ったことがある。チャーリーは英国人なので彼の言葉のアクセントが私の興味を引いた。契約書に記入しながら二人はしゃべり合ったが、そのとき彼は、この数カ月間車は全然売れず、一文なしの状態だという。私は相手の心中を見抜いてこの男が偉大な潜在能力を秘めた異常な人間であるというテレパシックな感じを受けたので、自己暗示法を教えるから、それを練習したらどうかとすすめた。すると金がなくて教授料が払えないという。そんなものは必要ない、タダで教えてあげようと答えて、私は彼のトレーニングを始めた。

自己暗示法を習得してからまもなく彼は車のセールスをやめて輸出入の仕事を始めた。そして数カ月以内に信じられないほどに成功したのである！　銀行に多額の預金をし、この分野で広く知られるようになった。この大成功は自己暗示法の習得の結果であり、日常生活への応用のたまものだと言っているが、そればかりではない。

ある夜、郊外の遠い場所に住んでいたチャーリーはストーブの上についている外部モーターを修理しようとして持ち上げたところ、ストーブのパイロットランプがストーブを発火させ、爆発して、ガソリンの炎がチャーリーの左手と左腕を直撃した。すぐに炎を消して救急車を呼んだが、来たのは三〇分もたってからだった(これは朝の三時半に起こった出来事である)。

あとで彼が語ったところによると、自己暗示法を応用してものすごい苦痛をなくさなかったら気を失っていただろうと言う。

大ヤケドが全治

しかしもっと悪いことが起こった。病院に着いてから彼は左腕から自己暗示を解いてしまったのだ。(そうせよと私が教えていた)。これは医師が彼に処置を施せるようにそうしたのである。ところが彼は医師が来て診察するまでは痛みをやわらげる注射を打てないと

●イパマリの円盤

1978年11月15日、ブラジル、ゴイアス州イパマリの上空を飛ぶアダムスキー型円盤。ロベルト・エディルソン・ペレス氏が連続4枚撮影した写真の内の1枚。

看護婦たちから伝えられたのである！ そこで彼は激痛にもかかわらず再び自己暗示をかけて、医師が来るまで四〇分間すわっていた。やがて来た医師は左腕はもう使いものにならないだろうと言う。あまりにもひどく焼けただれたのだ。

このときチャーリーは私の教えにそむいて、先生の手当は必要ない、自分で腕を直す、と医師に言ったのである！ 彼はタクシーで帰宅し、一週間ほどベッドで横たわった。腕の激痛をなくすばかりでなく、皮膚と筋肉が再生するようにと、自己暗示法を用いたのである！

一週間後に彼は家の屋根に登り、新しいテレビアンテナを取り付けた。医師が使いものにならないだろうと言った左腕を用いたのだ！ 翌週には自分の車を乗りまわして日常の仕事をやっていた。その次の週に彼は私の所へやって来て、事件のことを話し、左腕と左手を見せてくれたが、左手の甲に小さな茶色の点が残っているだけだった。彼は完全に治っていたのである！

医師を無視するな

以上の件を詳細に述べたのは、日常生活や緊急事態が発生した場合に自己暗示法がいかに役立つかを示しているからである。もちろん痛みというものは警戒信号であるから、自己暗示法は医師の所へ行くまでの緊急時にのみ応用すべきである。私はチャーリーに対して病院にいて医師の指示にしたがえとどなった。「医薬と外科手術が第一だ、チャーリー！」と叫んだ。「そのあとで自己暗示法を応用するんだよ」

肉体的な苦痛のコントロールは、無数にある自己暗示法のなかの一つにすぎない。ある男が自己暗示法を習得した。歯科医を死ぬほど恐れていたからだ。それで一二年間も歯医者へ行ったことがなかった。彼は自己暗示法をマスターするとすぐに最寄りの歯科医院へ突進して、自己暗示をかけた上で一二本の歯を抜いてもらったのである！

こうした実例を多く知ろうと思えば、自己暗示に関する良い書物を読むとよいだろう。それには多くの書物があるので選択は読者にまかせよう。それらは基礎知識を与えるものなので、ここではもっとすぐれた方法を教えることにしよう。

自己暗示法を伝える前に、少し予備知識を伝えておく。

痛みは警戒信号である。あなたは緊急時において痛みを消すために自己暗示法を応用し、そのあと病院へ行くべきである。それから自己暗示を解くのである。なぜなら痛みは医師が治療をする上で指針として必要なのだ。常に医師と共に行動せよ。自己暗示法を薬、医師、手術などのかわりに用いてはならない！

自己暗示法の実例

ところで、私が自己暗示法を教えた人々を紹介しよう。

実業家「自己暗示法を用いて以来、人々が私をいらいらさせなくなったし、もう私をバカにしない。私は実に嬉しい気分だ。別人になったみたいだ」

裁判所詰め記者「あなたから自己暗示法を学んで以来、そのすばらしい結果に驚いている！ それを応用してからは幸福そのものだ」

宝石商「あなたの自己暗示法で起こった物事は金で買えるものではない」

秘書「最初の二週間は何も起こらなかったが、ある日突然、かつてなかったほどに楽しくなった。信じられないほどなので、この幸せが逃げることを心配している。ほんとうに幸せなのだ」

弁護士「あなたが教えてくれた自己暗示法のおかげで、私の仕事は三〇パーセントほど増進した。これは真に役立つ方法だ」

裁判所詰め記者「今週私はもっと楽しくなり、もっとお金ができたし、これまでにないほど多くの仕事をやった。自己暗示法を用いてステノタイプのスピードを二五語ほど増加させた。この自己暗示法こそは私の身に起こった最上の事柄である」

看護婦「まるで奇跡だ。今は数年前と同じようによく眠れる。この数年間は夜間半分しか眠れなかったのに」

エレクトロニクス技術者「二週間はこの方法が信じられなかったが、今はぐっすりと眠れる」

このような例はいくらでもある。この方法がいかに強力で効果的かがわかるだろう。賢明に応用すれば（お望みなら医師の協力のもとに）、自己暗示法は驚くほどに自分の生活を改良するのである！ だがもっと重要なのは、この方法によってあなたを直接にSIや超能力の方へ導く可能性もある、ということである。

さて私がお伝えする自己暗示法は、あなたをSIの方へ導くように工夫されている。しかしここで、その方法を応用することによって役立つ事柄を少しあげてみよう。

(1)憂うつな気分をなくして、楽しく愉快にする。
(2)あらゆる物事に直面する勇気を起こさせる。
(3)疲れたとき、数分間で爽快な気分にする。
(4)必要とあらば眠気をもよおさないようにしてくれる（ただしこれをあまり長く続けないように注意すること）。
(5)一夜、または必要なときに、ぐっすりと眠らせる。
(6)肉体的な痛みや不快感をなくす。
(7)物事を遅らせるとか過食、喫煙、飲酒などの悪習をやめさせる。

(8)恐怖、緊張、自意識過剰などを除く。
(9)自分の人格、他人に対する態度、周囲の状況などを改良する。
(10)自分を改良して収入をふやす。

(3)自己暗示の練習法

さあ、自己暗示法の〝秘密〟は何か。

それはこうなのだ。人間の普通の意識状態においては、想念は潜在意識にさほど深く記録されない。ところが自己暗示による〝引き金メカニズム〟を応用すると、何に想念を集中していようと人間の心の力のすべてはそれに集中する。そして自己暗示をやめると、目覚まし時計と同じように心がセットされて、自己暗示をかけているあいだに命令しておいた結果が最大限に得られるのである。普通の意識状態においては人間は知能の五ないし一五パーセントを用いているが、自己暗示によってコントロールされた潜在意識は、知能の七〇ないし九〇パーセントまでを引き出せるのである。何という相違か！

よろしい。それでは正確に自己暗示をかける方法を少しずつ教えることにしよう。

第一段階は、〝ヘルパー〟から暗示をかけてもらうのである。ヘルパーは夫か妻、ガールフレンドまたはボーイフレンドなど、だれでもよい。この方法を茶化さないでまじめに取り上げてくれる慎重な人を選べばよい。あなたが何らかの疑惑を持っているなら試みないようにしていただきたい。

振子を一個用意する。珍品店で入手してもよいし、なければ長さ一五センチの糸の端に指輪を結びつけてもよい。室内のライトを消して、あかりを一灯だけあなたの後頭部の上のあたりにつける。そしてあなたは寝イスに横たわる。ヘルパーがその横に立ち、糸の端を持って、振子をあなたの眼前にぶら下げたまま前後に振り動かす。あなたの眼の少し上のあたりを振幅一五センチで動かして、あなたはそれを見つめる。そして揺れ動く振子に眼が集中しているあいだに、ヘルパーは次の言葉を述べるのである。

「さあ、あなたは私の言葉を聞いて下さい。動く振子をじっと見つめながら私の声を聞きなさい。あなたの全身はしだいにリラックスしてきます。眼もしだいにリラックスします。二つかぞえると眼をつむり、あとは私の声が聞こえるだけです。一つ……二つ。さあ眼を閉じなさい。眼を開こうとしないように。あとでゼロというまではこの深い精神安定を解かないように。

私の声だけを聞きなさい。他の事を考えないように……。あなたは今深くリラックスしてゆきます。呼吸をするたびに全身がますますやわらかくなるのを感じます。両手は布のようにやわらかくなる。

私の言葉を聞くことに心を集中させれば、ますます心の力を通じて良い結果が得られます。さあ、肉体内でこっている筋肉をすべてリラックスして、やわらかくしなさい。

ますますおだやかな感じ……。おだやかさと幸福感が全身を包む感じ……。あらゆる緊張といらだちは顔と首から消えてゆく。顔と首をリラックスして、この部分はやわらかくリラックスしてゆく。

（訳注＝以下、全身をリラックスさせるための同じような言葉をしばらく反復する。これはいわゆる催眠術とは異なって、眠らせるのではなく、ヘルパーの声を心に刻みつける基礎練習である）

さあ、注意して聞きなさい。今後あなたが自分で自己暗示を練習するときはいつも、五倍もリラックスし、五倍も全身がやわらかくなります。毎日自己暗示法を応用するたびに、ますます楽しくなりリラックスしてゆき、神経はますます静まってくる。練習するたびに急速にリラックスできるようになり、ますます練習が容易になる。そして練習するたびに、ますます容易に心を集中させることができるようになる。

さあ、私の言葉を注意して聞いて下さい。そして言葉の一つ一つを受け入れなさい。これから述べる言葉は生涯あなたの潜在意識に刻みつけられて消えることはない。そして生涯あなたに対して強力に役立つのだ。強力に！

今後あなたが自分で自己暗示法を応用するときは、次のようにしなさい。

まず眼を閉じる。次に心の中に一個の電球を描き、自分の手が両眼の間のミケンに触れて、パッと点灯したところを心に描きなさい。これが〝引き金メカニズム〟。これを描き終わった瞬間あなたは表面の意識を消して、巨大な潜在意識にあかりをともしたことになる。ただしあなたが実際に目覚めていることに相違はありません。次にゆっくりと三つまでかぞえなさい。そうすると自己暗示の準備ができたことになる。それから力強く自分自身に語りかける。何度もくり返して、そのたびにますます力をこめて。たとえば『今日は私は幸せになる』と言うかわりに『今日ばかりか毎日私は幸せになり、リラックスして、おだやかになる。今まで私を悩ませ、いらいらさせていた物事は、もう私を挫折させる力を持たない。それらは壁にはね返るゴムボールのように私からはね返って行くのだ！』

言い替えれば、自己暗示法を行なうということは自分に対して激励演説を行なうことなのです。これを力強く反復する。それから自己暗示を解くのですが、このときは常に次の手順にした

がうのです。

こう言えばよい。『私はゼロをかぞえて体を起こす。爽快な幸せな気分に満ちて、心身ともに完全にバランスがとれている』続いて逆にかぞえなさい。……四、三、二、一、ゼロ……額に手を触れたときに頭の中の電灯がパッと消えた光景を描いて、『さあ、起きよ！』と自分に対して大声で呼びかける。そして眼を開く。両眼の前に手を上げて指をピシッと鳴らす。これは深い精神安定を解いたシルシです。

以上述べた方法を心に刻みましたか？（彼または彼女はうなずく）よろしい、それでは私があなたの額に触れると、今述べた方法が生涯あなたの潜在意識にしっかりと刻み込まれる。これはあなたにとって強力に役立つ。強力に！

（ヘルパーは相手のミケンに触れて言う。『さあ！』）

さて、あなたが深い集中を解く前に、もう少し暗示しておくことがあります。このあとの二週間は、起こってくる物事についてあれこれ考えたり、それが妨げるのではないかと心配してはいけません。それは明るいともしびを持って暗い押入れに入り、その中に〝暗黒〟があるかないかを見きわめようとするようなものです。すばらしい結果を得るための秘訣は、せんさくしないで自分をそのままにしておけばよろしい。この自己暗示法を完全にマスターするには二週間から四週間かかるでしょう。だからそれまでに奇跡的な結果を期待しないことです。

さあ、ゼロをかぞえれば深い安定が解けます。楽しい爽快な気分で、心身ともに完全にバランスがとれて……。あなたの神経はリラックスして落ち着いています。心身からあらゆる緊張は取り除かれる。体は爽快で軽く感じる。心に何かの心配、恐怖、不安があっても、集中を解くと消えてしまう。四、三、二、一、ゼロ！　眼を開きなさい！（ヘルパーは聞き手の眼前で指をピシッと鳴らす）」

（訳注＝ここから再びオーウェン氏の説明にもどる）

どうだろう、読者のみなさん。これはちょっと長いけれども、ヘルパーがあなたに自己暗示法を教えるのに必要な〝魔法の公式〟なのだ。右に述べた手順のすべてを翌日かまたは数日後にもう一度くり返して行なうとよい。今後、いつでも自己暗示法を応用するたびにやらねばならないのは、まず自分の右手か左手の親指のツメの根元の白い半月形の部分を見つめて、「心は深く静まってゆく」ととなえるか思念することだ。そして眼を閉じて三つほど数をかぞえる。そうすれば自分の望ましい物事が実現するように自分自身に語りかける準備ができたのである。

SIに接近する方法

SIに接近するための方法は次のとおりである。次の言葉を小さな紙に書いて常にハンドバッグか財布に入れておく。

「私は今、自分の心を長い時代を通じて古代エジプト、インカ、アステカの時代へ逆行させる。当時の偉大な秘密を知り、その秘密を私の所へ持ち返り、今私の住む世界で人類を援助するために応用するのである」

自己暗示法を学んだら、週に二度この紙片をベッドへ持って行く。寝る前に普通の自己暗示法を行なう。暗示法が終わって眼を開く前に、自分に対して次のように語りかける。

「私が眼を開くとき、自分で読む内容は大自然の力すべてにより必ず実現するのである」

それから眼を開いて、紙片の文章を力強く読む。

もう一枚の紙片には次のような三番目の公式を書いておく。

「私はここに私の心、魂、肉体を創造主にささげ、創造主が世界と人類を改善されることを決定されたときに共に働くのである。しかし私は悪魔を根底から否定し徹底的に排除する！」

右の第二の公式も週に二度応用するのだが、ただし朝、目覚めた直後がよい。普通の自己暗示法を行なったあと眼を開いて、右の公式を力強く自分に向かって読む。それから眼を閉じて数を逆にかぞえて、起き上がる。そうすると楽しい一日をすごすことになるのだ。

以上で大体に説明したが、もしヘルパーがここに述べた方法に疑惑をいだくならば、真に信頼できる別な人をヘルパーとして選ぶ必要がある。私は多数の人にこの公式を教えてきた。正しく行なうならば魔法のように作用する。だからヘルパーは信頼できる人でないといけないのだ。

「こんなことをやっている暇がないよ」と言う人もあるだろう。「興味はあるがむつかしすぎる」と言って本誌をパタリと閉じてテレビを見る人もあるだろう。

なかには深く研究して記憶法を習得し強力な「心のイメージ法」を開発する人もあるだろう。そしてヘルパーを得て自己暗示をマスターするだろう。そして百万の味方を得たように感じるだろう。しだいに幸せとなり、時の経過とともに自分の生活全体が変わって改善されるだろう。だが紙片に書いた公式はバカらしく思われて、やらないかもしれない。

少数の人はこの記事に述べた方法のすべてをまじめに実行するだろう。そうすると二つの結果の内、一つが起こるだろう。あたかもこちらが相手のドアーベルを鳴らしたのに応答するかのようにSIが注目するだろう。彼らは

本人の心を調べて、別な惑星からもたらされた秘密事を扱うのに適した人間であるかどうかを決定するだろう。彼らが本人の心を調べて、その結果、欲望、意志の弱さ、権力欲、貪欲、野卑、残酷さなどを発見したら――本人がどんなに他人をごまかしていても、彼らSIには地球人の心の状態すべてがわかるのだ――それ以上の進展はないだろう。そして超能力は与えられないだろう。

しかしあなた方の社会のど真ん中に――おそらく主婦、社員、トラック運転手、弁護士、野球選手、その他職業を問わず、子供でも――私が述べた方法をマスターできる潜在能力を秘めた〝眠れる人〟が少数ながらもいて、SIに心を調べられ、テストに合格して選ばれるような人がいるかもしれないのだ！

そのときからSIは本人を選んで超能力を授けるだろう。彼らが私にそうしたように――。

あなたはSIによってトレーニングと協力が望まれている。世界は現在危険な状態にあるからだ。人類はいつ破滅するかわからない。しかしあなた方のだれかがSIに見い出され、認められてトレーニングを受けるならば、まだ世界を幸福な安全な場所にするチャンスはある。健全に生活でき、戦争も殺人も憎悪もない場所にすることができるのだ。

終わりに、創造主があなたがたを祝福されんことを祈る。勇気がわいてきて、この記事に述べた方法を試みようという衝動を感じるならば、ぜひやっていただきたい。創造主のために！

訳者付記

テッド・オーウェン氏の「心のイメージ法」と全く同じ原理を述べた望ましい物事を奇跡的に実現させる方法は、昔から日本GAPで促進してきたことで、目新しいことではない。現在能力開発の研究家や団体が続出しているけれども、応用している原理はみな大体にイメージ法である。とすると、この方法には何かの素晴らしいメカニズムが秘められているのだろう。

科学的には未解決だが、こうした精神の応用法には驚異的な力が潜んでいると考えられる。訳者も昔からアダムスキー哲学によりこのイメージ法を心得ていて望ましい物事の実現に応用し、自分でも驚くほどの奇跡的成果をあげてきた。アダムスキーは「生命の科学」の中でこの方法を説いている。

自己暗示法も重要である。本記事に述べてある方法はいわゆる催眠術や自己催眠ではなく、強烈な信念を潜在意識に叩き込むための積極的な推進行為であって、普通の催眠術のごとく被術者の意志を術者に譲り渡すことではない。潜在意識のメカニズムは科学的には未解決であるが魔術的な力を持つことはたしかである。これに強烈な建設的暗示を吹き込むことが〝引き金〟の役目をし、本人の活動をその望む方向へ進行させるばかりでなく、運命の形成にも決定的な役割を果たすと考えられるが、科学的な機構はやはり不明である。

この記事でヘルパーが練習者に向かって述べる言葉は、自己暗示を行なう方法の説明であり、単独で開始するよりもこの方がより大きな印象を与えることになる。しかしどうしてもヘルパーが見つからねば、このイントロダクションをはぶいて単独で自己暗示法を実行して差し支えない。いずれにしても強固な意志を持って続ける必要がある。気まぐれに試みてすぐやめるのでは何にもならない。

SIとのコンタクトを図るための基礎姿勢として述べられた最後の部分の「本人がどんなに他人をごまかしていても、彼らSIには地球人の心の状態すべてがわかるのだ」はきわめて重要である。だからこそ日本GAPは多年にわたって想念観察を奨励してきたのである。

我々は他人をあざむかないように自省する必要があるが、それにはまず自分自身の心の状態、想念内容などを知らねばならない。そのためには絶えず自己の想念を注目し修正することが肝要である。そしてそのような行為自体が別の場所から――たぶん上空のどこかから――SIによって観察されているだろう。

一般人は本記事に述べられた「心のイメージ法」や「自己暗示法」の驚くべき効果を全く知らないし、想念観察の意義についても知識を持たないにもかかわらず、自己の心の内部は自身が最も熟知していると思いがちだが、これは錯覚である。自分が何をやろうとしているかについて知らないのが地球人の特徴である。第一、人間に与えられた〝生きる目的〟をほとんど意識することはなく、実際には何もかも不明のままに生涯を終えるのが普通だが、こうした人々の放つ想念が充満するこの世界で、ひとり高次の精神状態を保つのは容易ではない。

しかし努力して高次元な精神の状態に達すれば、それだけの価値をもたらすだろう。

これまで多数のGAP会員の方々からイメージ法を応用して奇跡的に海外旅行の長期休暇が取れたとか高価な自動車が買えたというような実例が寄せられている。イメージ法は絶対に本物の素晴らしい方法なのである。

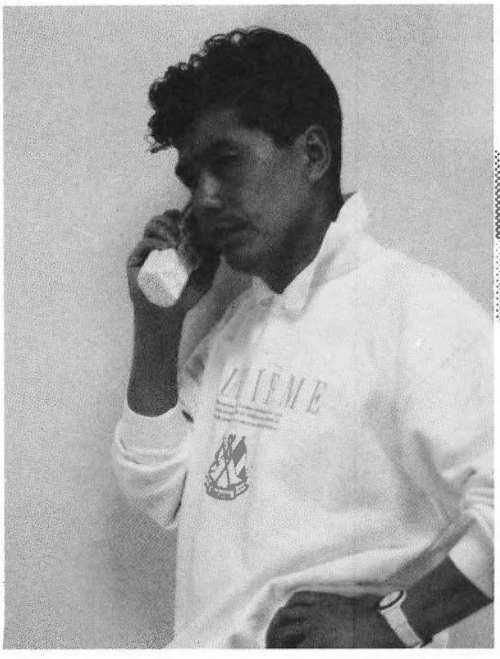
このあとに掲載した高梨十光氏の手記『病気治療の宇宙哲学的応用』と題する記事も、編者がかねてから提唱していたミラクル・ワードとミラクル・イメージを応用した実例でありオーウェン氏の記事内容と関連がある。

Diseases can be Cured by
Cosmic Philosophical Treatments
by Kazuaki Takanashi

病気治療の宇宙哲学的応用

高梨十光

アールティーオー鍼灸オフィス院長



◀筆者

一九九〇年、筆者は伊豆修善寺町に鍼灸院を開業した。そして病院でひそかに研究応用してきた技術を本格的に試す好機が訪れた。

筆者は、およそ一四年間リハビリテーション病院にパラメディカルとして勤務した鍼灸師である。病院では、運動療法と鍼治療を行なってきた。東洋医学と西洋医学の著しい相違。科学と心霊の著しい誤解。そこに生活する人々のさまざまな人間関係。病院の様子はまさに地球の実態を映す鏡のようであった。

日本GAPに入会させていただき二〇数年。宇宙哲学を治療に応用して一六年以上になる。治療に際しては、医療技術に加えて、「ミラクル・ワード」(反復思念法)、「ミラクル・イメージ」(イメージ法)、「テレパシー」を活用した。これを患者さんに指導したり、施術者が活用する。

なおケース(治療例)に関しては、プライバシーそのものを発表することになるので、氏名を伏すことはもちろん、ケース数、内容は大幅に削減、省略したのでお許しいただきたい。

それでは、早速、筆者がこれまでに診たケースを思いつくままに記すことにする。

最初の二症例は、病院入院中の患者が西洋医学で治らないとされた強烈な痛みを「指圧」「鍼」で治したケースである。

驚くべき治療例

症例A　ある特殊な病気(難治)

Aさんは、ある特種な病気による関節拘縮(関節の動きが固くなること)で強烈な腕の痛みを訴えていた。病院でも、これといった治療法はなかった。なぜなら現代医学の説で、その拘縮は治るはずがないとされているし、痛みも難治であった。本人は病院に内緒で「指圧療法」に行くと言う。困ったことだと思った。この症例には何の治療も無理。「指圧療法」が効くとは考えられないと筆者は思った。その後、指圧療法を受けたAさんに会って筆者は驚いた。痛みはなくなり、いくらか、関節も柔らかくなっているではないか!

これは、本人が指圧の痛みに耐えたためにある生理機構が働いたのだと察知した。この療法は治療にぜひ取り入れるべきと思ったが、病院の機構にはそぐわなかった。

このAさんの行動には自分勝手な面があったが、「指圧で治る」という内部の強い印象に従ったための好結果であった。

症例B　視床痛(難治)

Bさんも、強烈な広範囲な痛みを訴えた。これも現代医学ではどうにもならなかった。家族は、病院に内緒で鍼治療でこの痛みがウソのようにすっかり治ってしまったのである。

ところが、Bさんも一回の鍼治療で治療師に診ていただくという。これは実は視床痛(ししょうつう)といって、西洋医学でも鍼灸学会でも治らないといわれる痛みであったのだ。

次の各例は、主にミラクル・イメージを病気治療に応用した症例である。

症例C　運動麻痺(難治)

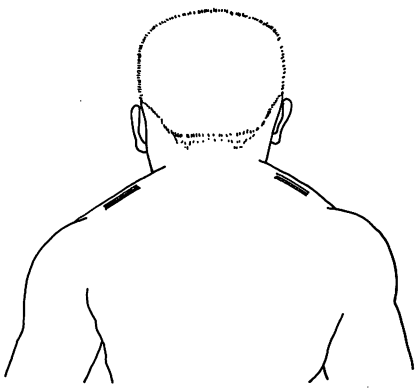
Cさんは、若く可愛い娘さんだったが、重度の運動麻痺があった。それまでの例で、とても治る例とは思われなかったが、運動療法により運動能力が九九パーセント回復した。これは奇跡的なことである。なぜ治ったのか、はっきりわからないが、たぶん若い娘さんであり、夢も希望も大きかったからではないかと思う。

もちろん筆者は工夫を凝らして、「ミラクル・イメージ」を説明しておいた。奇跡的な治癒は、夢も希望もある若い人にいくつか例がある。

症例D　運動麻痺(難治)

Dさんも若くハンサムな青年だった。Dさんはあきらかに、強烈なストレスにより、ある病気になった。運動麻痺があった。これも、治らなくてもおかしくない病気であった。不安が大きく支配していたが、それにもまして大きな夢と希望があった。たいへんよくなった例である。よく「ミラクル・イメージ」の話を聞いてくれた患者さんであった。

次の症例は治癒例ではないが、不思議な現象が現れた例である。このような現象は専門家の筆者も知らなかったことだ。こんなことが世の中にあるとは思ってもみなかったことだ。



症例E　運動麻痺（難治）

Eさんはある病気で鍼治療をしていた。ある日、両肩に、図のような、赤い線（メラニン色素）が現出していた、これは実は、鍼灸学でいうところの経絡現象である。三つのエネルギーの流れ、すなわち三焦経（さんしょうけい）である。なぜ現れたかは不明である。しかし、見えないはずのツボの流れが見えたのは不思議である。宇宙の意識が見せてくださったのだろうか？

宇宙哲学によるすごい効果

次からは、当院に訪れた方々の症例である。

症例F　腰痛（重症）

きれいな奥様のFさんは、腰痛を訴え、来院された。強烈なストレスにより（将来の不安だろう）腰痛が誘因されたと察した。治療を施したが、一回の治療だけではとても治りそうもない重症の部類だ。それきり来院されない。どうしたのか、心配でならなかった。

しばらくしたある日、その方から電話があった。今度はご主人の腰痛の治療依頼であった。心配だった本人の腰痛はどうなのかとうかがうと良くなったとのことだった。あの腰痛が治ったとは、すごいことだ。筆者はそれとなく、「ミラクル・イメージ」を教えたが、その効果が大であったと思っている。

症例G　腰痛（重症）

この患者さんも美しい女性だが、主に家庭的なストレスにより、腰痛を招いたようだ。

この方も二〜三回で来院されなくなった。かなり、重い腰痛であった。心配だった。

しかし、この方も腰痛は治療ですっかり消失したとのこと。信じられない！　治療中、アダムスキーの宇宙哲学をそれとなく伝えていたことは、いうまでもないことだ。

症例H　背中の痛み（重症）

Hさんは会社でのストレスが誘因と思われる強烈な背中の痛みで、背中を大きく曲げたまま来院された。

治療を施したところ、明るく元気になり、背筋を伸ばして帰られた。

これも一回の治療で大きく回復した例である。会社の人間関係のトラブルが背中の痛みを誘発させていたのだ。

症例I　腰痛（重症）

Iさんは腰痛である。若いのに重症。整形外科でレントゲンをとれば立派な病名を付けられるだろう。しかしたった一回の治療でこれも全快した。実はあまりに重症でありながら、一回の治療だけで来院されないので、どうしたものかと心配していた。とても治っているとは思っていなかったので、整形外科、あるいは他の同業者の治療を受けているのだろうと思い込んでいた例であった。

あれほどひどかった腰痛が全快とは、驚くばかり。まさに奇跡的な治癒とはこのことだろう。

症例J　スポーツ外傷（重症）

Jさんはある特殊なスポーツの有名選手。たくましい男性だ。スポーツ外傷で来院された。この患者さんは数回治療を試みた。実は、かなりの重症で一線に復帰できるかどうか、懸念していた。

ところがなんと、現在は、元気にトレーニング中とのこと。

この選手は一流のスポーツ選手らしく、筆者の説明をよく理解した。「ミラクル・イメージ」もよく理解しているようであった。きっと彼は、傷が完治し、やがてはそのスポーツ界で大成功することだろう。

症例K　○○病（難治）

Kさんは、病院で○○病と診断された。西洋医学では難治とされる病気である。定期的に治療されている。

この方は地方では有名なある会社の社長さんである。この方は、負けん気は誰にも負けない程強く、頭脳明晰、実力派であり、非常に謙虚で飾らない。要するに、練れた人間である。知的であるため典型的な合理主義者を装ってはいる。

ところがどうも、超能力やUFOに興味があるらしい。

少しずつ宇宙哲学を話しながら、友人として、治療師として付き合っていくつもりだ。そうすればこの方の病気は完全に消滅するはずである。

症例L　腰痛（軽症）

Lさんは、腰痛で来院。仕事の内容が腰痛を招く仕事。

第一回目の治療で腰痛は緩解した。第二回目は体調維持の目的で来院された。

治療中、突然せきをきったように、本人から始めた話のテーマはなんと「UFO」。話が止まらない。強い関心がある。よく知っている。

もともと都会にいたが、自然が好きで、伊豆に住みついた方である。本来、自然派なのだ。そういう方だから宇宙哲学のこともやがては理解されることであろう。その方ともぜひ一緒にUFOを見たいものである。

「治れ」と体に命令する

人間は観念で動く動物である。つまり頭の中で考え、そして体に命令し動く動物である。食事をしようと思ってから食事をとる。歩こうと思ってから歩く。これが基本である。

病気になった人が、病気を治したいなら、「病気よ、治れ」と体に命令あるいはお願いをすればよいのである。「そう簡単には治りませんよ」と誰しもがそう思う。そう思った途端、その分だけ「治らない」という方向に行ってしまう。

このへんの想念のコントロールは微妙である。また人間の脳は、明るいことを考えれば、同時に暗いことも考えてしまうからである。

「できるだけ明るく考えようとしてもすぐ暗いことを考えてしまう」それも正常な生理的なことである。

「どうしても暗くなってしまう。とても明るいミラクル・イメージが描けない」という時はある。そういう時がかなり長く続いて焦ってしまうことがある。だが、求道者の願いを宇宙の意識は知っている。そういう人をけっして見捨てはしない。それどころか、人間の知識では、想像もできないほどの力がすでに自動的に強く強く働き続けているのだ。

だから、安心して静かに待っていればよいのだ。

そうすればそれは突然実現する。これは大抵予想もできない展開で実現する。たとえばよい病院がすんなり発見できたり、よい治療師にめぐり会うとか、奇跡的治癒（ルールドの奇跡の如き治癒過程）の実現を経験するかも知れない。

カレル博士も奇跡的治癒を肯定

ノーベル生理学・医学賞を受賞した高名なアレキシス・カレル博士は、自らの体験に基づき科学的な眼で奇跡的な治癒を肯定している。

カレル博士の著書「人間―この未知なるもの（訳　渡部昇一）」には次のような驚くべき事実が展開している。

「一般に、奇跡は存在しないというだけでなく、存在するはずがないと思われていた。熱力学の法則により永久運動が不可能とされているのと同じように、生理学の法則も奇跡を不可能としている。これが、まだ大部分の生理学者と医者の態度である。しかし、過去五〇年間に研究した事実から考えると、この態度は支持できない。奇跡による治癒の最も重要な症例が、ルールドの医学事務局によって報告されている。病理学的障害に対する祈りの影響について現在われわれが持っている概念は、腹膜結核、寒性膿瘍、骨炎、化膿した傷、狼瘡〈ルーパス〉、癌などのさまざまな病気が、ほとんど即座に治った患者たちを観察したことに基づいているのだ。治る過程は一人一人ほとんど同じである。多くは鋭い痛みがある。そして突然、治ったという感じを持つ。二、三秒か二、三分か、遅くとも二、三時間以内に、傷は瘢痕となり、病理学的症状は消え、食欲は回復する。この現象が起こるのに欠かせない条件としては、祈りがあるだけである。しかし、患者自身が祈る必要はないし、宗教的信仰を持つ必要さえない。その病人のまわりの誰かが祈りの状態になるだけで十分である」

ここでいう「祈り」とは「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」のことである。前者は「治る、治る」という言葉を強烈に繰り返し、後者はすでに実現した光景を心中に描く技術だ。

筆者も奇跡を体験

実は筆者自身も急性の蕁麻疹（じんましん）を約三日間の連続「ミラクル・ワード」で完治させたことがある。確かに軽い痛みのようなものがあって、治ったと実感し、二、三分で全身の蕁麻疹が消えた。

この「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」による奇跡的治癒例は、日本GAP会員間で相当のことが起きているらしく、その情報は久保田会長が詳しい。「ミラクル・ワード」「ミラクル・イメージ」については、日本GAP機関誌既刊号の久保田会長の優れた論説記事を精読されたい。

基本は、新アダムスキー全集・第三巻「二一世紀／生命の科学」の「要約」と第八巻・第17章「イメージによって奇跡が起きる」を精読されるとよい。

また第二巻「超能力開発法」には、テレパシーについての詳細が述べられており、病気治療に欠くことのできない重要な文献である。

スペースピープルから提供された万能治療器が世に出ないという程の地球の医療事情、経済事情その他あらゆる事情。地球はこれほど病んでいる。

しかし、嘆くことはない。「よくなるよくなる　きっとよくなる！」と宇宙に「信念の力」「希望の力」「絶対に諦めない力」が轟き続けている限り万物が良くなるのだ！

ミラクル・ワードとミラクル・イメージ

久保田八郎

右の高梨氏の記事中の治療例で応用されているミラクル・ワードとミラクル・イメージについて少し解説しておきたい。前者は、「奇跡を起こす言葉」という意味で、後者は「奇跡を起こすイメージ」という意味である。筆者の造語であったせいか、この言葉は一般化しなかったようだが、これは正しい英語であると米人が保証しているから、用いても差し支えない。ミラクル・ワードは複数にしてミラクル・ワーズとするべきだと言う人もあったが、英語ではタイトルとして用いる場合、複数にする必要はない。

それはともかくとして、ミラクル・ワードというのは『反復思念法』と同じことで、ミラクル・イメージは『イメージ法』と同じである。本号冒頭の記事でテッド・オーウェン氏が『自己暗示法』と言っているのも要するに『反復思念法』のことであり、ミラクル・イメージはオーウェン氏の言う『心のイメージ法』と同じである。

呼称は何であれ、現在、雨後のタケノコのように輩出している能力開発の個人研究家や団体は、ほとんど『反復思念法』や『イメージ法』の応用を基盤にしているところからみると、この方法には魔術的な素晴らしい力が秘められていると思われるのである。

したがって、日本GAPは現在もこの二つの方法を提唱しているけれども、いまは英語をあまり使用せず、日本語で『反復思念法』『イメージ法』と呼んでいる。高梨氏が私の造語を忠実に使用しておられるのは、治療にあたる専門家として、それなりの配慮があるものと思われる。

私自身は昔からこの二種類の方法をアダムスキー哲学から体得していて、生活面でいろいろと応用してきた。そして自分でも驚くほどの奇跡的な成果をあげている。

反復思念法というのは、文字通り、自分の望ましい物事が実現するようにとの願いを込めて「×××は必ず実現する！」という言葉を連続して繰り返す。「もう実現してしまった！」という言葉ならベターである。つまり反復思念することによってオーウェン氏の言うように自己暗示をかけるのである。だからオーウェン氏は自己暗示法と呼んでいるわけだ。

これをもっと効果的にするのがイメージ法である。反復思念を行なうと同時に、自分の願望が実際に実現してしまった光景を心の中ではっきりと描くのである。たとえば、病気の人は、その病気が『治る、治る！』と万遍なく唱えるとともに、実際に治って健康そのものの状態になった姿を明瞭に描くのである。

これを続けていると、ある日から肉体が変化し始めて、健康の方向へ進行する。それは肉体の全細胞が本人の指令に応えて変化するからであると考えられるからだ。しかもこの方法はアメリカの医学界の一部ですでに応用されているのであって、科学的に立証されつつある。

ただし一般の医学を無視してはいけない。科学の最前線を行く医学の治療で治るものならそうするほうがてっとり早い。医学で見放されたような難病に反復思念法やイメージ法を応用するとよいだろう。

その他、実現しそうにもないような願望を奇跡的に実現させるのにも反復思念法とイメージ法が絶大な効果を発揮する。高梨氏もかなり以前、UFO観測用に天井が開いて空が見えるトヨタの車が欲しくて仕方がなく、そのことを反復してイメージを描いていたら、思いがけぬ方面から大金が入って買うことができた（ただし現在は三菱のGTOを使用している）。また同氏が病院勤めをやめて独立できた経緯には、ネズミに救われてミッキーマウスを創作し、世界のディズニー王国を築き上げたウォールト・ディズニーを思わせる奇跡的なネズミ事件があるのだが、ここでは省略しよう。

山形県に住むSさんは、日本GAPが実施する海外研修旅行のイスラエル行きに参加したくて仕方がなかったが、会社の休暇を一二日間も取ることは絶対に不可能であった。しかし必ず行けるという強烈な反復思念とイメージを描き続けていたら、全く奇跡的に実現したのである。この詳細もここでは紙面の都合により述べきれない。

編者主宰の日本GAP内ではこうした実例が沢山あるけれども、多数の会員は反復思念法やイメージ法による奇跡発生を当然のことと思って、あまり公言しないので一般に知られていない。

こうした方法による成果を「偶然の産物」と片付けて一顧をも与えない人はあまりにも気の毒である。自分の人生は全く自分の思いどおりに展開するからだ。自分自身を弱い奴だと思い込んでいれば、そのとおりに心身共に弱くなるし、強い男（女）だと信じていれば心身共に強くなる。筆者はこれまでに病人や困窮している人達からの無数の相談を受けてきたが、信念と希望皆無、恐怖と不安にさいなまれている人のなんと多いことか！

だが今からでも遅くはない。信念に満ちた反復思念法とイメージ法を活用して素晴らしい人生を築くことは誰でも可能である。前記の高梨氏はそれを応用して奇跡的に独立し、自身を救い、他人をも救っている。これが宇宙哲学の真の実践者であろう。

高梨氏の治療を希望する方は左記へ直接問い合わせられたい。

☎〇五五八―七一―七八三一「アールティーオー」

江東区上空のUFO

A UFO over Tokyo by Hisae Morita

森田久恵

昨年八月二三日（金）夕方五時四五分頃、娘（佳寿江・九歳・小学三年）はコードレス電話で自宅（東京都江東区）の三階西側の窓から外を見ながら電話をしていました。

いまにも夕立が来そうな曇り空。

娘は電話の途中で「あっ、飛行機」と一言。娘が見ているのは北西の方向。

そばで洗濯物をたたんでいた私は、東の空に飛行機が飛んでいるのをよく見るが、北西の空には見たことがないと心の中に思いながら、二〜三分たって「どこに飛行機が見えたの？」と娘に尋ねて窓の外を見た。

「あの給水塔のあたり」と娘は言ったが、もうそこには何も見えなかった。

もう一度娘の言った位置を確認しようとして目をこらして一〜二分位見ていた。

すると突然、向かって右の方向に動く金色の物体が目にはいったので「本当だ、飛行機」と言っているうちに、さっと左側に動き、目でそれを追っているうちに、ジグザグな動きをして、そのうち見えなくなってしまった。思わず私は「UFOだ！」と叫んだ。

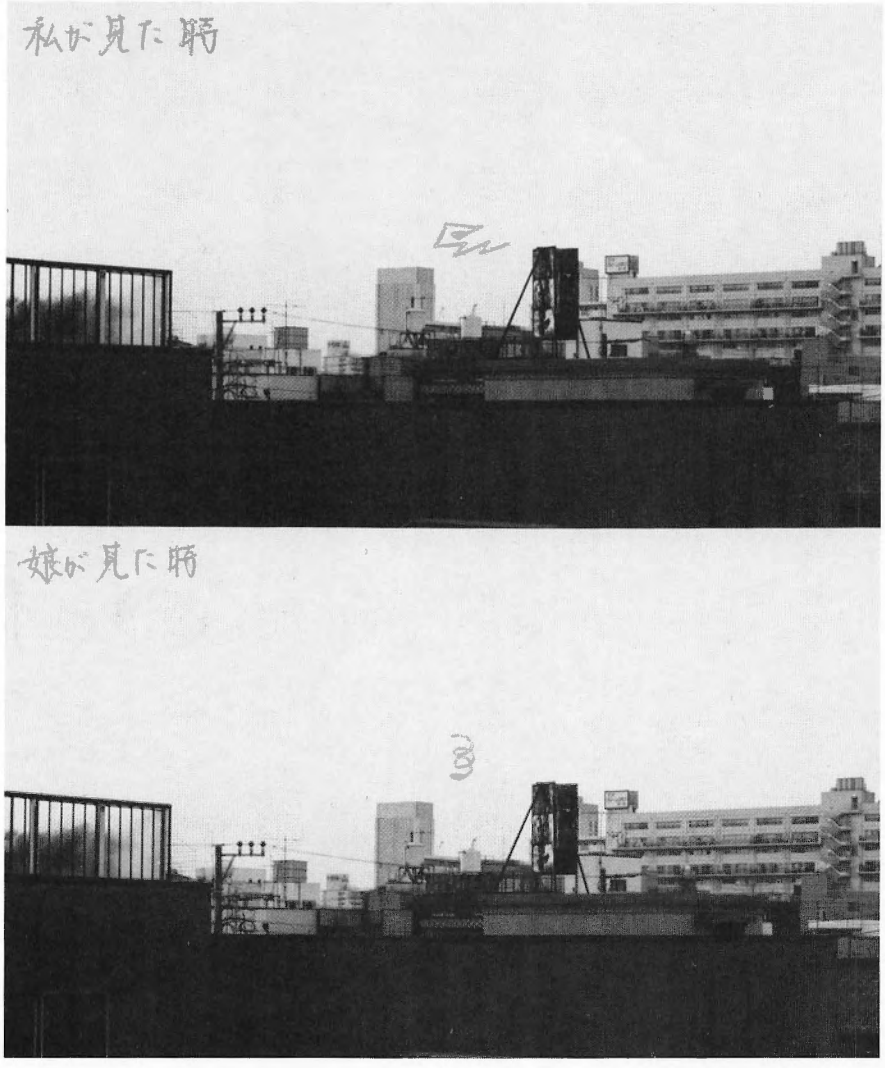
娘が見たときは素早い動きでグルグル回転しているので、着陸時の飛行機が施回しているのかと思ったという。

しかし娘が見た時と私が見た時とに五分位の時間の経過があるのに、全く同じ場所に現れるというのは飛行機ではあり得ないと思う。形は横に細長く、銀色に光っていた。

〈佳寿江さんの手記〉

最初にわたしが見た時は、ひこうきがぐるぐるかいてんしている時みたいだった。それがずいぶん動きがはやくて、ママに「あっ、ひこうき」といった。そしてママがきた時にはぐるぐるかいてんしていなかった。かくばったようになっていた。

▼上下共、自宅から目撃した方向を撮った写真にUFOの動きを描き込んだもの。



●カバー遺跡のUFO　昨年8月12日、日本GAP旅行団がメキシコ・ユカタン半島のカバー遺跡を訪れたとき、抜迫英子さん（鹿児島市）が撮影した写真にUFO（上空中央）が写っていた。撮影時には気づいていない。秋山眞人氏の鑑定によると本物のUFOであるという。

A Letter from Kagoshima

南九州支部からの声

曽我部勇人——Yuhito Sogabe

晩秋のこの季節、九州の連山は美しく彩られてきます。天孫降臨でも有名な高千穂は、その峡谷美で知られ、県外の観光客を楽しませています。鹿児島市でもNHKの大河ドラマ「翔ぶがごとく」で全国に放映されましてからは、見違えるほどに市が整備されました。観光とは施設の完備もですが、情操豊かな波動を久保田先生のように旅情、歴史観の豊かな人々に感受してもらえるような気風をも含むものと思います。県民のこれからの情操教育が問われるのではと責任を感じます。

さて、あの第一回南九州支部大会からいろいろな環境の変化、成長がありました。ささやかな事かもしれませんが、支部からの声としてご連絡致します。

昨年九月の日本GAP東京総会ではハンス・ピーターセン氏とダニエル・ロス氏両ご夫妻をお招きしての国際色豊かな画期的なものだったようです。南九州支部からは女性会員二名が参列させて頂きました。早速一〇月の当地月例会では彼女らの土産話で盛り上がりました。語学力の研磨に希望が出てきたとのことでした。母国語共に英語力は少なくとも自己紹介ができる位に訓練しておくべきだと思います。

南九州支部の初めての大会では久保田先生に御講演に来て頂きましたが、今でもあのときの感動は、とかく何かと意気消沈しそうになる今日、聖水の如き力を与えて下さいました。先生の御意向により西郷南洲の史跡にということでしたので、私も御一諸させて頂きましたが、私も南洲の不思議なカリスマ性、その死後の輝く西郷星出現の伝説に転生的な次元で推理しておりました。

あれから南九州支部会員達にいろいろな奇跡が起こってきました。まず支部代表の鶴田氏があのときの大会が縁となって良き伴侶を獲得されたことがありますし、支部にも、本当に円滑に運ぶという表現を立体的に証明したような会員達の成長と躍動が見られます。宇宙的な啓蒙活動がいかに私ら個人の社会的幸福との一体性を約束してくれるものであるかを知りました。

もちろんテレパシー能力開発の訓練も展望をもってゆくべきですが、個人個人のカルマの勢い、流れ、質などの差もありますので、よくその才能と相談しながら、無理なく楽しくリラックスして毎月の月例会を行なっている現在です。

久保田先生のテープのお声には素晴らしいウィットやユーモアがあり、毎月楽しく排聴させて頂いております。そしてさまざまな資料等の引例があって分かりやすい学習時間になっています。日本GAP会員も英語力が必要になる位にその活動も国際的になってきましたことで、時代の宇宙的推移を感じます。先生の御言葉「これからの私らは日本語と英語のバイリングァル的存在になるべきだ」には私も同感です。出来れば同時通訳が出来る位にまで訓練致したいと、夢と展望は大きいのですが——。

長くなりましたが、南九州支部会員の声を代理致しまして、お便り、近況報告と致しました。

この地球が一日も早く近隣の惑星兄弟達のような黄金文明に到達できますように、私ら南九州支部会員の意識もわずかながらも合流、お手伝いさせて下さい。いずれまたお会い出来ますことを楽しみにしております。今後も先生と全国会員諸兄姉におかれましては益々なる御清栄なる事、心よりお祈り申し上げます。

日本GAPへはいりませんか

★UFOと宇宙哲学研究世界トップクラス大集団★

●日本ＧＡＰは1961年にＵＦＯ研究家・久保田八郎がジョージ・アダムスキーの要請によって設立した世界屈指の研究集団。会員数は現在約1500名。中学生以上なら入会可能。
●専門誌『UFO contactee』を年４回発行（1、4、7、10各月）会員に直送。ＵＦＯ出現事件、宇宙科学、宇宙哲学等多岐に渡る記事と珍しいカラー写真を満載。興味本位を避けて読者に大いなる希望と勇気とビジョンを抱かせる有益な啓蒙的内容。
●東京本部と16箇所の地方支部が毎月月例研究会を開催。これは会員による研究発表、会長の『超能力開発法』解説講義、テレパシー開発練習、質疑、その他のプログラムにより真剣でしかも非常に和やかな雰囲気のもとに過ごす充実の日。
●本部と各支部は独自の計画によりＵＦＯ観測会を開催し、多大の成果を挙げており、これらは本誌に逐一掲載される。
●毎年秋に東京で総会を開催、海外より有力なＵＦＯ研究家を招待して講演、スライド映写等によりＵＦＯ問題の研究報告を行ない、夜はホテルで大夕食会を開催、旧交を温める。
●各地方支部も数年に一度、大会を開催し、会長の講演によるセミナーを実施。その他支部独自で各種の行事を行なう。
●毎年８月に古代の謎の遺跡を探る海外研修旅行を実施。
●会費は年４回発行の機関誌代として年会費￥4200（送料共）。６回分￥6100、８回分￥8000、10回分￥9900。入会金不要。
●入会案内書入用の方はハガキで下記へお申し込み下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511　日本ＧＡＰ

日本GAP企画第14回海外研修旅行

カナダ・イースター島 宇宙ロードの旅

大気圏外に思いを馳せるのは結構ですが、私達のホーム惑星である地球再発見も大切であるとの見地にもとづいて、日本GAPは過去13年間、毎夏に海外研修旅行を実施してきました。その間、謎の遺跡の見学を主体に訪れた国は延べ約50カ国に渡り、参加者も延べ約400名に達しています。

1992年も8月にカナダと南太平洋の謎に満ちた孤島イースターへの旅を実施します。ここは私達にとって未知の土地。素晴らしい体験が待ち受けていることでしょう。

カナダでは屈指の大都会トロントに到着、次に南米チリの首都サンチャゴへ直行。ここをたっぷりと見学後、ここから3700km離れたイースター島へ飛び、名高いモアイ像その他の謎の遺跡観光を満喫して、またサンチャゴへ帰り、この美しい都市でゆっくり散策休養。ふたたびトロントへ引き返して、ここで存分に観光と休息をし、希望者はナイヤガラの大瀑布を見学するという豪華な大旅行です。皆様のご参加をお待ちしております。日本GAP会員でなくても参加できますので、お誘い合わせください。

日程概要

1992年8月11日(火)　17:45成田発。
同日トロント着。飛行機を乗り換えて南米チリ・サンチャゴへ直行。
12日　朝サンチャゴ着、市内観光。
13日　終日市内観光。サンチャゴ自然博物館、アルマス広場、大統領官邸、サン・クリストーバルの丘、マイポキャニオン等を見学。
14日　イースター島行き。
15・16日　島内観光。カルデラ湖、鳥人の儀式村、各種モアイ像等を見学。
17日　再びサンチャゴへ。
18日　終日自由行動。
19日　自由行動。夜サンチャゴ出発。
20日　朝トロント着、午前中市内観光、午後は自由行動。
21日　トロント滞在。終日自由行動。希望者はナイヤガラの滝を見学（別途料金約¥15,000）。
22日　トロント発。
23日(日)　13:05成田着。

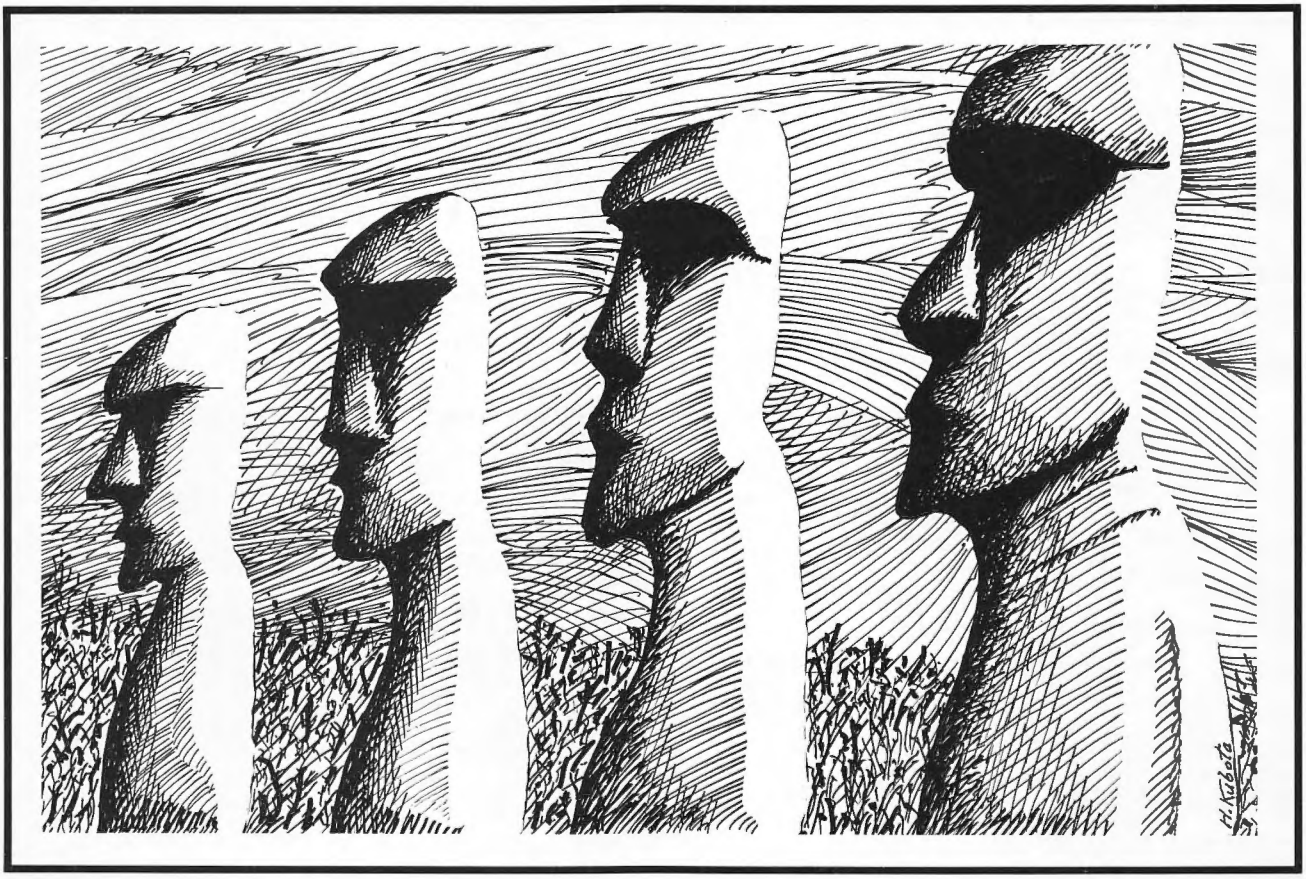
■期間＝1992年8月11日(火)～23日(日)
■費用＝¥658,000
■定員＝20名

案内書請求・参加申込先　下記へハガキでお申し込み下さい（日本GAPでは扱いません）。

〒150 東京都渋谷区東3-24-9
サンイーストビル2F
ワールドセブントラベル株式会社
田中　正
☎03-3499-2461
（夜間は 0475-89-2039・田中自宅へ）

- 旅行中は朝食9回、昼食4回、夕食5回付。
- 費用は24回払いローンもあります。詳細は案内書をご覧下さい。
- 夏はサンチャゴからイースター島までの飛行機が込みますので、参加申し込みは早めにお願いします。
- 旅行説明会＝第1回目・1992年5月17日(日)
  第2回目・1992年7月26日(日)
  （会場等の詳細は本誌次号に掲載します）

企　　画＝日本GAP
主　　催＝株式会社日本旅行
（運輸大臣登録一般旅行業第2号）
取扱い旅行代理店＝ワールドセブントラベル株式会社
（運輸大臣登録旅行業代理店業第1957号）



GAP短信 GAP NEWS

▼栃木支部主催UFO写真展大盛況

昨年一〇月三一日から一一月五日まで宇都宮市のａｍｓ宇都宮店で開催したUFO写真展は、入場者総数が三一二八人にのぼり、過去五回の写真展中、最大の盛況を呈した。

▼秋田支部主催UFO写真展も大成功

秋田市駅前の多目的ホールイベント広場である『秋田県総合生活文化会館（通称アトリオン）』二階展示場で秋田支部が一一月三〇日から一二月一日まで開催した第一回UFO写真展は、二日間で五七六六名の入場者があり、初回にしては驚異的大成功であった。これは地元の秋田県で頻繁にUFO出現事件が発生して〝UFOブーム〟がわきおこったためと思われる。

▼青森支部を廃止

青森支部は代表の田村嘉彦氏が職場の地位向上のため、責任が重くなり、支部運営が困難になったため、後継者が出るまでとりあえず廃止して様子を見ることになった。

▼仙台支部、月例会を当分休会

仙台支部も笠原弘可代表が職場で昇進して激務が増大したため、今年二月よりしばらく月例会を休会することにした。支部は従来どおり存続し、余裕が生ずれば月例会も再開する。

▼東京月例会、日程を変更

東京本部の月例会は毎月第一日曜日開催を原則とするも、左記のとおり臨時変更するので、お間違いなきように注意されたい。

二月＝第三日曜日の一六日に変更。
五月＝第二日曜日の一〇日に変更。

会場は従来どおり機械振興会館（東京タワー前）。

▼今年度東京総会

今年度総会は一〇月一〇日（二日連休の初日）、機械振興会館の地下二階大ホールにて盛大に実施する予定。今回は純然たるセミナー形式で研修会として行なう。当日の夕食会も銀座通りの大レストランで開催し、宿舎も銀座方面の安いホテルを斡施の予定。大盛況が予想される。詳細は七月発行予定の本誌一一八号に掲載。

▼今年度UFO観測会

今年度も五月にUFO観測会を実施するが、日時・場所は次号に掲載の予定。各支部のUFO観測会は昨年のように同一の日時で実施せず、各支部ごとに任意の日時に行なうことになった。詳細については各支部へ照会されたい。

▼今年度海外研修旅行

別掲予告のごとく今夏は八月一一日より二三日までの一三日間、カナダと南米チリのサンチャゴ経由でイースター島訪問の大旅行を実施する。イースター島は天空を凝視する謎のモアイ像で有名。定員二〇名。大好評を博して一一月末ですでに正規申込者は九名に達した。参加希望者は早目にワールドセプントラベル社へ申し込まれたい。申込金五万円は旅行費用の一部に充当し、早目にキャンセルすれば返金される。

▼おめでた二件

(1)日本ＧＡＰ会員の氏家明美さん（旭川市出身）は会員の花本直明氏と一一月にめでたく結婚し、金沢市に新居を構えた。ハネムーンとして今夏のイースター島行きに二人で参加の予定。

(2)同じく会員同士の石井晴海氏（つくば市在住・茨城支部副代表）と茨城支部会員・鹿窪（かくぼ）一江さんが一月一九日にめでたくゴールイン。

▼本誌の書店卸しボランティアー募集

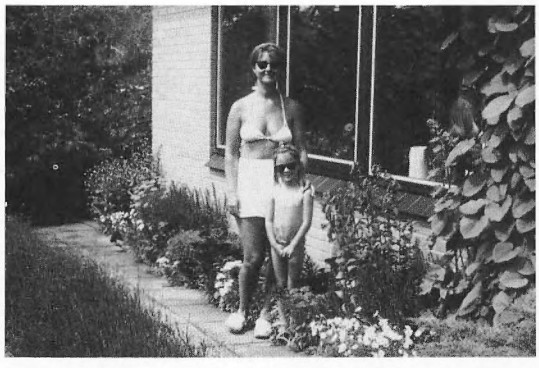
本誌は本来会員制で配布されているが、全国の一部大手書店でも直販されている。この書店開拓と卸し要員を募集中。詳細については日本ＧＡＰ本部宛にハガキで申し込まれたい。案内書をお送りする。

▼本誌に関するアンケート

本誌の内容に関する感想等を遠慮なく寄せられたい。ただし編者は超多忙につき、長文の質問には応じかねるが、月例会の質疑に出して頂くか、または夕食会で直接にお話できる機会はある。

▼デンマークより礼状

昨年九月の日本ＧＡＰ総会で講演したデンマークのハンス・ピーターセン氏より最近の便りに、孫娘のマヤちゃんからの礼状が同封してあった。これは帰国するピーターセン氏に日本人形を託した件に対するもの。写真はピ氏の息女インゲさんとその娘マヤ。七歳なるも見事な英文でしたためてあった。



▼高松支部もUFO写真展を開催予定

高松支部も今年二月八日より一一日までの四日間、高松市紺屋町一〇―一一『画廊ギャラリー宮脇』（高松市丸亀通りの宮脇書店新館の隣）にて第一回目のUFO写真展を開催する。UFO問題に関心の強い同市のこととて盛況が予想される。

▼会長、UFO関係図書執筆に拍車

久保田会長は今年度に数点のUFO関係図書を執筆、刊行の予定。今後は単行本執筆でも活躍すると張り切っている。月例会の指導もほとんど一人で大活躍している。

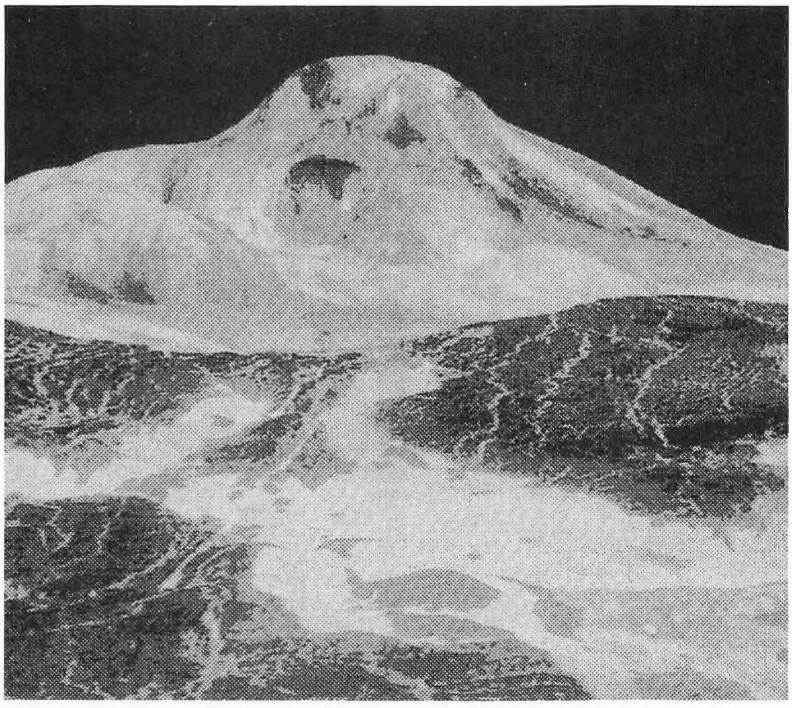
金星に活火山、数年前噴火の形跡

米航空宇宙局（ＮＡＳＡ）は二九日、金星探査機「マゼラン」による地表のレーダー観測の結果、今から数年前に噴火した形跡がある活火山候補「マート・モンス」を見つけ、その立体画像を発表した。

「マート・モンス」は金星の赤道近くにある高さ約八千メートル級の火山。スミソニアン宇宙物理天文台のジョン・ウッド博士らが地表の電波反射率のデータを分析したところ、一〇年前以内に生まれたと推測される岩石の部分が見つかり、ごく最近も活動していた活火山候補であることがわかった。

金星は、大気が五〇〇―六〇〇度もの高温で、濃硫酸の雲に覆われた過酷な環境にあり、いったん流れ出た溶岩は急速に風化が進むと考えられている。しかしデータから風化個所は意外に少なかった。活火山の存在が確認されているのは、地球を除けば木星の衛星「イオ」があるだけだが、マゼランの観測によれば、金星の地表では地滑りと見られる地表の変化も観測されている。

ＮＡＳＡの研究者は、「今も金星の地質活動が続いているのは確実。金星では、まだほかにも活火山候補があるかも知れない」と見ている。（10・30読）



▲衛星データからコンピューターで合成した「マート・モンス」の立体画像。白い部分が溶岩の流れとみられる（AP）

〝クリスマスの星〟は彗星

イエス・キリストが誕生した時現れ、三賢人を導いたと聖書に書かれている「ベツレヘムの星」について、英ケンブリッジ大学のコリーン・ハンフレーズ教授は「ベツレヘムの星は彗星だった」という新説を、近く王立天文学会季刊誌に発表する。この〝クリスマスの星〟は、これまで木星と土星が重なって見える「会合」現象と思われていただけに、キリスト教界に大きな波紋を呼びそうだ。

同教授は、木星と土星の軌道を詳しく計算し直したところ、キリスト誕生のころには、木星と土星は重なって見えることがないことを突き止めた。代わりに同教授が「ベツレヘムの星」の候補としてあげるのは、中国の古代天文書に記載されている彗星。主なものは紀元前一二年、同五年、同四年の三つあるが、同教授は年代的に紀元前五年のものが可能性が高いという。（11・1読）

高周波に快感効果

人の耳には聞こえないとされてきた高周波音。ＣＤ（コンパクトディスク）録音では、切り捨てられているこの音に、聞き手の「心地よさ」を高める効果のあることが脳波の測定で裏付けられた。文部省放送教育開発センターの大橋力教授＝情報環境学＝らのグループがこのほどニューヨークで開かれた音響工学会で発表した。

人に聞こえる可聴周波数の上限は、二〇キロヘルツというのが通説。このため、ＣＤの国際規格も、二〇キロヘルツ以下の可聴音を収録することになっており、それ以上の周波数の音は記録されていない。ところが、音楽家や音響エンジニアなど音に敏感な人たちの間では「高周波を加えた方が、聞き心地がいい」という意見が少なくなく、高周波を発するシンセサイザーなどが市販されている。

このため、大橋教授らは高周波の与える影響を調べるため、高周波音をたくさん含むインドネシア・バリ島の民族楽器ガムランを使って、快感を呼び起こす脳波「アルファ波」の変化を計測した。

実験では可聴音に高周波を加えた「広域音」のガムランと、高周波音を大幅に減らした「高周波カット音」のガムランを用意。一六人の聞き手に両方の音を聞いてもらい、脳の反応を分析した。その結果、「広域音」を聞けばアルファ波が強まり、逆に「高周波カット音」を聞くと弱まることが確認された。

しかも、「広域音」によるアルファ波が十分に強まるのは、音の発生から約三〇秒後。「広域音」でいったんアルファ波が強まれば、その状態は一〇秒間の休憩後に「高周波カット音」を聞かせても、六〇―一〇〇秒間ほど続くことがわかった。これは「広域音」による快感が「鐘の音の余韻のように、脳に残ることを示している」と大橋教授はみる。

実験結果から考えられるのは、アルファ波という無意識レベルの作用が聴覚という意識レベルの知覚を「かくし味」のように補完する回路が脳内にあるのではないかということだ。大橋教授は「音の環境が人間の生理にどうかかわっているのか、無意識レベルまで考える必要がある。人間は『雑音』を排除する過程で、

高周波も除いてきた。今後は、音楽に高周波を盛り込んだり、生物が発する自然の高周波を都市環境に取り入れていくことが好ましい」と語っている。（10・14朝）

恋人の心ものぞけたら……

妙な突起物をつけたこのヘルメットは「双極子追跡装置」のかなめとなる頭蓋形状センサーである。東京工業大学の武者利光教授（物理学）（六〇）が、一〇年を費やして完成させた。

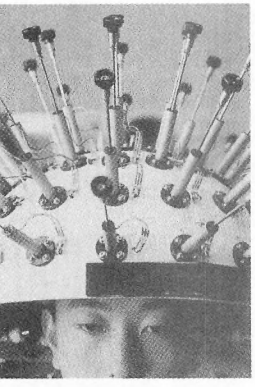
音や文字、光など、人間が五感でとらえたさまざまな刺激は、電流のパルスとなって脳の中を伝わっていく。この装置は刺激の種類によって異なるその経路を、映像化してとらえる。

ハリネズミのような六四個の電極が、十人十色の頭蓋の形を的確につかみ、神経細胞が電気的に興奮する地点を探す。頭の表面の電位の変化を測定し、脳の中を駆け抜けるパルスの方向や強さを突き止める仕組み。

頭蓋骨の電流伝導度が低いために誤差が生じるが、スウェーデンのウプサラ大学との共同研究でこれを補正するソフトウェアを開発した。

測定したデータはコンピューターに表れる。電流の伝わった道すじが、頭の前後左右上下の各断面図に、色鮮やかな線で走る。脳内部の「立体地図」を作製することも可能で、てんかんや聴覚障害の診断など臨床でも威力を発揮しそうだ。

脳がどこで何を感じているか――。将来的には、感覚や認識だけでなく喜怒哀楽の感情を追うこともできるという。（10・16読）



小脳の働き、新学説

人の小脳は、体の平衡を保ったり、筋肉を滑らかに動かしたりするための脳といわれてきた。だが、それだけではなく、記憶や学習など精神活動にも重要な役割を果たしているらしい。

理化学研究所の伊藤正男・国際フロンティア研究システム長は、いくつかの証拠からこの新説を唱え、注目されている。

例えば、人がコップを口まで持ってくる動作を考えてみる。大脳は目からの情報を逐一チェックし、コップを口まで運ぶよう手の動きをたくみに操る。

実はこの時、小脳も一緒に働いていて、正しい動作を覚えるのだという。

体が同じ動きを何回も繰り返すうちに、小脳は手を制御するための神経回路をつくる。自転車を乗りこなしたり、水泳に上達したりするのも、小脳の同じ機構が働いているようだ。

このことは、小脳に障害のある患者は、目を開けていれば正しく動作できるが、目を閉じるとコップを口までうまく持って行けないことからも説明できるという。

これらの事実から、伊藤さんは「同じことが記憶や学習などの精神活動の際にも起こっているのではないか」と指摘する。

人は難しい理論を初めは苦労して学ぶが、いったん学んでしまえば、次にはあまり苦労しないで考えを進められる。これも、小脳の回路が徐々にできてくる結果だというのだ。

最近は人の脳の血流を画像でみることができるようになった。この画像診断装置で観察すると、暗算をしたり、頭の中で何かのイメージを描いたりすると、小脳の血流が増えている。

「頭が良い」というのは、大脳だけでなく、どうも小脳の働きにも左右されているらしい。（10・30読）

記憶プロセスに手掛かり

二種類の神経細胞発見

二つの図形をペアにして記憶する際に働く二種類の神経細胞を東大医学部の宮下保司教授、大学院生の酒井邦嘉さんのグループがサルを使った実験で発見した。

長期記憶のプロセスには、物事を覚えこむ過程と、思い起こす過程の二種類がある。神経心理学的には、覚えたことを思い起こす過程の二種類がある。神経心理学的には、覚えたことを思い出すにはある種の連想が働くという考えがあり、そのような過程には脳の特定の部分がかかわっていると考えられていた。

宮下教授らは一二組、二四種類のコンピューター・グラフィックスを使い、二つずつの図形を関連付けてサルに覚えさせた。その後、各図形に対する脳の神経細胞の活動を電気生理学的に調べたところ、関連付けて覚えたペアの図形の両方に反応する神経細胞があることがわかった。

また、ペアの絵の片方を見せて他方を思い出させる時に働く神経細胞が、覚える過程で働く細胞のすぐそばにあることもわかった。

宮下教授は「関連付けて覚えたものは、一つの神経細胞の上に重ね書きされているので、連想が可能になるのではないか。また、二種類の細胞の間にはなんらかの関係があるだろう」と話している。（11・14毎）

せきの犯人確認

せきを引き起こす原因物質は、痛みを伝える神経伝達物質の一種タキキニンであることを、東北大医学部老入科（佐々木英忠教授）が初めて動物実験から突き止めた。

せきは呼吸器系の病気では当たり前のように起きるが、原因物質は未解明だった。同科グループは気管支炎患者の臨床データなどから、タキキニンを分解する酵素（ＮＥＰ）に注目。ＮＥＰが少ないとタキキニンが気管表皮にたまり、気管表皮を収縮させてせきが起きると推論した。

複数のモルモットにＮＥＰを阻害する薬を投与して気管のタキキニンを増やしたところ、約四〇分間で平均一一・七回せきをした、タキキニンのはたらきを阻害する薬を投与した結果、モルモットはせきをしなかった。これらのことから、せきは刺激された感覚神経がタキキニンを分泌、これをＮＥＰが抑制できないと起きることがわかった。

現在、市販されているせき止め薬は、せき中枢の興奮を抑えるものが主流。同科の関沢清久医局長は「神経伝達物質がせきにも関与していたことがわかって興味深い。タキキニンは人にもあり、その増加を抑えれば同じ効果が認められるはず。呼吸器疾患に有効な手段となる」としている。（10・6読）

無機物にも「らせん構造」

炭素原子が円筒状に並んだ、らせん構造の結晶になっている物質を、日本電気の研究陣が発見した。無機物質でらせん

構造が見つかったのは、世界で初めてという。一一月七日発行の英科学誌「ネイチャー」に紹介され、同誌は「新しい材料科学の分野を開くもの」と評価している。

同社は、この物質を「カーボンナノチューブ」と呼んでいる。発見したのは、飯島澄男・同社主席研究員ら。アルゴンガスの中に二つの炭素電極を置いてスパーク放電させ、超伝導用の炭素物質を作っていた際、マイナス電極上に成長した物質を調べた結果、こんどの新構造物質を発見した。

紙のように薄いグラファイト（黒鉛）の結晶が、同心円状に円筒形を作っており、円筒の直径は最小で二ナノメートル（百万分の二ミリ）。円筒の層の数は二―五〇とさまざまで、炭素原子六個で作る六角形が約三〇集まって、円周が出来ている。円筒の長さは、千分の一ミリに達するものもあるという。

この物質は、これまで使われている炭素繊維に比べ、結晶構造が安定していることから、熱に強く、他の物質の影響を受けにくい。らせん構造の違いにより、電気を通したり通さなかったりする性質をもち、同社はいろいろな応用が考えられるとしている。（11・9朝）

サワラの葉に〝殺ダニ〟成分

ヒノキ科の常緑樹サワラの葉に含まれる樹脂成分のピシフェリン酸が、ゼンソクの原因である家ダニの退治によく効くことが、農水省森林総合研究所（茨城県茎崎町）の谷田貝光克・生物活性物研究室長の研究でわかった。

サワラの葉は、魚やマツタケ、ミカンなどの下に敷いて新鮮さを保つのに使われている。谷田貝室長はこの葉をアルコールに浸して樹脂成分を抽出、ピシフェリン酸やその仲間が、ダニにどんな効果があるかを調べた。

その結果、ピシフェリン酸をしみ込ませたろ紙の上に家ダニを置くと、三日後には約八割が死んだ。化学合成した市販の殺ダニ剤に比べ、「中ぐらいの強さ」だったという。

最近の住宅は、機密性が高く、高温多湿の室内は家ダニが繁殖しやすい。カーペットなどは格好の住み家。その死がいやフンはゼンソクの原因物質のひとつになっている。（10・16読）

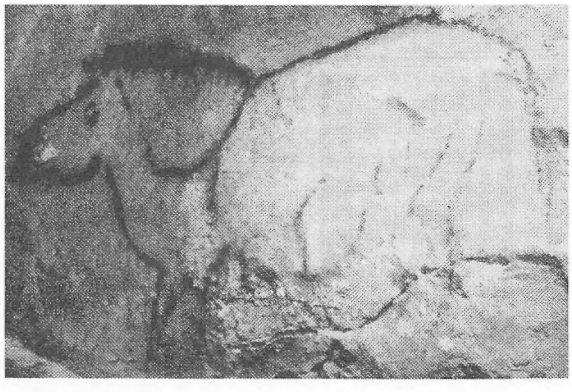
ギザの大スフィンクス 定説より三、四〇〇〇年古い

エジプトのカイロ郊外ギザにある古代遺跡大スフィンクスは、その建造年代が定説より二五〇〇年から四〇〇〇年も古く、紀元前五〇〇〇年から同六五〇〇年にさかのぼる――。ボスト大学のショッチ教授らの研究チームのメンバーのエジプト学者ウェスト氏が二二日明らかにしたところによると、一行は今春エジプト入りし、古王国時代第四王朝のカフラー王（前二四九四年没）期に建造されたと伝えられていた大スフィンクスについて地質学調査をした。その結果、材質の砂岩に残された亀裂や風化現象の跡から、それが長期間続いた降雨によるものであることが判明したという。

エジプト周辺では、今から約一万二千年前に氷河期が終わってしばらくは長雨に見舞われたが、この後は現在のサハラ砂漠に見られるように乾燥化の一途をたどっており、この大スフィンクスの建造年代も前二五〇〇年前後と考えるのは新し過ぎるという。大スフィンクスの隣に立つピラミッドなど他の石造物に雨による浸食の跡がないことも一行の学説を裏付けるとしている。

ウェスト氏は「カフラー王は大スフィンクスを修復、化粧直ししたにすぎない」と語り、砂漠の下に古い建造物が埋もれている可能性があると指摘した。（10・24読）

太古の洞くつ壁画



フランス地中海沿岸の小さな港町カシス（マルセイユ南東）の近くで今夏、一万二千―二万二千年前の石器時代の壁画がある洞くつが発見されていたことが一八日明らかになった。考古学者たちは、ラスコーの壁画に匹敵する「世界的な発見」とみている。

フランスのラング文化相はこの日パリで壁画の発見が発表されたあと、この洞くつを史跡に指定すると述べた。同文化相は二一日、記者会見して詳細を発表する。壁画には動物や日常生活の様子が描かれている。エクサンプロバンス大学西部地中海人類学・先史学研究所のロベール・シェノルキアン所長は、この壁画は炭とマンガンを使って描かれており、少なくとも一万二千年前のマドレーヌ期（欧州の後期旧石器時代の最終期）のものだと判断。二万二千年前までさかのぼる可能性もあるという。（10・20読）

雲仙噴火、太陽や月の引力が引き金!?

大規模な火砕流を引き起こした雲仙・普賢岳の噴火は太陽や月の引力（潮汐力）が引き金になっていたとする新鋭を静岡大・名古屋大・群馬大のグループが一五日、仙台市で開かれた日本火山学会で発表した。研究は普賢岳の火砕流の発生時刻と潮汐サイクルの関連を調べたもので、同グループは「潮汐は月や太陽との位置関係によって正確に計算できるので噴火予知の手段として有望」としている。

同グループは月の運行周期が火砕流と微妙に一致していることに注目、五月下旬から六月上旬までに発生した火砕流の発生時刻と潮汐力の周期を調べた。継続時間一二〇秒以上の火砕流は普賢岳の真上と南南東から潮汐力を受けた時に多く発生しており、この二方向が潮汐力の最大だった。

ただ、潮汐力そのものは弱いためマグマを持ち上げるほどの力はなく、同グループは「マグマだまりや火道のマグマが今にも噴き出しそうな状態の時に、潮汐力が最後の引き金となって作用する」としている。（10・16読）

Rescued by Space Brothers?
by Kiyonori Fujisawa

ブラザーズに助けられた？

藤沢清則

昨年一〇月二五日は会社の三連休の初日でしたので、以前から行きたいと思っていた山へ行くことにしました。

午後二時近くなって用事が片付いて夕食の時間まで暇になりましたので「山に行きたいな」と妻に話しますと、「いいわよ」と言い、「子供も置いていって」と言うので、すぐ支度をして車に乗りました。

不思議と子供もついて行こうとせず、「行ってらっしゃい」と手を振っていました。

目的の山は長野県と新潟県の県境に近い標高二〇五三メートルの黒姫山で、近くには妙高山（二四四五メートル）もあり、スキー場、ハイキング道、温泉も点在しています。

自宅を出てから三〇分近くで黒姫山に近づいたので、林道脇に車を停めて山に入りました。金曜日の午後ということもあって人気もなく、とても静かな山です。

腰に吊したクマよけの鈴の音だけが山に響きます。静寂な山をストロボのフラッシュライトの点滅で照らしながら一本登ると林道に出ました。

ここはいままでの狭い山道から、広いけれども勾配のきつい道となります。シナノ木を過ぎてカラ松林（黒姫山の七曲がり下）三合目で一面の雲海に出ました。

七曲がりでは抜けるような青空が展開してものすごい爽快な気分になりました。まるで想念波動が上方の宇宙空間へ抜けて行くようなフィーリングが起こります。

ところがここで時計をなくしてしまったことに気づいたのです。それで、スタミナの配分をどうするかで困ってしまいました。通常キノコ取りなどで山に入るときには一時間入ったら下山するようにしているのですが、ここまで来る途中で勾配が急なために休息したとき、スタミナが減っていたので、ポカリスエットを飲んだら体調が良くなったために、いつもよりよけいに山へ入ったようです。

引き返そうかと思っているうちに、辺りが少し暗くなったので、下山を始めたのですが、山を走り下りた状態でした。シナノ木の所に来た頃には、林の中のため、外よりも暗く、足もとは落ち葉で滑りやすくて、急勾配のためにジグザグに下りないと危険です。まっすぐに走ればスピードが出過ぎて、一歩でも転べばはるか下まで転がり落ちそうな道でした。

足もとのよく見えない立体感のないモノクロの世界を必死で下りているうちに、言い知れぬ恐怖の念がわき起こってきました。

「こんな所に一人でいてどうしよう。食料もない。室井（友人の名）助けてくれ。スペースブラザー助けてくれ！」

と勝手なことを思いながら下って行くのですが、なかなか元の林道に出ません。よく見ると目の前がブッシュで先が見えず、前方に道らしきものがあるようですが、なかなか出られません。どうやら途中で道を間違えたらしく、四苦八苦して山中を彷徨するうちに、やっと林道に出たのですが、そのときは太陽も落ちて星明かりが見えていました。

ここで私はハタと困ってしまいました。それは下の車まで行くには、この先の山道をまた下りなければならないからです。ここから下は道も狭いので林の中はかなり暗くなっているでしょう。どうしようかと考えた末、林道を下りることにしました。

この時点では現在行こうとしている林道が下りか上りか分からず、また一本道なのか途中で分かれているのか見当がつきません。リュックを背負い、カッパを着て、スパイク付きの長靴姿で暗い山道を必死になって走るようになろうとは、当初想像もできないことでした。

ところが山道をいくら走っても車の所へたどり着かないのです。次のカーブを曲がったら車が見えてくるぞと期待しながら行っても何もありません。次々とカーブを曲がるたびにむなしい暗黒が待ち受けているだけです。私の全身に恐ろしい恐怖感がみなぎりました。

「まさかこんな所で遭難するのではあるまいな。食料もないのに。気温が下がっても暖をとる物がない。朝までもたないぞ。誰か助けてくれ！　死にたくない！　スペースブラザー助けてくれ！」

山から下界の町の明かりは見えるのに車のある場所が全く分かりません。焦る気持をなんとか抑制しようと思いつつ走ったのですが、ストロボの電気を節約するためになるべくOFFにして走って下りました。

約二キロ走ったでしょうか、暗闇の中に突然白い物が見えたのです。車でした！　助かった！　私はへたへたと座り込んでしまいました。

やはりスペースブラザーズのご援助があったのだ！　私はストロボを点滅させながら円を描いてサインを空中に送りました。

「エンジンをかければブラザーズは安心する」というフィーリングが起こったので、エンジンを回し、スモールランプを点灯し、スライドドアーの方に移動して、もう一度ストロボのフラッシュライトで空中に信号を送ってから、二〇秒ないし三〇秒してなにげなく空を見ると、頭上を北へ移動する光

体があるのに気づきました。

最初は人工衛星かと思ったのですが、光体はかなり大きくて、しかも高度が低いのです。

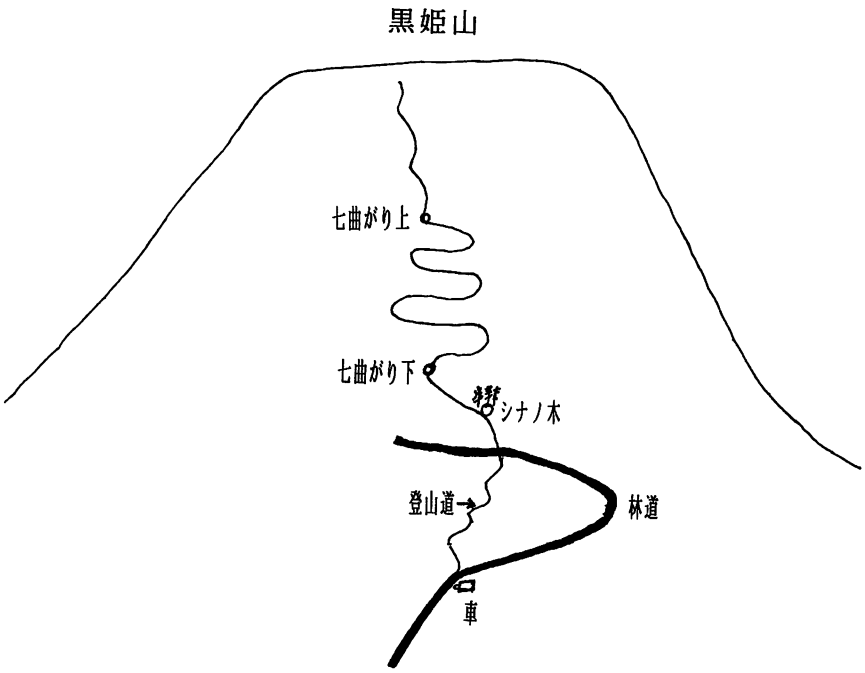
「UFOだ！」

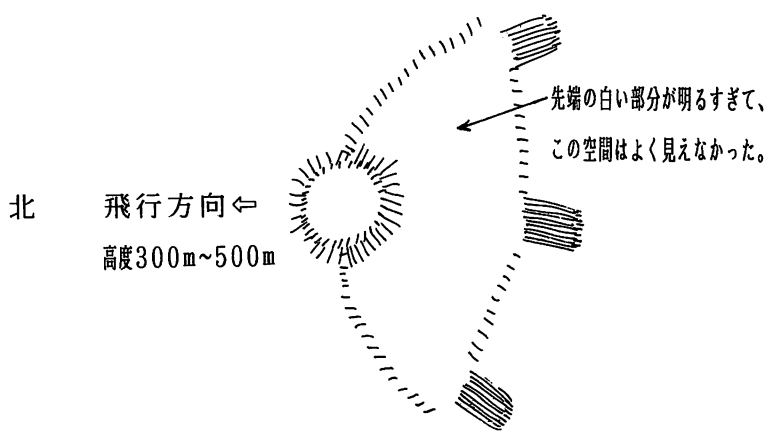
あわてて車の中から七倍の双眼鏡を出して覗いて見ますと、図のように見えるのです。明かりの点滅はなく、無音のまま北へ飛んでいます。時間は午後五時三〇分で高度は三〇〇ないし五〇〇メートルでした。中心部に白い丸い物があり、その少し後方三カ所に黒い足のような物が見えるのです。全体がおわんを縦にしたような形だったと思います。

私はスペースブラザーズに感謝の想念を何度も送りました。私を見守ってくれていたのだなと感じて、ユーコン誌一一五号の記事「暗闇から現れた不思議な人々」を思い出しました。

編者注＝藤沢氏は約二〇年という日本GAP会員歴をもつ熱意あるUFOとアダムスキー研究家であり、温厚な誠実な人。したがって山中で遭難しかけたとき、スペースブラザーズに助けを求めたのは当然であろう。

何かで困窮してニッチもサッチもゆかなくなった場合、ブラザーズにテレパシーで想念波動を放射して援助を求めると奇跡的に救われることがある。ただし平素からブラザーズの存在と偉大さを認識しておく必要がある。





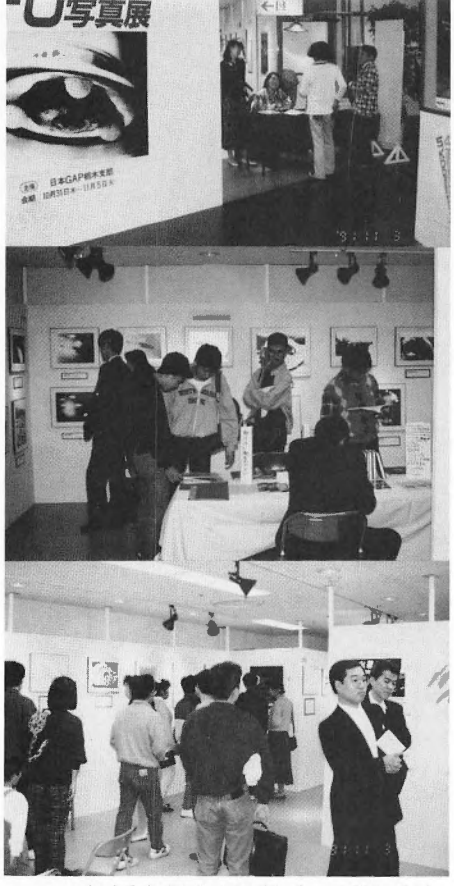
最多入場者！

栃木支部主催ＵＦＯ写真展

昨年一〇月三一日から一一月五日までの六日間、ａｍｓ宇都宮店で、日本ＧＡＰ栃木支部が主催した第五回目のＵＦＯ写真展は平日を三日も含む日程ながら、入場者数が計三一二八人に達して、同支部主催の写真展中過去最多記録を樹立。従来の展示場よりも狭いのでテレパシーコーナー、カセットコーナー、スライド映写等は省略。アダムスキー関係ＵＦＯ写真のほか、ＵＦＯ問題世界の動向、月の謎、金星の謎、火星の謎、その他のパネルを展示。また栃木支部制作のビデオ『ＵＦＯ問題一〇〇人に聞きました！』の上映、アダムスキー型円盤の模型（縮尺二一分の一）の展示等、新企画を盛り込んだ。

会場にはアダムスキー関係図書の閲覧コーナーを設け、販売はａｍｓのブックセンターが行ない、数十冊出た。入場者に配布した資料はＵＦＯ写真展のパンフレットの他、Ｕコンのバックナンバー、小冊子『ＵＦＯ－Ｑ＆Ａ』その他があり、ＵＦＯの存在を裏づける資料として役立った。さらに会場でアンケートを実施。人々の回答は好意的なものが多く、主催者側を喜ばせた。来場者のなかから約二〇件のＵＦＯ目撃報告が寄せられ、なかには至近距離から目撃した例もある。

今回のＵＦＯ写真展に際しては、街頭インタビューで若干の宣伝を行なったのみで、それ以外の予告活動はしていない。それにもかかわらず、これほどの入場者があったということは、ＵＦＯ問題に対する一般人の意識が高まったことを示している。（渡辺克明）



▲栃木支部のＵＦＯ写真展（ams宇都宮店）

秋田支部のＵＦＯ写真展も

空前の大記録！

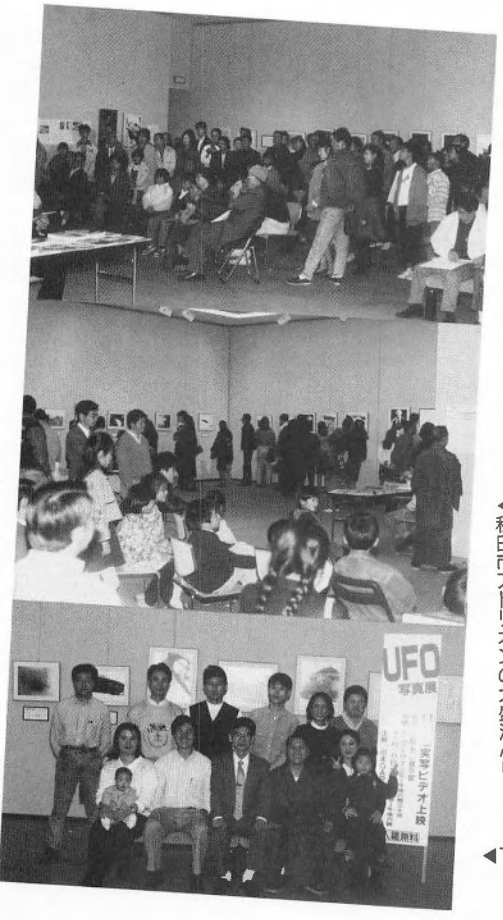
何をやるにしてもフタをあけてみなければならないと言うが、秋田支部主催の初のＵＦＯ写真展は、まさしくそのとおりだった。

昨年一一月三〇日（土）と一二月一日（日）の二日間、秋田市の秋田県総合生活文化会館（通称アトリオン）の二階美術展示ホールで開催されたＵＦＯ写真展は、入場者数が初日で一五六二名、二日目がなんと四二〇四名、たった二日間で計五七六六名という驚異的な数となり、会場は大変な熱気に包まれた。これはアトリオン始まって以来の最高の入場者数ということである。これによって秋田県人のＵＦＯに対する関心の高さが実証されたと思う。

もともと秋田県はＵＦＯの目撃例が多く、回収した二一〇枚のアンケートの内、目撃体験を詳しく記載した人が四五名もあった。

今回の写真展が大成功をおさめた理由にはいくつかの要因がある。まず一カ月前に某週間誌に『秋田で目撃されたＵＦＯ』と題する記事が大きく載せられたこと、支部会員の努力により、秋田放送がラジオ番組で三〇分の特集を組んでＧＡＰと写真展について大々的に放送したこと、会場も市内で最も格調高い場所が借りられたこと、天候の悪い一二月にもかかわらず快晴であったことなどがあげられる。

秋田支部は昨年来会員が増加しており、今回は各自で個性を発揮して健闘した。秋田支部はこれを機会に一段と結束を強化し、日本ＧＡＰの発展に寄与したいと張り切っている。ご協力頂いた方々に感謝したい。（佐藤忠義）



◀秋田市アトリオンの大盛況ぶり。

◀下は秋田支部役員

日本GAP東京月例研究会セミナー

会場＝日本GAP東京本部月例研究会セミナーは、過去二〇年間、東京上野公園内の東京文化会館で開催されていたが、昨年九月より会場を港区芝公園の機械振興会館に変更した。ここは東京タワー正面入口前の道路をへだてた斜め前なので分かりやすい。原則として毎月第一日曜日が月例会であるが、ときには第二または第三日曜日に臨時変更があるので、本誌巻末の全国月例研究会案内を参照されたい。

日曜日の機械振興会館は正面玄関が閉鎖されているので、向かって右側の建物の角を回って建物の右側面の地下一階の入口から入る。入るとすぐエレベーターがあるので、地下三階へ下りるとすぐに第二研修室へ行き着く。入口で当日会費を納入し、名簿に必要事項を記入して席に着く。

内容＝会場はかなり広く、椅子席は全部で一一〇名分あるので、ゆとりは充分ある。ここへ毎回八〇名前後の人が出席するのだが、GAP月例会の特徴は、進行中どんなに多人数になっても静粛そのもので、私語をかわす人が皆無という状態。宇宙的波動のみなぎる素晴らしい雰囲気に満ちているという点にある。多年司会を勤めてきた篠、越崎両名の挨拶に続いて、最初にまず会員の講演がある。これはあらかじめ指名された人がUFO目撃体験または宇宙哲学の研究実践等に関して四〇分ないし五〇分間話す。そのあと休憩。

続いて久保田会長の解説講義が始まる。現在は新アダムスキー全集第二巻『超能力開発法』をテキストにして会長が懇切丁寧に説明する。ときにはふだん聞けないような秘話も出てくるし、ユーモラスな話しぶりに笑い声も起こる。解説講義に続いて実物投影機で珍しい写真や図形等を映写して解説することもある。

昨年一一月からは会長の指導により、解説講義の最後に全員で『大宇宙瞑想』の実習を行なっている。これは自分が大宇宙の意識（創造パワーと英知）との一体化を図るための瞑想である。これにより自分自身の信念と万物一体感が強化され、さらにテレパシーその他の超能力開発のための重要な基礎が形成される。難病治療に『イメージ法』を応用する場合も、この『大宇宙瞑想』を土台にして行なえば絶大な効果がある。この瞑想法はけっして難しくはないが、やはり出席して指導を受けないことには要領を把握しにくい。これは、あくまでもアダムスキー哲学を主体にした科学的なマインドコントロール法である。つまり人間個々の内部にある宇宙的、絶対的な実体を認識して、マインド（心）をそれと一体化させようとするものである。「瞑想」という言葉は好ましくないけれども、他に呼称がないのでそのように称しているのだという。

解説講義終了後暫時休憩。続いて全員でテレパシー練習を行なう。これはESPカードの図形を会長と司会者二名の計三名で壇上から送信し、これを全員で受信しながら各自回答用紙に記入する。あとで用紙を回収して役員全員で採点し、最高得点者一名に賞品が授与される。これは会長みずから仕入れてくる立派な品物である。

再度休憩後は質疑の時間。あらかじめ全員に配布した用紙に質問を書いて受付に提出しておく。これをまとめて一問ずつ司会者が読み上げるのを会長が聞いて答えるという仕組み。

その前に会長から近況報告があり、GAP関係の近況に関してニュース速報的な知らせがある。

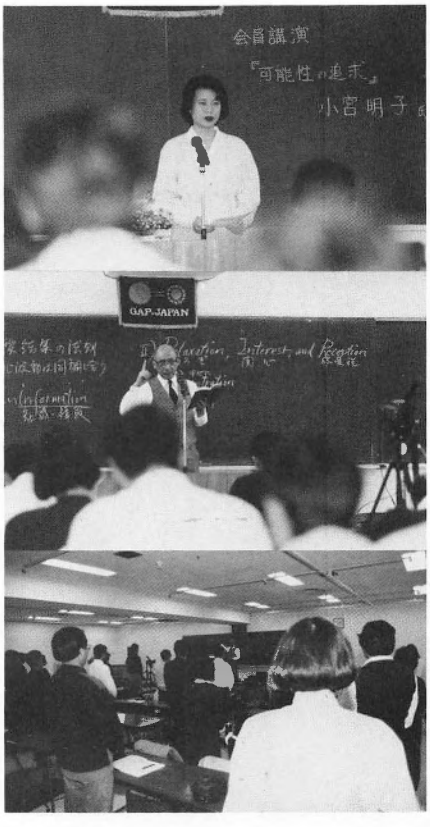
ときには質疑応答の前に全員で自己紹介を行なうこともある。しかし毎回ではなく、人数の加減をみて行なう。

会場受付ではGAP関係グッズ、新アダムスキー全集その他を頒布している。またここで入会の受付も行なう。

月例研究会セミナー（略して月例会）は原則として会員の研修の場であるけれども、真面目に聴講する人ならば会員でなくても出席できる。

夕食会＝毎回月例会終了後に別な場所へ移動して希望者のみで夕食会を行ない、約四〇名が出席する。これも楽しい行事で多年続いている。

交通＝機械振興会館へ行くには、都内山の手線の浜松町駅で下車し、内回り外回り両電車共、下りたホームの新橋寄り方向の端まで歩き、階段を降りて駅改札を出てから大通りを北側へ数十メートル行くと超高層ビルの貿易センタービル正面前に東京タワー行きバス乗り場があるので、そこから乗れば料金一六〇円で八分間で行く。タクシーは六二〇円、徒歩約二〇分。



▶会員の講演（小宮明子さん）　▶久保田会長の講義　▶大宇宙瞑想の実習

ジョージ・アダムスキーと異星人(1)

★アリス・ポマロイ／久保田八郎訳

George Adamski and Space Brothers
by Alice Pomeroy / Translated by Hachiro Kubota

この記事はアダムスキー晩年最後の高弟として親しく薫陶を受けたアリス・ポマロイ女史が本誌の要請により執筆したもの。あらためてアダムスキーの人物像と異星人問題の実態を浮き彫りにした佳編。二回に分けて連載の予定。

核弾頭を持ち去ったUFO！

「私たちはあのとき全滅していたかもしれない」

ジョージ・アダムスキーはそう語っていました。

アメリカが大気圏内核実験を中止する以前の、一九六一年あるいは一九六二年のある日のことです。当時はまだケープカナベラルと呼ばれていた現在のケープケネディー基地において、ある弾頭のテストが行なわれようとしていました。一〇階建てのビルほどもある巨大なロケットが、核弾頭を頂上に抱いて、雄々しくそそり立っています。

軍関係高官たちのほとんどが集合し、その実験の模様を目撃すべく待機を続けています。すでに全員が立ち上がり、興奮して言葉を交わしています。新しい重要な実験が間もなく開始されようとしていました。

そしてカウントダウンとともに間もなくそのロケットは上昇を開始しました。完璧な打ち上げです。

そのとき、突然どこからともなく、一機の大きなUFOが出現したかと思うと、唖然として見守る多くの軍関係者たちを尻目に、飛行中のそのロケットから、まるでオモチャを扱うかのように、先端の弾頭部分のみを取り外し、それをさっさと持って飛び去ってしまったのです！

高官たちは、その様子を目の当たりにしながらも、いまだに信じられないといった顔つきをしています。あれはいったん何だったんだ！

間もなく誰かが口走ります。

「あんな物がやって来たら、我々の防衛力ではとても歯が立たない」

全員が頷きました。

予言は、もう実現しない

この事件に関して、ジョージ・アダムスキーは次のように語っています。

もしあの爆弾が地球大気の上層部に運ばれて、そこで爆発していたら、その水素がある種の連鎖反応を起こして地球表面は巨大な炎に包まれ、人間を含むあらゆる物が焼きつくされることになっただろう。新しい生命は、もし創造されればだが、やがてその灰の中から出現せざるを得なかったはずだ。

さらにアダムスキーは、『地は炎によって飲み尽くされる』という聖書の予言は、おそらくもう現実化しないだろう」と語っていました。スペースピープルが、その悲劇的な体験から私たち地球人を救ってくれたのです。私たちは気づかないことが多いのですが、このようにして彼らブラザーズは、これまで私たちに何度となく援助の手を差し延べてきているのです。

改めて言うまでもないことですが、ケープカナベラルでの実験中に起きたこの事件が新聞などで報道されることはなく、当時も現在も、その事実を知る人は、ほとんどいません。

ジョージ・アダムスキーという人物は、この事件が起こるはるか以前から、つまり、人生の極めて早い時点から、他の惑星群にも生命が存在するということを、強く主張し続けた人物です。いったい彼は、そうした考え方をどこから仕入れたのでしょうか？　地球の一般的な情報源からでないことだけは確かです。

幼い頃、グライ・ラマの故郷、チベットのラサで、僧侶たちとともに学び、生活していたときに手にしたものなのでしょうか？

あるいは、彼自身が、もっと進んだどこかの場所から、自分自身の記憶としてこの人生に持ち越したものなのでしょうか？

もし彼が、例えば金星において前世を体験していたとすれば、そこでは、全ての惑星に生命が存在するということは、常識中の常識であったかもしれません。

たとえその考え方をどこから仕入れ

たにせよ、そのきらめく真実の一粒が、パロマー山に居を構えたアダムスキーの活動に大きな影響を与えるものであったことは、疑うべくもないことです。

巨大な母船を見る

彼は、当時世界最大の望遠鏡を備えたパロマー天文台のすぐ近くに住んでいました。そして、その天文台の職員ではなかったのですが、そこの科学者たちとは、宇宙の活動に関する議論を頻繁に交わし合う間柄だったようです。

一九四六年に物凄い流星雨現象が発生し、軍が人々に流星を目撃し、その数を数えるよう要請して以来、アダムスキーは、特に空に興味を持つようになったということです。

▲アリス・ポマロイ女史――ワシントン市にて。
撮影／久保田八郎

そんなある日、彼は、これまでの地球の科学では理解し得ない奇妙な飛行物体を目撃したのです。それは、飛行船のような形をした、とにかく巨大な物体でした。しかも、空中に停止しているのです。言うまでもなく、それは他の惑星から来た母船だったのですが、当時の彼にはまだ知る由もない状態でした。しかしそれは、宇宙の真理に関するより多くの理解と知識を得たいという彼の欲求を、いやが上にも高めることになったのです。

あれはいったい何なんだ？　あれはどこから来たのだろう？　なぜ来たのだろう？

それらの疑問が常に脳裏にちらついて離れません。彼はますます意識を空に集中するとともに、自分が入手し得るあらゆる情報に目を光らせ続けました。

彼がそれまでの人生で常に信じ続けていたことが証明される瞬間が、刻一刻と近づいていました。

彼はその後、毎晩、毎晩、空を見続けました。待ち続けました。たとえそれが何であろうと、あの物体を再び見たい――今度は写真を撮れるかもしれない、などと考えながら、彼は、来る日も来る日も、一心不乱に空を見続けたのです。

しかし、いつになってもその物体は現れません。あれからもう一年近くになります。普通の人間であれば、とっくの昔に諦めていたことでしょう。でも彼は、単に軽い好奇心からその活動を始めたのでもなければ、人間の豊かな心の活動が創り出す動揺の影響さえ、ほとんど受けない人物でした。

長期間に渡る不断の努力が実って、やがて彼は、奇妙な動きをする物体群を頻繁に目撃するようになりました。そしてそれらを観察していくうちに、それらは他の世界から来た宇宙船に違いないという思いを、徐々に深めていったのです。さらに彼は、それらはおそらく、月を中継基地として用いているだろう、とも考えていました。

UFO写真を撮り続ける

彼は、より多くのことを学ぶことに――生命と宇宙の法則に関する知識と理解を果てしなく深めることに――そしてそれを全ての人々に伝えることに、常に深い興味を示し続けた人物でした。

パロマーガーデンズの自宅上空で頻繁に宇宙船らしきものを目撃するようになってから、彼は自分の小型望遠鏡に取りつけたカメラで、多くの写真を撮影しました。しかしながら、撮影されたもののほとんどは、彼自身にとってさえも判別不可能なものばかりで、彼の推定を証明し得るものとはなり得ませんでした。

やがて彼は、パロマー天文台の職員たちばかりでなく、ときおりパロマーガーデンズの喫茶店を訪れる軍人たちとも議論を交わすようになりました。そして彼は、彼らの個人的な会話と公的な発表との間には、実に大きな隔たりがあることを、すぐに発見していました。

ある日彼は、比較的鮮明な宇宙船の写真を初めて撮影することに成功しました。そしてそれは、サンディエゴの海軍研究所に送られたのですが、彼らは最初、アダムスキーに対してはそれらが本物であることを認めながら、あとで報道機関に対しては、そんな写真は見たこともないと言明したのです。そのとき彼は、初めて人々からの〝中傷〟を体験しました。

考えてみて下さい。もし私たちであれば、そのときどう感じたでしょう？

ジョージ・アダムスキーは、自分の知りたいことに対する答えが、やがて必ずもたらされることを常に信じ、期待していました。そして、他の世界からの宇宙船来訪の事実を人々に信じさせるに足る、もっと鮮明な写真を撮ろうと、たゆまぬ努力を続けたのです。

彼は、野外に設けた自分の小さな天文台のドームにこもり、空に向けられた望遠鏡とカメラとともに、延々と毎晩空を見続けました。

冬の寒い夜はなかなか時間が進まないものです。寒さが厳しいときには、その小さなスペース内を小まめに動き回っては体を暖めたといいます。アリス・ウェルズ、あるいは妻のメアリーが、熱いコーヒーを運んでくれたりもしました。

ただし、夏の間はもちろん、はるかに快適でした。澄み切って果てしなく続く漆黒の空間を、時の経過とともに少しずつその位置を変化させていく星々や星座群。その雄大な美しさが、彼の希望に満ちた、しかし、気の遠くなりそうなその日課の遂行を、大いに後押ししたであろうことは、想像に難くありません。

努力の甲斐あって、他の惑星群からの宇宙船来訪の事実を他の人々にも信じさせ得るであろうと思われる写真類が、徐々に撮れるようになってきました。他の惑星群から来ているのでないというのなら、彼らはいったいどこから来るというのだろう？　彼はもう確信していました。地球上にそんな技術が存在しないことは、明らかなことです。

人々の反応は敵か味方

すでにその頃には、彼はブラザーズから、印象、あるいはテレパシーによって、間違いなく注意を喚起されていたと、私は確信しています。彼は、いつも自分の内奥のフィーリングに従っていました。ただし、そうすることを特に意識していたというのではありません。それはもう、彼の人格の一部だったのです。

当時彼は、ブラザーズから、間もなく極めて重要な出来事が発生するという、確たるメッセージのようなものを受け取っていたはずです。心の奥底で感じる深いフィーリングとしてです。それが、彼の毎日の努力にいっそうの弾みをつけたことは言うまでもありません。

他の惑星群にも私たちのような人々が住んでいる――そして、彼らはこの地球にやって来ることができるほどに進歩した技術を持っている――、それを証明し得る、より確かな証拠を手にしようと、彼はあくなき探究を続けたのです。

同時に彼は、ＵＦＯや宇宙に関して興味を持つあらゆる人間と、とても気軽に話をしました。自分が見たこと、発見したこと、感じていることを、誰とでも共有しようとしていたのです。

ただし、それまでの体験から、軍関係者や科学者たちからの好意はまず期待できないということを知って、彼らからの悪影響を避けるため、彼らとの接触だけは極力避けていました。それは、他の人々を果てしなく信頼し、他の人々を援助することを自分の生き方の基盤としていた人間にとっては特に、とてもつらいレッスンだったはずです。

大衆の間に、彼に関して正反対の見方をする、二つの勢力が出現し始めたのも、その頃のことです。彼を好意的に見る人々と、彼に敵対し、中傷する人々です。

中傷をしようと思えば、どんなことでもその材料になります。例えば、多くの人々がアダムスキーの撮影した写真類を欲しがったため、彼はそれらをプリントして、必要最小限の価格でそれらの人々に提供しました。そして彼らは、それを手にして心から喜び、胸を躍らせました。

ところが、それを知った懐疑論者や嘲笑者たちは、アダムスキーを、いいかげんな写真を売って金儲けに精を出しているペテン師だと言って中傷したのです。

一方からは否定、中傷、懐疑、嘲笑が浴びせられ、もう一方からは、暖かい受け入れと激励が寄せられるというこのパターンは、以後、一生彼につい て回ることになったのです。

普通の人間であったならば、そんな状況下で生き続けることなど、とても耐えられなかったことでしょう。しかしアダムスキーは、決してくじけませんでした。彼はよく、次のように言っていたものです。

「私の悪口を言いたい連中には言わせておけばいいよ。たとえ悪口であろうと、私の名前と仕事に関する情報が大衆に届くということには変わりがない。その意味では、彼らも私を助けているということになるからね」

常に物事のプラスな側面に目を向ける――それがジョージ・アダムスキーでした。

ついにデザートセンターでコンタクト！

アダムスキーは、他の世界から来る宇宙船の乗組員たちと会見できるかもしれないという希望を抱いて、親しい仲間たちとともに、砂漠地帯に何度も足を運んでいます。それらはすべて、自分自身の印象に従っての行動だったのですが、なかなか思いが果たせないまま月日が過ぎて行きました。

しかしついに、彼のその思いが見事に果たされる日が訪れたのです。一九五二年一一月の二〇日、デザートセンターの砂漠地帯の一角において、彼は、自分がのちにオーソンと名付けた宇宙人とのコンタクトに、初めて成功したのです。それは、彼の人生を劇的に変

■アダムスキーのコンタクト事件を報じたフェニックス・ガゼット紙

1952年11月20日、アダムスキーは米カリフォルニア州デザートセンターで円盤から降り立った金星人と会見した。6名の目撃証人のうち、ウィリアムソンら数名はその後アリゾナ州フェニックスのガゼット社を訪れて、この大事件を報告、その4日後にその新聞記事が全米にショックを与えた。新聞は好意的に報道している。事件の詳細は新アダムスキー全集第１巻『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社刊）に出ている。

THE OBJECT was shaped like a cigar—fat in the center and tapering at both ends—and was moving in an easterly direction. At times it appeared to be standing still and then it would spurt forward at tremendous speed. It moved without sound.

The object was orange or reddish on top and silver on the bottom. There was a [illegible] oval-like marking [illegible] of the ship. (These details they were able to determine by [illegible] ing a small pair of [illegible] glasses although the object was believed from 7,000 feet to 2 miles in the air.)

The object finally disappeared but returned traveling in the opposite direction about 5 or 6 minutes later.

AT THIS POINT Professor Adamski decided to go about 1½ miles up the road to set up a small telescope at a point where he could have a better view of the surrounding countryside. He promised to wave his hat at the rest of the party if anything unusual occurred.

And now begins the weirdest part of the narrative.

"One hour and 45 minutes passed and suddenly the group was attracted by a flash of light near the point where the professor had set up his telescope. Adamski next appeared wildly waving his hat.

When the party arrived, the professor said that he believed he obtained some good pictures of a flying saucer and claimed that he had talked to the man who disappeared in it.

PROFESSOR Adamski described the saucer as much similar to the picture of one carried in the average person's mind except that this saucer had a dome on it. It was, the [illegible] in diameter, translucent but not transparent, with a shining silver finish on the exterior, portholes on the side, and three ball bearing devices underneath.

The saucer hung several feet off the ground and apparently had such perfect balance that it did not tilt when the man in charge stepped into it.

Adamski said he took 4 or [illegible] exposures of the saucer fr[illegible] about one-fourth of a m[illegible] away. He then saw some[illegible] motioning to him from [illegible] point of a hill above a [illegible] into which the flying s[illegible] had moved.

THE PROFESSOR [illegible] Williamsons and Baile[illegible] he walked up to the [illegible] peculiar conversation [illegible] the man from earth [illegible] man from space then [illegible] ly took place. The [illegible] space spoke some [illegible] a gibberish tha[illegible] Adamski said, like [illegible]

According to [illegible] sons and Baileys [illegible] ing conversation [illegible] and it no doub[illegible] great satisfacti[illegible] learn that the [illegible] visitors is peac[illegible]

Adamski: [illegible] ship?" indi[illegible] parked sauce[illegible]

Visitor: [illegible] head.

Adamski: [illegible] tary?"

Visitor: [illegible] affirmativ[illegible]

THE V[illegible] point of [illegible] ance of [illegible] in sand, [illegible] ing th[illegible] ance.

Ada[illegible] pose [illegible]

Vi[illegible] cate musica[illegible] associated with atom[illegible]

Flying Saucer 'Passenger' Declares A-Bomb Blasts Reason For Visits

By LEY WELCH

Fasten your safety belt, Buster, and take a firm grip on your chair, for we are about to take off on a story to end all stories about flying saucers.

Woven into this incredible tale is what was reported to be probably the first person-to-person conversation with a man in a flying saucer, an explanation why flying saucers are flitting about our skies, a beautiful woman from another planet and mysterious footprints in the desert sands.

Few questions about flying saucers are left unanswered by this story that has its beginning on a lonely spot on the California desert between Parker, Ariz., and Desert Center, Calif.

ITS PRINCIPALS are four Arizonans out to get a look at a flying saucer, a Valley Center, Calif., "professor," his secretary, and another woman, both from Valley Center.

The Arizonans figuring in the story are George Williamson, 25, Prescott, an employe of the supply division procurement section at the United States Veterans Administration Hospital at Fort Whipple; Mrs. Williamson, a medi[illegible]

Is this a flying saucer or a freak cloud formation? Prof. George Adamski of Valley Center, Calif., gave the negative to Arizona friends, claiming he took the picture about 10 miles east of Desert Center, Calif., on the Desert Center-Parker Highway and later engaged in conversation [illegible] man from [illegible]

[Al]fred C. Bailey, 33, of Winslow, for 12 years an employe of the Santa Fe Railway and now "braking" on passenger trains, and Mrs. Bailey.

Williamson's interest in flying saucers was intensified by stories of saucers he uncovered among Indian legends while doing independent research among the Chippewas.

"I had corresponded with Prof. George Adamski, formerly of Palomar Observatory near San Diego, and learned that he had made pictures of flying saucers," Williamson said. "We (my wife and the Baileys) decided to go on a picnic lunch with Professor Adamski in the hope that we would see a flying saucer."

THE GROUP in addition to the Williamsons, the Baileys and Professor Adamski included Alice K. Wells and Lucy R. McGinnis, the latter the professor's secretary, both of Valley Center.

We will now proceed chronologically with the fantastic story of events that occurred as pieced together from stories of the Baileys and Williamsons. This is their version.

The party [illegible]

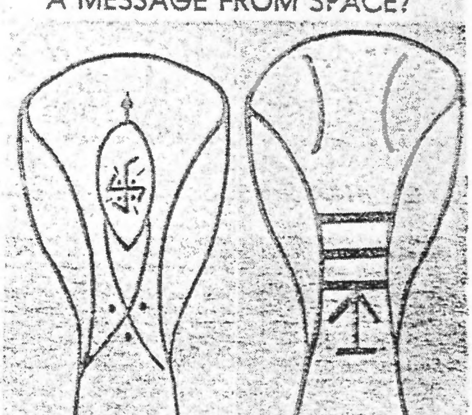
NEGATIVES OF FLYING SAUCER INTRIGUE THEM

Gazette Staff Photo

Two negatives reported to show a flying saucer that appeared on the California desert intrigue (from left) Alfred C. Bailey, Mrs. Bailey, both of Winslow; George Williamson and Mrs. Williamson, both of Prescott. They claim they saw the mother ship of the flying saucer while on picnic.

▲上の写真は左からアル（アルフレッド）・ベーリーと夫人ベティー、ジョージ・ウィリアムソンと夫人ベティー。いずれも砂漠のコンタクト事件の重要目撃証人。

A MESSAGE FROM SPACE?



A　B

George Williams of Prescott is convinced that a man from space left a message in his footprints on the sand near the spot where he landed a flying saucer. Williams took plaster paris casts of footprints and from the casts copied designs on soles of slippers the man wore. At left is design made from cast of right foot and at right is design from cast of left foot.

▲金星人が砂上に残した足跡の図形。Aが右足、Bが左足。円盤や母船の推進原理を意味するものだろうといわれているが、詳細は不明。

化させることになる出来事でした。彼の年来の大きな望みの一つが、そのとき見事に成就したのです。

そのとき彼は、どんなに喜んだことでしょう！　どんなに興奮したことでしょう！　私にはそれが、手に取るように分かります。その日の彼は、まるで新しい凄い玩具を手にして興奮しまくっている子供のようだったはずです。というのも、彼は何か嬉しいことがあると、いつもそうしていたからです。まるで子供のようにはしゃぎながら、自分の幸せな感情を純粋に、オープンに表現するのです。

その日以来――アダムスキー自身は最初全く期待していなかったのですが――ブラザーズは彼と常にコンタクトをし続けました。重要な用事があるときには直接のコンタクトが、それほどの用事でないときには、テレパシーによるコンタクトが行なわれました。彼らはいつも、自分たちから彼に重要な話をする必要があるときや、彼が何かで悩んでいるときなどに、コンタクトのサインを送ってきたということです。

異星人のタイプにもいろいろある

そして彼が常々強調していたことは、コンタクトはいつも〝彼ら〟の主導によって行なわれ、彼がその主導をとることはできないということでした。アダムスキーは「この点をよく認識するように」といつも言っていたものです。

さらに彼は、他の惑星群からやって来る人々の全てが、必ずしも彼とコンタクトしていたような高貴なブラザーズばかりではないとも語っていました。私たちがとても注意を要する点です。もし私たちがそれらの異なった資質を持つ異星人たちとコンタクトしたとしても、彼らが私たちに、金星や土星からのブラザーズのような援助を与えてくれることは決してないのです。

また彼は、ブラザーズは、ただ手放しに情報を与えてくれるわけではない、ということも強調していました。彼らからの情報を、彼が自分勝手な判断で利用することは不可能なことだったのです。彼らは、それにある一定の条件を付けていました。

それはある意味で、学校での教育のようなものです。教師がまず生徒たちにある知識を提供します。そしてその教師は、子供たちがそれを理解し、正しく応用できるようになったことを確認するまでは、次の段階の知識を決して提供しないでしょう。

ブラザーズはその意味では、とても厳しい姿勢をとっていました。彼らはもちろん私たち地球人を援助しようとしていました。しかし同時に、彼らは地球人類の（低次元な）心と関わらねばなりませんでした。寛容の精神ばかりを発揮しているわけにはいかなかったのです。

例えば、ジョージ・アダムスキーはこう言っていました。もし彼が自分の体験を、いわゆる〝頭だけ〟で理解して〝エゴの旅〟を遂行したならば――つまり、彼がそれを自分自身のみの楽しみや私的利益の追求に利用したならば、高貴なブラザーズとのコンタクトも彼らからの援助も、以後完全にストップしてしまうというわけです。そういったコンタクティーたちも実際に存在していました。

なぜ異星人は地球へ来たか

さて、砂漠での最初のコンタクト以来、金星人オーソンは何度かに分けて彼らが地球にやって来た目的をアダムスキーに明確に説明しています。当時の主な理由は、地球人たちの原子エネルギーの扱い方、つまり、大気圏内核実験への危惧にありました。

それは、地球を取り巻く大気をひどく汚染し破壊するのみならず、遠く離れた宇宙空間にも極めて大きな悪影響を及ぼし得るというのがオーソンの説明でした。彼らには、その影響を調査する必要もあったのです。それは、彼らの惑星間航行ルートにも深刻な悪影響を及ぼし得る暴挙でした。

彼らは、この太陽系の全ての惑星群の安全に心を砕いていました。一方、地球人たちは無知ゆえに自分たちの利益のみに専念し、その実験が極めて大きな危険を宇宙空間にばらまくことになるということに全く気づいていなかったのです。それだけではありません。それが自分自身にとっても、どれほど危険なことであるかさえ気づかなかったのです。

良い例が先程のケープカナベラル基地での実験です。しかし私たちが知るかぎり、この地球はまだあまり多くを学んでいないようです。私たちは相も変わらず、将来の危険を全くかえりみずに大気中にさまざまな毒素を放出し続けています。アダムスキーやブラザーズの警告を聞いたあとでも、このざまなのです。

すでに世界中の主な国々は、彼らのこのアドバイスを間違いなく手にしています。それなのに核実験はもちろんのこと、蓄積し続ける原子力発電等による放射性廃棄物によって私たちは将来の地球を大きな暗雲で包もうとし続けているのです。私たちは今、放射性廃棄物を安全に格納することさえ出来ていません。まさに恐怖です。

そういった状況にありながら、なおも権威者たちは原子力エネルギーは比較的安価な上に、〝安全できれい〟なのだと主張し続けています。「彼らはいったい、いつになったら学べるのだろうか？」と、ブラザーズは今、間違いなくそう言っているでしょう！

以前大挙してこの地球にやって来て、地球人の無知さ加減を発見して以来、ブラザーズは、一貫して私たちの理解を深めさせるべく援助を続けてきまし

▲ジョージ・アダムスキー（右）

た。それが彼らのプログラムに素早く付け加えられたのです。

私たちは、彼らの、言わば〝道に迷った兄弟たち〟です。そして彼らは、私たちが再び太陽系の家族の一員に戻ることができるようになる日を、心待ちにしているのです。

アダムスキーの強烈な使命感

もし私たちが、ジョージ・アダムスキーのように、他の惑星の宇宙船に乗ったり、しかもそれで金星や土星に行くことができたならば、どんなに嬉しいことでしょう！　そのとき私たちは、想像を絶するほどの興奮を味わうに違いありません。彼自身、その体験にとても興奮し、さらにそれを通じて、素晴らしい知識を学んだと語っています。

しかし、同時に彼は、自分はそんな素晴らしい恩恵に預かり得るほどの人物ではない、ということを、何度も何度も言っていました。そしてその思いが、自分が得た知識を他の人々に分け与えるという自分の使命の遂行により拍車を掛けることになったのです。

人間とは、他の人々からの激励や受け入れを常に必要とする生きものです。しかし彼はそれもままならず、その使命を遂行する過程で精神的にも肉体的にもひどく疲れ切った状態に頻繁に追い込まれたのです。でも彼は決してくじけませんでした。彼はその全生命を、ブラザーズから得た知識を人々と共有するという使命のために完全に捧げ尽くしていたからです。

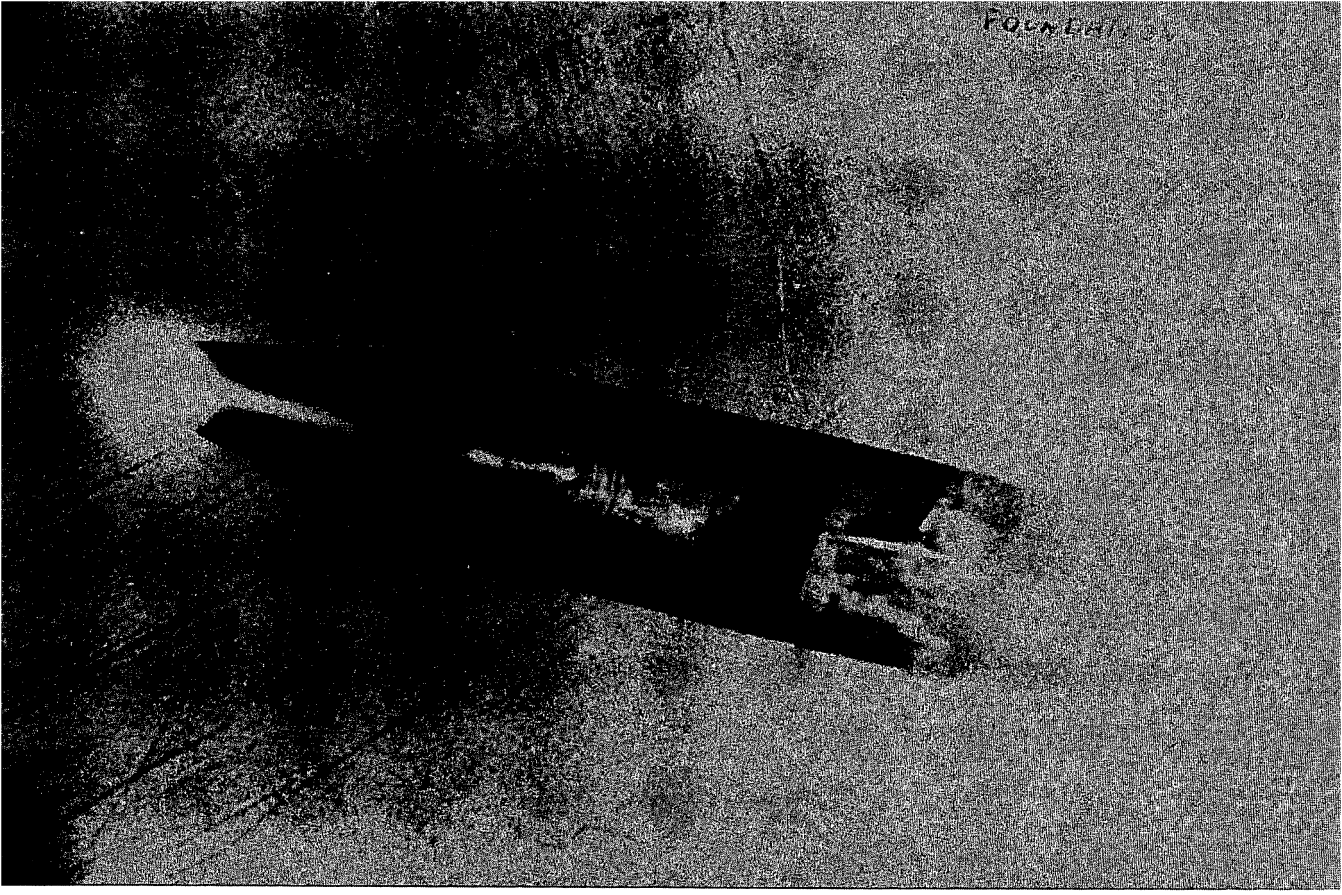
彼は、その使命の重要性はもちろん強く感じるものの、自分自身は取るに足りない人間だと良く言っていました。自分はその使命にふさわしくない人間かもしれないとさえ言ったことがあるほどです。

ジョーゼフ・スミスの残念な最後

彼はまた、彼と同じような使命を与えられてそれに失敗した人々についても、よく話してくれたものです。その一人に、モルモン教の創始者と伝えられているジョーゼフ・スミスがいました。

スミスがニューヨークの丘の中腹で発見した文字板のメッセージは、アダムスキーがあの〝足跡〟（訳注＝一九五二年一一月の砂漠のコンタクト時に、金星人が靴を押しつけて作ったもの）から得たものと、明らかに同種のものだったのです。つまり、そこには私たちが従うべき宇宙の法則がしたためられていたのです。

そのあとスミスに何が起こったと思いますか？　アダムスキーは確信に満ちて言っていました。ユタ州への旅行の途中で、スミスは彼と意見が対立した仲間の何人かに殺害されてしまったのです。そして、以後その連中が彼のプログラムを代わって押し進め、結局は、元々の教えとは全く異なった宗教



▲アダムスキーが6インチ反射望遠鏡を用いて撮影したUFO。火星の母船といわれる。バックのかすりキズは現像の際についたもの。

を作り上げることになったというのです。

新しい概念や異なった概念が提示されたとき、地球の人類は常に同じような反応を示すものなのです。もしスミスがブラザーズのプログラムの一部であり続けることができたならば、モルモン教も今とは大分異なったものとなっていたことでしょう。

UFOを見るための心構え

「宇宙船群は、確かな目的を持ってやって来ているんだ。当然、ブラザーズにはやらなければならないことが沢山ある。彼らの仕事の量ときたら、まさに想像を絶すると言っていい」と言ってから、アダムスキーはさらにこう続けました。

「そこであんたなら、彼らにどうして欲しいと思う？　特定の個人たちを宇宙船に乗せてやって、それらの人々の願望を満足させるために、彼らの貴重な時間を費やして欲しいと思うかい？　それとも私たち全ての理解を深めるために行なわれている彼らの本来の仕事に徹底して集中して欲しいと思うかい？　彼らはとにかく忙しいんだ」

そして彼は、とてもくだけた調子で、「彼らには、私たちの好奇心を満足させることよりも大切な仕事がいっぱいあるんだ」

と言っていました。

他の世界から来る宇宙船群をただ見たいというだけで、しょっちゅう空を見上げては探しまわっているUFO信奉者たちがいます。

ジョージ・アダムスキーは、その件に関して私たちによく注意を促していました。ある日、私たちが彼らの宇宙船を見たいと感じたりしていると、それを察して彼は、少しジョークっぽい言い方で次のように言ったものです。

「君たちは飛行機の通過音を聞くたびに、それを見ようとして外に飛びだしたりするかい？　しないだろう？　飛行機はすでに私たちの文明の一部として完全に定着していて、それが飛んだからといって何も特別なことじゃないからね。

彼らの宇宙船に関しても同じなんだ。一度それを見たりして、自分の考え方が当たり前になったならば、それを見ることも全く当たり前のことになるはずだ」

さらに彼は続けます。彼の顔はとても真剣なものに変わってゆきます。

「もし君たちが本当に彼らの宇宙船を見たかったら、外に出て多くの時間を無駄にしながらそれを探そうなどとはしないことだね。UFOが来たという〝フィーリング〟がわき起こるまで待つんだ。わき起こったら空を見上げる。すると、彼らはそこに必ずいる！」

ときおりブラザーズは、私たちに意図的にその機体を見させ、サインを送ってくることがありました。受容的な

心の状態にあるときに、まず、「何かが起こりそうな気がする」というフィーリングがわき起こります。そして、心が他のさまざまな想念群から開放されているとともに、とても敏感な状態にあったならば、続いてブラザーズからのメッセージ、あるいは情報をしっかりと感知することができるのです。

ジョージ・アダムスキーは、この種の体験を数え切れないほどしています。このコンタクトの方法は、直接のコンタクトまでは必要ないが、何らかの援助が必要だというときに行なわれたものです。そして、そういった形の援助を、ブラザーズは、アダムスキーの仲間たちにも同じようにしてくれていたのですが、誰もそのことに気づいていないのです。

私も異星人に助けられた

アダムスキーが亡くなったあと、私は仲間の一人とともにアリス・ウェルズを援助すべく、アメリカ大陸を車で横断してカリフォルニア州のビスタに向かいました。その途中のモーテルでのことです。パートナーと私は、何とも言えぬ胸騒ぎのようなものを感じて朝早く目を覚ましました。そして一緒に窓のそばに行き、そのモーテルの裏側の草原の上空に目をやると、いたのです！　宇宙船が！

それが素早い動きを繰り返すのを、私たちは感動しつつ眺めていました。

そしてそのとき私たちは、「あなたたちの長い道中をずっと見守っているからね。たとえ初めての道でも間違わずに辿り着けるよう、ちゃんと導いてあげるよ」というブラザーズからのメッセージを、間違いなく手にしたのです。

その後ビスタに滞在中、ジョージ・アダムスキー財団内でさまざまな問題が発生したときにも、私は、何度かブラザーズからの援助や導きのメッセージを感知しました。私がビスタを離れてニューイングランドに戻る時期を決定する際にも、私は彼らからの助言に従ったのです。ジョージが言っていたように、それはフィーリングとともにやって来ます。そしてそのメッセージが本物であることは、自分の内奥の心が、〝知って〟いるのです。

たんなる好奇心ではいけない

表面的な好奇心は、トラブル以外の何ものをも私たちにもたらしません。UFOと遭遇して単なる好奇心から近寄ったために大怪我をしたり死に至ったという報告が、これまでに沢山報告されています。それらの人々は、いわゆるUFO問題に関する真の理解をほとんど持ち合わせていない人々でした。表面的な好奇心は、えてしてマイナスな結果を招いてしまうものです。

森で仕事をしていて、近くの原っぱに着陸したスカウトシップ（円盤）を目撃した男がいました。彼は大いなる好奇心から、その探検を決意し、近寄っていきました。しかし、突如恐怖心に襲われ、持っていた斧でスカウトシップに切りつけようとしたのです。もし彼がそれを実行したならば、フォースフィールドに触れて感電死してしまうことを知っていたブラザーズは、瞬間的に彼にあるショックを与えました。そしてそれによって彼が受けた激しい痛みにより、彼は最悪の事態から逃れられたのです。

ジョージ・アダムスキーは、私たちに、ブラザーズがすでに与えてくれたことをより良く理解し、実践することに意識を集中するよう、常々語っていました。

「私たちがすでに与えられたことをまだ実践してもいないのに、彼らがより進んだ知識を提供しに降りてくることなどあり得ようか！」

彼は力を込めて語ったものです。

ブラザーズからより進んだ知識や情報を与えられるためには、宇宙的な人生を生きるべく、私たちは常に努力を続けねばなりません。多過ぎる知識は、私たちにとって助けとならないばかりか、逆に私たちを傷つけることにさえなります。私たちの進歩の度合いを、彼らは明確に把握しているのです。

現在の地球の状況は、他の惑星群からの宇宙船群の来訪を、もちろん必要としていますし、それを目撃することも少なからずあるでしょう。しかしながら、それらを目撃することよりもはるかに大切なことは、私たちのために彼らが提供してくれている「人間としての生き方に関する美しいメッセージ」の理解を深め、実践することなのです。

理解できない大多数の人

在りし日のジョージ・アダムスキーの講演ツアーがどんなものであったかについて、少しお話しましょう。

まず、彼が講演地を訪れる前に、さまざまな準備が必要となります。滞在期間は数日というのが一般的でした。講演用のホール、及び講演後のミーティング場所の確保から、必要機材の調達、ホテルの予約、さらには、食事の準備、講演地までの交通、及び滞在中の交通の確保に到るまで、周到な準備が成されます。

続いて、可能な限りの宣伝活動が展開されます。あらゆる報道機関への連絡、講演を通知する手紙類の郵送、人々の集まる場所へのポスター貼りといったものです。ときには、ラジオやテレビ出演のスケジュール作りも必要となります。そして最後に、あらゆる費用がはじき出され、その捻出法が検討されて、準備が完了します。

講演当日は、彼の話を聞きに、概ね数百人の聴衆が集まってきます。そして約三時間ほどして講演が終わると、聴衆の多くは家路に着きますが、特に

興味のある人々は、別の場所において非公式に開催されるミーティングに参加して、議論を交わします。そのミーティングの議題は、宇宙哲学や生命の科学に関するものが主体となります。

さらに、アダムスキーと数人の協力者たちのみが集まって、その講演ツアーの成果についての話し合いが持たれます。しかし講演を聞いていったいどれほどの人々が真の恩恵を得ただろうか？　たとえほんの少しでも宇宙の真理を学んだ人がどのくらいいただろうか？　極めて少数だ、というのがいつもの結論でした。

◀ありし日のアダムスキーとポマロイ女史。一九六四年撮影。

講演を聞きにくる人々の中には、懐疑論者たちも少なくありませんでした。そして、ほとんどの人々は、少なくとも最初は表面的な好奇心を満たそうとして訪れてきます。彼らが真の理解を得て帰ることは極めて稀なことです。結局、いつの講演でも、彼が提供した真実、あるいは彼の意図を心から真剣に受け止めた人は、残念ながら極めて少数だったのです。

彼の一般講演のほとんどの部分は、他の惑星群の宇宙船（ＵＦＯ）、および、それと関連した話題で占められていました。それが、大多数の聴衆の聞きたいことだったからです。でも彼は、常に、極めて少数のより思慮深い人々のために、彼らの意識を鼓舞するための燃料として、哲学的な考え方を少しではありましたが、うまく間に織りまぜていました。

たとえ彼の話に興味を抱いた人々であっても、宇宙船を見てみたい、乗ってみたいというだけの人々がほとんどで、「ブラザーズのように生きる」ことに興味を持つ人は本当に少なかったのです。

それは、多くの人々に真実を伝えるというアダムスキーの使命にとって、実に大きな障害だったと言えます。ほんの少数の人々に恩恵を与えるために、莫大な労力を強いられたのです。

それがこの惑星の進歩パターンなのかもしれません。これまで常に、極めて少数の人々が他の多くの人々を援助すべく、身を粉にして働いてきました。でも人々はなかなか真実に気づいてくれません。

こんなことをしても何の足しにもならないのではないかと普通なら考えてしまいます。

「いや、決してそんなことはない！」

アダムスキーは、そんな疑問を常に否定しつつ、果てしない目標に向かって黙々と活動を続けました。私たちは、彼のその姿を大いなる手本として生きねばなりません。

「自分自身が真の成長を遂げるには、まず他の人々を援助しなくてはならない」とジョージ・アダムスキーは、いつも語っていました。

自分自身のみを利することは、はるかに少ない努力で、はるかに素早く、はるかに容易に行なえることです。しかし、それは最終的には、いかなる真の満足も得られない、全くのマイナスの結果に行き着くことになります。

大自然の法則は、相互恩恵を基盤として成り立っているのです。植物はウサギに自分を提供し、ウサギは自分をより大きな動物に提供します。そしてより大きな動物は死んで土に帰り、植物の栄養となります。

この地球上でこの法則をいまだに学んでいないのは人間だけです。私たちは、たとえ悪に対してさえ善を与えることを学ばねばなりません。自分を嫌

い罵る相手さえも援助する必要があるのです。

ある人物がジョージ・アダムスキーの講演を聞きに来たとします。あるいは、彼との議論のためのミーティングの席に座ったとします。そして、そこで与えられた考え方のほんの一部が、その人物の心の中ではじけ、一筋の小さな光明として輝いたとします。

その輝きに気づいたとき、その人物は、たとえほんのわずかであっても、確実に真実への理解を深めたことになります。彼がさらに進んだ理解を手にするまでには、もしかしたら、さらに幾つかの転生を必要とするかもしれません。でも、それはそれでいいのです。

私たちの進歩というものは、たとえブラザーズの援助があったとしても、実にゆっくりと成されるのが常なのです。多くの人々が彼らの宇宙船を見ています。それによって人々は、大きく鼓舞されました。でも、そこからもう一歩進んで、真の理解に向かって歩を進め得た人々は極めて少数です。

ジョージ・アダムスキーはその点をとてもよく理解していました。彼は、いかに人々の進歩が遅かろうと、彼らを常に、果てしない忍耐と優しさをもって眺めていました。一見むくわれない活動であっても、諦めずに自分の使命を遂行することのみが、地球人類の最終的な進歩に大きく貢献し得るものであることを彼は確信していたのです。

ジョージ・アダムスキーは、全ての人々を愛しました。そして彼は、いわば世界的な有名人ではあったのですが、実は、他の誰よりも普通の人間だったような気がします。なぜならば、彼はいつも私たちのすべてをとてもよく理解してくれていたからです。

彼のように働き、彼のように全ての人々を愛することのできる人間――そういった人間のみが、真の偉人、あるいは、真の賢者と呼ばれるにふさわしい人間です。

そのような素晴らしい教師が、この文明の歴史の中で、かつて何人いたでしょうか？　また、これほど多くのスペースピープルが援助に訪れたことが、かつてあったでしょうか？

今地球上にいる私たちは、大いなる恵みを享受していると言わざるを得ません。私たちは今、素晴らしいときを生きているのです！

ベトナム戦争に関する秘話

アダムスキーが一九六五年四月に亡くなる前に、彼のために最後の講演会が東部のあちこちで開催されたのですが、その頃、ある講演会でベトナム戦争に関して一つの質問が出されました。アダムスキーはそれを次のように説明しています。

「スペースブラザーズはベトナムの状況を知っていた。もしブラザーズがいなくて、この地球に　（以下次号）

人間性重視！明るい職場！
あなたの人生応援します！

◇正社員募集（大学内印刷室勤務）

※簡単な仕事ですので、未経験の方大歓迎致します。

（資格）年齢20才以上・経験不問
（給与）当社規定により優遇　○前給・年齢等十分考慮の上優遇
（時間）9:00AM～5:00PM（休憩1H）
（休日）日、祝日、隔週土曜、有給休暇、年末年始、夏季、慶弔
（待遇）昇給年1回、賞与年2回、交通費全支給、各種保険完備、財形貯畜、退職金制度、諸手当、保養所

◎電話連絡のうえ、お気軽にご来社下さい。※歴郵送も可

オーエーリックス株式会社
東京都豊島区西池袋1－2－2　☎03－3590－2288

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

素晴らしかった昨年度総会

大阪支部代表　平塚和義

この度の総会では、大変お世話様になりました。予想をはるかに上回る盛況さで、日本GAP始まって以来の素晴らしいフィーリングに満ちた総会でした。特に印象に残っておりますのは、ピーターセンさんが講演されている途中あたりから、上空から強烈な激励の波動が感じられ、とても感動致しました。

それもそのはず、昔、アダムスキー氏が指名したGAPリーダーの二人が三〇年間もつづけて活動しておられるのですから当然のことだと思います。またピーターセンさんの優しく陽気なお人柄にも触れることができて本当に良かったです。それに夕食会の演出も素晴らしく、和やかで楽しいひとときを過ごさせて頂きました。とにかく今年の総会はフィーリング的にも最高に良かったと思います。トゲトゲしくなく落ち着いていられました。また、せん越にも祝辞を述べさせて頂く光栄にあずかり、そして大阪支部の他の二人にも花束贈呈の光栄にもあずかり、本当にありがとうございました。

今総会を通じて私たちは多くのことを学ばさせて頂きましたが、これを今後の糧としてまた大いに進歩向上して行きたいと思いますので、今後共宜しくご指導の程お願い致します。本当にありがとうございました。

祝総会大成功

兵庫県　宇野秀樹

先日は東京総会大成功でたいへんありがとうございました。また昨日はUコン115号、早速お送り頂きありがとうございました。特に支部月例会のご報告は私たち大阪支部にとっても心から光栄に存じ、大変うれしく思います。

平塚さんは私たちにとって兄でもあり、また父親的存在で、さらに久保田先生は私にとってはそれ以上の大きな存在で心の大きなお父さんのようにいつもながら感じます。支部はもちろんのこと、日本全体と世界のGAP活動に活躍される先生の今後の発展は結局私たちにとって最大の力となっている事、そして上空からの励ましによって、毎回、実りのある月例会を迎えられることに心から感謝している次第です。先生におかれましてはお体を大切にされ、ご活躍されますよう心から願っております。

スペースピープルに感謝を

東京　佐々木八郎

先日のすばらしく記念的な総会ではデンマークGAP創立者ハンス・ピーターセン氏の有意義な大講演に満足しています。ピーターセン氏の若々しい張りのあるわかりやすい声のお話は、よく聞きとれました。アダムスキー氏が過去五〇〇〇年間の記憶を保っていることを示すエピソードが私にはとても生々しく印象的でした。

アメリカGAP会長ダニエル・ロス氏もあいさつをされました。ハンス・ピーターセン氏、ダニエル・ロス氏、そして久保田先生と、三氏が日本にこの時機に集まっていることは、来世紀に向けての重大な意義を示しているように私は思いました。「世界GAPここにあり」という感じです。

改めて、偉大な先覚者アダムスキーの宇宙的な業績に学ばなければ、との想いが強くわきおこります。そしてスペースピープルに対する感謝の感情がいっそうつのってきます。普遍的存在であるスペースピープルに感謝申し上げます。

高度な波動と愛

大阪　福井貴子

先日の総会では大変お世話になり、ありがとうございました。ハンス・ピーターセン氏のご講演は高度な波動と愛に満ち、これまでのGAPの活動についての知識をより詳しくわかり易く理解できるように援助して下さいました。お聞きしていてなんだかとても励まされスーッと身体内に吸収されていくようなフィーリングがし、リラックスした状態でお聞きすることができました。英語が得意ではない私ですが、これもハンス氏の素晴らしい人柄がひとことひとことに熱意と共に込められていたからだと思います。

夕食会、二次会も素晴らしいものでした。ピーターセン氏、ピーターセン夫人、ロス夫妻、どなたも素敵な方々でお国を超えてのかかわり、出会う縁のもつ不思議さにうれしい驚きを感じました。もっと英語を勉強しなければいけないとつくづく思いました。

今後は少しずつでも今回の総会で得られたことを自分のものにしていきたいと思います。本当に参加させて頂き良かったです。ありがとうございました。

あまりにも楽しかった総会

岡山市　山崎真由美

総会では大変お世話になり、どうもありがとうございました。本部役員の方々にはお忙しい中色々と気を配っていただきましてお礼ののべようもありません。役員の方々にもよろしくお伝え下さいませ。今年は東京の小宮さん米永さんと貴ちゃんと私の四人で心強く、とてもリラックスできて、楽しいおしゃべりもでき、良かったです。私一人ワァワァとしゃべってたのでうるさかったかもしれません。講演もとてもすばらしく、アダムスキー氏の今まで見えなかった一面を直接ハンス・ピーターセン氏により知ることができて、身近に感じることができました。終わった後、話をしても論議もせず、なんかボーとみんなで満足感にひたってました。頭で良かったーというよりもフィーリングで良かったー、という感じだったように思います。言葉がなかったです。不思議に……。

総会の前日まで雨がふっていたとは思えない、とてもよいお天気で、次の日の東京タワーも少し霞がかかっていたものの、かなり遠くまでみわたせてラッキーでした。「二五〇メートル上空の波動が地上とはこんなにちがうものかなあ」とだれかに言われ、そーいえば、気分いいなあと、そんな話をしながら楽しく階段を降りたのは良かったものの、運動不足のせいか、地上についた時はすっかり足が笑ってました。

本当に東京の二日間は楽しかったです。それだけに先生はじめ役員の方々の努力も大変なものと思います。どうぞお体だけは、お気をつけられまして、また来年もすばらしい総会に呼んで下さい。今からとても楽しみにしております。

この次は五〇周年記念総会

広島　升田裕子

先日はすばらしい総会をありがとうございました。大盛会でほんとにおめでとうございます。この次は五〇周年です。先生は一二〇歳まで生きていただかねばなりませんので七〇周年も出来ます。ぜひ二一世紀にも盛大にいたしましょう。こんどは金星や土星からの友をお呼び出来ますことでしょう。

久方ぶりの参加に感動

広島　佐々木朋子

強い台風が日本を駆けぬけましたがいかがでしたか。広島でも多くの被害が出、我が家でも小さな被害続出で、昨日今日と後片付けで大忙しです。

先日の総会のご成功、本当におめでとうございます。久し振りに参加させていただきましたが、とても素

晴らしい一日でした。参加された皆さんもそう思っていらっしゃることでしょう。

先生には、お忙しい毎日とは存じますが、お身体に気をつけてご活躍ください。どうぞこれからもよろしくお願いします。

ユーモアに溢れたピーターセン氏

東京　岸本　悟

先日の総会の大成功、誠におめでとうございます。ハンス・ピーターセン氏のご講演では大変興味深いお話をお聞かせいただき、そして貴重なビデオ等を拝見でき、大変うれしく思っています。

また、夕食会、二次会と大変楽しいいっときをすごす事ができまして本当に有難く思っています。

ハンス・ピーターセン氏という方は楽しい方ですね。氏の講演の中で非常にユーモラスな話し方をされていたところがいくつかありまして、英語がわかればよかったなあと、つくづく思ってしまったのと同時にユーモアをまじえながら話す事の好きな方なのだなあと思いました。アダムスキー氏の話し好きのお話もありましたが、あのお話のような状態を楽しんでおられたのかもしれませんね。

まあ、それは冗談にしましても、先生はもちろんの事アダムスキー氏にしましてもハンス・ピーターセン氏にしましても、非常に人間味のある円満な感じのする方達ばかりでしてそれからみましても人間的に成長すればする程人間味のある愉快な人となっていくのでしょうね。私も早くそうなりたいものです。

一九五〇年代当時から知り会っていたお二人が今もこうしているというのは簡単なようで実は結構すごい事だと思います。この三〇年間お互いにいろいろあったでしょうが、ただ純粋なだけ、あるいはただの正義感だけではのりきれなかった事等、多分にあったと思うのですがそれをのりきってこられた訳ですから、これは大変素晴らしい事だと思います。

そして、結局何かが起きた時の身の振り方をどうするかという事を、何を基準に考えるのかという事も重要になってくるのでしょうね。そしてその選択が適切だったからここまで続いたのだと思います。まあ、カルマがあればコーワーカーにはなれるでしょうが、それを発展させるのはカルマを越えたその人の努力といったものが大切なのでしょうね。これは私の人生にも言える事でして、カルマがあれば縁あって出会えるのでしょうが、問題なのはいかにその縁を発展させ結んでいくかという事なのでしょう。

それではこれでペンを置かせていただきます。これからもGAP活動にがんばって下さい。

親切なGAPの皆様方

新潟県　丸山房子

今日、GAP総会の写真が届きました。その写真を見ますと大変な臨場感でもって夕食会の時の事が思い出されます。

私はGAPに入会して二年目ですが、月に一～二度、日曜出勤をしなければならない仕事のため、新潟支部の月例会にも思うように出席できず、ひとりでアダムスキー全集を読み返しているという現状でした。

そこでアダムスキーの言葉「ときどきあなたは高い発達をとげた人と接触することが必要です」を重視して、今回、総会に出席することに決めました。出席するにあたり、私はいくつかの観察点を準備しようとあれこれ考えていました。しかし総会二～三日前にふと「いや、やめよう。気楽な気分で何も考えずに出席しよう」と思ったのです。すると次の言葉が浮かんできました。

「心を静めて好奇心を起こさないようにしてブラザーズの言葉を聞いた。そして後で質問をする機会が与えられた時にはすでにすべての解答が与えられていた」そして「幼児のようになれ」。私は総会に出席する前に一歩前進することができました。

総会ではハンス・ピーターセン氏の生前のアダムスキーの貴重なお話や、氏自身の特異な体験を聞くことができました。そしてなごやかで楽しかった大夕食会と二次会。終わってみれば、はたして私の最初の観察点であった「GAPのメンバーは私が昔から（子供のころから）探しもとめていた人々、同じ種類の人達」であったのです。

三〇歳をいくつか過ぎ、孔子の言う「三〇にして立つ」の意味を知り、今度は「四〇にして惑わず」が見えてきました。三〇代は去るといいます。あせりながら自分の生き方を探している時に出あった「異星訪問奇談」そして「新アダムスキー全集」「日本GAP」。アダムスキーの言うとおり、暗いジャングルで迷っていた私に一点の明りが見えています。遠く小さな明りです。でも強く輝いています。一歩、一歩、体験を通して前進して行こうと思います。

最後になりましたが、新潟からひとりで出席した私をホテル浦島まで一緒に行ってくれるよう札幌支部の方にたのんで下さった星さん、ホテルまでどころか二次会会場への往復までも同行して下さった札幌支部の皆様、二次会では「同質の人達」と感じさせて下さった皆様、その他総会に出席していた皆様に心から感謝します。ありがとうございました。

久保田会長はじめ、それぞれに個性的な本部役員の皆様、ひとりで出席した私に「私は新潟は出雲崎の出身」と言って勇気づけて下さった篠さん、ありがとうございました。また来年も出席します。今から待ちどおしいです。

楽しかったの一語

名古屋市　高原登茂子

九月二二日には最も楽しい総会と夕食会を体験させていただき、ありがとうございました。先生のおっしゃる通りに行動すると電車の乗り継ぎからすべての手続きまでまるで当たり前のようにスムーズに運ぶのが不思議です。お陰様で八回参加させていただいた総会のうちで一番リラックスし、疲れもなくトラブルもなく、「楽しい」という言葉の本当の意味がわかりました。

地球上の天国に自分がいたということ、偉大な指導者達にお会いできたこと、この上にはいかなる哲学も存在しないというほど高度なアダムスキー哲学を研さんできること、などに感謝しています。また、天にいて行なわれることが確実に地においても行なわれることを願ってやみません。

また翌日には前夜の余韻から「パメラ夫人はきれいで陽気だね」とか「ウタ夫人は肝っ玉母さんみたいだ」とか「おちゃめなハンスは今頃京都で何をしているかしら」などと勝手なことをにぎやかに話しながら東京を発ちました。

帰りは晴海埠頭から水上バスで隅田川を上り、浅草雷門あたりを歩き、人形町・魚久の粕漬を買って、おのぼりさんを楽しみました。機械振興会館の月例会へ行く時は渋谷のアンナミラーでケーキを買い、五反田の秋山和広さんのコーヒーショップに立ち寄ろうと思います。ハンス・ピーターセン氏にはまた二年後位にお会いできそうな気がします。彼の愉快さと元気さと旺盛なサービス精神や好奇心は、会場の人全部をトリコにしてしまいました。

講演内容はもちろん素晴らしく、特に彼自身の体験を語るところでは、まるで映画を見ているように身を乗り出して聞き入ってしまいました。どこの惑星にいても深遠な宇宙哲学を広める人には明るさとその人なりの魅力が必要なのだと痛感した次第です。礼儀正しい久保田先生はピーターセン氏がデンマークに帰られたらすぐにお礼状を出されると思いますので、もし間に合いましたら次の内容をお伝え下さい。「今回の講演旅行で日本にハンスのファンがたくさん増えました。一同、またお会いできるのを楽しみにしていますから、条件の許す限り来て下さい」と。

（四九頁へ続く）

本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.115　平成3年10月25日発行　¥900

アダムスキーとUFO問題の真相――ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見！――
28年ぶり宇宙からの帰還!?――
突然消滅した10人の少年少女！――
暗闇から現れた不思議な人々――
円筒型の奇妙な物体を見る――服部哲雄
謎の飛行物体、米子に出没――
UFOの色彩についての一考察――斎藤俊徳
UFOと古代マヤの謎――久保田八郎

No.114　平成3年7月25日発行　¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景――松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン――高木　澪
奇跡を起こす想念の力――遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！――松浦義教
タパヌイの謎の大爆発――ジャン・パジャク博士
アダムスキーの主張は正しかった――ダニエル・ロス

No.113　平成3年4月25日発行　¥900

ファティマの大円盤出現事件――久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則――ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験――中村省三
オーラ透視力開発法――遠藤昭則
壁画の奇跡――永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO――北館博子
クリスマス前のUFO出現――伊藤芳和
私のUFO目撃体験――平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠㈫――ダニエル・ロス

No.112　平成3年1月25日発行　¥900

アダムスキー問題と日本GAP――久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった！――ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)――G.アダムスキー
〈写真〉金星の不思議なスジ模様――
青森県に頻発するUFO出現事件――
UFO-宇宙からの完全な証拠⑭――ダニエル・ロス

No.111　平成2年10月25日発行　¥900

高度に進化した金星人の実態――G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ――久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO――村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ――番場博次
松本市にもフットボール型UFO――茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤――堀江健一
私のテレパシックな不思議人生――郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑬――ダニエル・ロス

No.110　平成2年7月25日発行　¥900

UFOの正体と観測の仕方――本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記――藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法－久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視――遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話――向井　裕
アメリカGAP発足！(完)――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑫――ダニエル・ロス

No.109　平成2年4月25日発行　¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続－G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現！――
デザートセンター円盤着陸事件(2)――久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち――川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー――遠藤昭則/秋山眞人
「アメリカGAP」発足！――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪――ダニエル・ロス

No.108　平成2年1月25日発行　¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則――G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」――久保田八郎
超能力開発の新しい視点――秋山眞人
潜在意識としてのDNA――N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た――小瀬村芙美子
私についてきた光るUFO――郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO――中根　豊
ロイよ、来て助けておくれ！――久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩――ダニエル・ロス

No.107　平成元年10月25日発行　¥900

テレパシー開発法とUFOの実態――G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎――久保田八郎
私はペルーでUFOを見た――富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人(完)――向井　裕
超能力開発の基礎レッスン――斉藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法――遠藤昭則

No.106　平成元年7月25日発行　¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号――G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②――向井　裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法――久保田八郎
ヒーリングとテレパシー――遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察――N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨――ダニエル・ロス

No.105　平成元年4月25日発行　¥900

デザートセンター円盤着陸事件―久保田八郎/篠芳史/坂本貢一・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①――向井　裕
過去生透視法とその実例②――遠藤昭則
輝く星々の彼方へ――斉藤庄一
長野県に巨大UFO出現！――博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧――ダニエル・ロス

No.104　平成元年1月25日発行　¥900

UFO問題と世界の運命――久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助――アリス・ポマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見！－安藤澄雄/久保田八郎
過去世透視法とその実例――遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦――ダニエル・ロス
GAP活動の原理――ダニエル・ロス

No.103　昭和63年10月25日発行　¥900

アダムスキーの体験は真実だった！――アリス・ポマロイ
我らの惑星に愛と希望を――久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現――伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め――富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥――ダニエル・ロス

（四七頁より）

ダニエル・ロス氏に岡部さんがすっかり感動していました。「彼はスピーチを求められるとどんな場合でもピーターセン氏と久保田先生を持ち上げている」。私も全くその通りだと思いました。この偉大な方は両巨頭を称えることを忘れないその謙虚さによって、お二人と同じ王座についておられるのだと思います。

高水準の内容を保持

仙台支部代表　笠原弘可

東北では雨が多く、蒸し暑い毎日です。先生はいかがおすごしでしょうか。海外研修旅行も、無事終了されたことと思います。おつかれさまです。

Uコン一一四号に、テレパシーコールの詳しい報告があり、東京本部始め各地での素晴らしい出現の記事を読みました。大成功を心からお喜び申し上げます。過日、報告の通り当支部では残念ながら小雨混じりの曇天で出現が確認されませんでした。次回を期待したいと思います。

また、一一四号の巻頭言に長年にわたる機関誌発行の、先生の超人的ご努力の一端が記されていました。今更ながら頭の下がる思いがいたしました。私としましては、単に続いただけではなく、もう一つ、「高水準の内容を保持」し続けたことも瞠目に値する事だと思います。私など、先生の宇宙的活動に、長年会員でありながら何のお役にも立てないことを心苦しく思っております。しかし、先生の生き様をもって、お教え頂いています「他人の役に立つ人間になる」ために、今後も努力したいと考えています。いま、鈍い頭を叩きながら少しずつ勉強していることも、必ず他人のためになる日がくることを信じています。

さて、「意識の声」一三号を拝読し、先生の心境が、もはや常人をはるかにこえている感を強くした次第です。古くはソクラテスなども「内なる声」を聞き、それによって直感的に真理を悟っていたと何かで読んだ覚えがあります。あるいは、そんなものよりもっと次元の高いもののような気もします。アダムスキーが我々に示した「宇宙の意識からの啓示によって生きる」このことのようです。今後とも、先生のエッセイを通じて、色々と学ばせて頂きたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

忍耐と努力

名古屋市　宮崎雅子

いつもユーコンの本を届けていただきありがとうございます。

日本GAP創立三〇周年おめでとうございます。私はまだ会員歴の浅い者ですが、久保田先生の長い道のりは本当に困難をのりこえて一歩一歩進んでこられたことと思います。一般的でないことをし続けるということは、どんなに正しいことであろうと、強い信念と忍耐と努力の連続であり、また孤独であり、でも時々喜びもあり、だから未来に希望をもって進めると思います。私はUFOのすごい光景にはまだ遭遇しておりませんが、だいたい身近に存在を感じることはあります。

私たちも一般的に人がしない仕事を始めたために（生産者と協力して有機農産物を扱う店）ありのままに伝えたいことが一杯あって、しかも裾野を広げていくのは困難の連続です。環境も社会も個人のライフスタイルも心のあり方も、すべて関係しているのですから——。お体大切に、今後とも御指導お願い申しあげます。

音楽を耳ではなく肌で聴く

千葉県　すみ　弘

私は本業の治療（カイロプラクティック）の傍ら、或る診断法（いろいろな刺激に対する体の反応をテストする方法）を用いて、音楽のいろいろな演奏を聴きくらべているうちに、音楽を聴覚でなく「肌」で感ずること（アダムスキーの言う『触覚』だと思います）が出来るようになりました。そして人間にとっての音楽の価値、またそれに対して本末転倒した現在の音楽の世界の実情等が意識の上で浮き彫りにされてきました。

現在本当の音楽を演奏出来る演奏者を育てること、本当の音楽が感じられる人を育てる事を目標として、年四回、PVジュニアコンサートを開催しております。音楽の専門家達からの反発も当然予想されますが、私はこのコンサートを続ける必要があると思っております。

前三回は生演奏以外にテープによる演奏の聴きくらべを行いました。耳で聴くのと「肌」で聴く方法を訓練しておいてから実施しましたら八〇パーセント以上の人が正しく「肌」で聞き分けられました。GAPの会員の方で音楽を「肌」で聴く方法に関心のある方はご練絡下さい。

〒二七一　千葉県松戸市北松戸二一十一二　鷲見　弘（すみひろし）

英文版「UFO contactee」No.7　申込先▶日本GAP

B5／12頁／コート紙使用／
¥500（送料¥175／3冊まで¥250）

世界のUFO研究会で注目の的になっている日本GAP発行英文版は、各国UFO研究家や団体が絶賛。UFO問題は国境を越えた宇宙的な要素を帯びていますから、英文による国際版が情報伝達に重要。No.7はコンタクティー春川正一氏（仮名）の宇宙的体験記事「A Young Japanese Man Visits Other Planets」の連載最終回、アダムスキーの質疑応答を掲載。いずれも流麗な英文による貴重な情報源となるもので、英語学習用テキストとしても最適。両記事とも質疑応答形式なので、UFOや宇宙的思想を話題とする高度な英会話の習得に絶好の資料になります。

編集後記

◆本号には久方ぶりに秋山眞人氏の記事を掲載しました。氏の含蓄ある数々の情報には考えさせられます。ロス氏の来日目的の一つは秋山氏に会うことにあったようです。熟読玩味のほどを。

◆「奇跡的に願望を実現させる方法」は素晴らしい指針を与えるものと自負します。少なくとも読んだだけで大いなる自信と希望がわいてくるでしょう。このティーチングをもとにして自己流の方法を編み出してもかまいません。良い結果が出た方はご一報下さい。

◆高梨十光氏の「病気治療の宇宙哲学的応用」も氏の一種の精神身体医学的な卓越した技術を示しています。アダムスキー哲学がただの観念論でなく実際に人間を救うパワーをもつことが分かります。

◆編者の「ミラクル・ワードとミラクル・イメージ」は紙数の都合により充分に述べ切れませんでしたが、次号でもっと詳細に説明するつもりです。

◆東京月例会の日は日曜日のため会場の機械振興会館の正面玄関は閉じられています。右横へ回って地下一階の入口からお入り下さい。エレベーターで地下三階に降りると第二研修室がすぐ近くにあります。

◆UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの不得手な人は面談でも結構です。

◆本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に協力希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。（K）

日本GAP機関誌・季刊　春季号
UFO contactee　116号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511
☎03-3651-0958
振替　東京4-35912
一九九二年一月二五日発行
定価九二七円（本体九〇〇円）・送料210円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

――全面改訂・改訂　全10巻――

久保田八郎・訳／各四六判

CAP 中央アート出版社・発行　〒104 東京都中央区京橋3－7－13 三成ビル5F　☎03(3561)7017●郵便振替 東京8－66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

アダムスキー

❶ 第2惑星からの地球訪問者　352頁・定価1980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

❷ 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他）　192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

❸ 21世紀/生命の科学　208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第５巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

❹ UFO問答100　216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

❺ 金星・土星探訪記　380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と本星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第２部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

❻ UFOの謎　262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第２部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第１巻の続編。

アダムスキー

❼ 21世紀の宇宙哲学　148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第５巻、６巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

❽ UFO・人間・宇宙　370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第２部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

❾ UFOの真相　320頁・定価1980円　1991年4月刊！

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバシル・パン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

❿ 超人ジョージ・アダムスキー　232頁・定価1300円

厖大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ１冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO―宇宙からの完全な証拠　480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料￥120

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料￥62

ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯に便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥900 送料￥120(2～5個￥175)

テレホンカード

日本GAP特製のテレホンカード第5弾。今度はアダムスキーの原書からオーソン氏のスケッチを取り入れました。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターで会見した金星人の姿を目撃者のアリス・ウェルズ女史がスケッチしたものです。

¥1,500 送料10枚まで￥62

GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料￥120

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで￥120

新アダムスキー全集 ★★★★★★★★ 訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!! ★★★★★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。

申込先

住所、氏名、電話番号、商品番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに必要事項をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着するまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 ☎03-3651-0958
日本GAP 振替・東京4-35912

日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京本部月例会

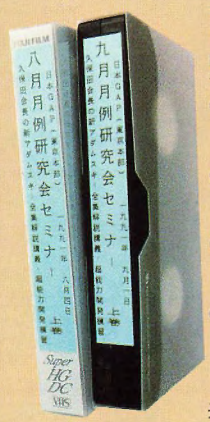
毎月開催される日本GAP東京月例研究会セミナーから、久保田会長の解説講義と質疑応答その他を録音したもの。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきおこり、人生の荒波に屈することなく堂々と前進できます。

- ●テープ① **¥1,300** 送料￥175
  〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集の解説講義。近況報告。
- ●テープ② **¥1,000** 送料￥175
  〈内容〉超能力開発練習。質疑応答。

※①②一括ご注文の場合は送料￥250。
※1990年以前のバックナンバーもあります。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

●1991年度日本GAP総会

2巻セット **¥3,900** 送料￥250
〈内容〉ハンス・ピーターセン氏講演、他。



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- ●**東京月例会セミナー** 全1巻 **¥4,000**
  〈内容〉久保田会長の解説講義、他。約120分。(1990年12月分から在庫有)
- ●**日本GAP総会** 全2巻 各**¥3,000**
  〈内容〉毎年の日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫有)
- ●**日本GAP海外研修旅行** 全1巻 **¥3,000**
  〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫有)
- ●**デンマークGAP大会** 全2巻 各**¥3,000**
  〈内容〉上巻＝久保田会長の講演(英語)、他。英文テキスト(和訳付)もついているので英語学習にも好適!
  下巻＝美しいデンマークの探訪記録。

送料はいずれも1本￥360、2本￥510。

申込先

「商品名」「○年○月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 ☎03-3653-9387
松村 芳之 振替・東京0-162644

申込先

「商品名」「○年○月分」「上・下巻」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。

〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 ☎03-3351-9526
伊東 芳和 振替・東京4-13811

≪平成４年度≫
日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日　　時	会　　場	会費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※２月のみ第３日曜日の16日に変更。 ※５月のみ第２日曜日の10日に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下３Ｆ第２研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約８分。 連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30　会員による講演。 1:30→3:00　久保田会長による講義。 テキスト＝『超能力開発法』 3:10→5:00　超能力開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※１月～10月まで会場と日程変更があるので問い合わせること。	大阪府吹田市出口町４丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-436-3478 平成4年1～10月＝「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他＝東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	新潟市東万代町９「新潟市青年の家」 ☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩５分。 連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562	¥500	同　上
名古屋支部	毎月第２日曜日　午後1:00→4:30 ※４月のみ第３日曜日の19日に変更。	名古屋市中区金山１丁目５番１号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩５分。 連絡先＝林　国宜　☎0586-45-6468	¥300	同　上
仙台支部	毎月第３日曜日　午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ケ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお盥屋橋経由動物公園方面バスで約７～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先＝笠原弘可　☎022-295-0725	¥300	同　上
山形支部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森１丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー４分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	¥300	同　上
札幌支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先＝高野省志　☎011-783-6393	¥500	同　上
旭川支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	旭川市五条４丁目「旭川ときわ市民ホール」３Ｆ 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044	¥500	同　上
沖縄支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	具市川市栄巣野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先＝比嘉政広　☎09893-3-2889	¥500	同　上
秋田支部	毎月第２日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	¥500	同　上
横浜支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※２月のみ第２日曜日の９日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」７Ｆ 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩３分。 連絡先＝滑水　正　☎03-5951-3518	¥500	同　上
茨城支部	毎月第４日曜日　午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝滑水勝一　☎0292-73-1903	¥300	同　上
長野支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	塩尻市大門７番町「塩尻総合文化センター」第１会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先＝博田文喜　☎0263-58-8510	¥500	同　上
紀南会	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」１Ｆ相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩５分。 連絡先＝(副代表)小川隆志　☎0735-32-2834	¥300	同　上
栃木支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」１Ｆ小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩５分。 連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319	¥500	同　上
南九州支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎２丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先＝鶴田滑則　☎0993-25-4398	¥500	同　上
高松支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先＝関 高明　☎0875-72-2698	¥400	同　上

お好みのサブリミナルテープ®を1本（60分テープ デジタル録音）無料進呈！

先着250名限り

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際の効果を試せるベーシックテープ（60分・デジタル録音）をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。

▶今すぐおハガキ・お電話でお申込み下さい。

下のテープの中から、お好みのテープを選べます！

『自分の能力への自信の強化』	『女性への緊張感の除去』
『自分の可能性への確信』	『男性への緊張感の除去』
『ビジネス能力開発への意欲』	『偉大な成功へのイメージを描く』
『本来の自分を取り戻す』	『幸運な人生をめざす』
『自分自身への自信』	『経済的成功への自信』
『人間関係の苦手意識の克服』	『充実人生獲得への自信』
『人間的魅力を養う』	
『自分の魅力に気づく』	

（詳しくは、お届けする案内書をご覧下さい。）

サブリミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけで あなたの人生が変わる！

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数に変換された心理的メッセージ」を同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

■無料サブリミナル・ベーシックテープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上「無料ベーシックテープ案内書と商品券」と下記までお電話・おハガキでお申込み下さい。（お申込みいただきますと、折返し、サブリミナル・ベーシックテープの商品引換券ハガキと詳しい案内書をお送りいたします。）

「サブリミナル・ベーシックテープ案内書と商品引換券」希望
- ●住　所
- ●氏　名
- ●年　令
- ●職　業
- ●電話番号

41円

郵便はがき
〒107
東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社
1489係

お電話でのお申込みは 0120-363002
（受付AM8～PM24、日・祝日も受付中）

〒107 東京都港区南青山1-26-4 アメリカンライブラリー社 1489係

私もサブリミナルテープで絶好調です

▶広瀬綾子（プロテニスプレイヤー）
'91ダンロップ・マスターズのダブルスで優勝し、波に乗って現在人気・実力とも急上昇中の女子プロテニス界の新星。

UFO contactee 16号
一九九二年一月二五日発行
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511
振替 東京4-35912
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円

先着500名様限り、下記までお電話・おハガキで!!

超高速英語学習 英会話テープ(C-30) 無料進呈

サジェストロニクス・ラーニング

『短期間に英会話をマスターしたい』『ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい』『楽しく聴けて、しかも飽きのこないテープがほしい!』——そんな方にぜひお勧めします。

BGMとして楽しんでいるだけで『自然に英語を口ずさみ始める』

●BGM感覚で、聴き流しているだけで、自然に英語が身についてしまうという、ブルガリア出身のI・バルザコフ博士の手になる超高速英語学習テープ『サジェストロニクスラーニングテープ』がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの第1回目のテープ(デジタル録音・C-30)を、この広告をご覧の方500名様に下記のシステムにて無料で差し上げます。今すぐお電話又は、おハガキでお申込み下さい。

I.バルザコフ博士

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓をうけた加速教育ナレーションの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハーモニーをかもし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。

「歌の歌詞を憶えるように自然に頭へ入ってゆく」「何度聴いても飽きがこない」「BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける」というのがこのテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

今回無料でお届けするのは、サジェストロニクス・ラーニング日常会話シリーズ(1)『ジョンとエイミーのお茶漬け日記』の序章テープ。「空港で」「喫茶店で」等々の場面でジョンとエイミーのカップルの会話を通して、日常英会話のエッセンスが効果的に学べるテープです。

『超高速英語学習』序章テープ申込み要項

サジェストロニクス・ラーニングの日常英会話シリーズ「ジョンとエイミーのお茶漬け日記」の序章テープを、次のようなシステムにて無料でお届けします。以下の要項を良くお読みになり、お電話・おハガキにてお申込み下さい。

●序章テープは、日常英会話シリーズの"第0回目の頒布テープ"としてお送りいたします。

●お届けする序章テープは、日常会話シリーズ(1)の、第1回目以降のテープご購入の有無にかかわらず、無条件で無料です。

●序章テープをお申込みいただきますと、日常会話シリーズ(1)の頒布会員に自動的に登録され、キャンセルの通知がない場合は、翌月より第1回目以降のテープを毎月自動的にお送りいたします。

●第1回目以降は一年単位の会員制の頒布会方式でお届けします。毎月いろいろな場面での基本会話が効果的に学べるテープを一巻ずつお届けしてゆきます。お支払いは毎月テープ到着後に、4,260円。

第1回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。又、途中退会も自由です。

●序章テープをご使用の結果、ご満足いただけなかった場合は、テープ到着より3週間以内に「キャンセル」のご連絡を電話かテープに同封されるキャンセル用ハガキにていただければ、第1回目以降のテープは発送されず、そのまま「退会」となります。

●「キャンセル」の場合でも、お届けした序章テープのご返品は必要ありません。そのままご愛用ください。

■「超高速英語学習」序章テープをご希望の方は、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「序章テープ希望」と左記まで、おハガキまたはお電話でお申込み下さい。(序章テープの返品の義務や商品購入の義務は全くありませんので安心してお申込み下さい。)

注意=序章テープのお申込みは16才以上の方に限らせていただきます。

超高速英語学習
「序章テープ希望」
●住　所
●氏　名
●年　令
●職　業
●電話番号

41
郵便はがき
〒107
東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社
1490係

お電話でのお申込みは
フリーダイヤル 0120-363-002
通話料無料
(受付時間AM8:00～PM24:00 日・祝日も受付中)